

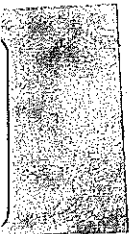
a

田 顧

-二十年 歩み-

昭和五十二年

日本化学会北海道支部



表題は初代支部長、北海道大学 教授 故太泰康光氏の揮毫による

偶成

太秦康光

雁去燕來夫幾度
支部結束逐年回
同志相濟三十年
北邊文化為甚拳

偶 成

太秦康光

雁 去_リ 燕 来_{ルコト} 夫_レ 幾 度

支 部_、 結 束 逐_{フテ} 年_ヲ 固_ク

同 志 相 濟_ク 三 十 年

北 邊_、 文 化 為_ニ 甚_ダ 拳_ル

ま え が き

日本化学会北海道支部長 野 口 順 蔵

終戦後、昭和28年に日本化学会と工業化学会とが合併して、新しい日本の化学団体としての日本化学会が再編成され、北海道支部が設立されました。それで、昭和58年は、日本化学会北海道支部設立30周年に当るのみならず、日本化学会創立100周年記念にも当たります。

北海道の化学的役割は、林業化学としての木材、紙パルプ工業、製鉄、石炭化学工業、食品化学工業、水産化学工業等の地域産業と、密接な関係を保って歩んできました。

設立当初の日本化学会北海道支部会員は、約390名でありましたが、30周年を迎える現在では約670名に達しています。しかし、現在では地域的な事情もあり、他地区の支部に比べて未だ会員数は少ないとは思いますが、未開発地も広大で潜在的エネルギーがあり、社会環境と共に日本化学会の設立主旨に沿っての活動を必要としており、今後の発展が大いに期待できます。

今日まで支部の活動発展に尽力されてきた多くの先輩会員諸氏に心からの敬意と感謝の念を捧げると共に今後の発展を祈り、日本化学会創立100周年記念行事の一環として、又支部設立30周年の祝典として式典・講演会・祝賀会・研究発表会並びに記念出版を計画しました。

本小冊子は記念出版として支部30周年の歩みを回想したもので、支部全会員に配布し、北海道支部発展の1つの里程標となれば幸いです。なお、表題は、昭和58年5月中旬、故北海道大学名誉教授太秦康光先生が、本記念誌のために、御病床中特に揮毫いただいたものであり、これに先生の御署名を御願いしたところ、偶成をつけていただきました。図らずも、先生の絶筆となりましたが、初代支部長としての先生の御熱意に感謝すると共に御冥福をお祈り致します。

資料の収集・調査・編集に当たられた記念出版専門委員並びにそれに協力された方々に深く謝意を表します。

目 次

I	浴 革	1
II	日本化学会北海道支部三十年回顧録	2
	1. 黎明期における北海道化学界	丹 羽 貴知蔵 2
	2. ロビンソン博士招へい記	大 塚 博 8
	3. 支部全国大会をかえりみて	久 郷 昌 夫 11
III	北海道支部年表	16
IV	役員等名簿	32
V	資料集	41
VI	日本化学会創立百周年・北海道支部設立30周年記念事業	86
	編集後記	90

I. 沿革

- 昭和 9 年 12 月 北海道化学協会設立、会報第 1 号発行
- 昭和 15 年 4 月 田所哲太郎氏旧日本化学会会長就任
- 昭和 15 年 7 月 旧日本化学会年会開催（札幌市）
- 昭和 23 年 6 月 日本化学会・工業化学会合併に伴い、日本化学会北海道支部
設立、発会式を開催
- 1948 昭和 23 年 7 月 第 1 回常会、而後昭和 46 年まで年 1～3 回の常会および講
演会を開催
- 昭和 24 年 7 月 日本化学会北海道地方大会
- 昭和 26 年 9 月 触媒討論会、而後折に触れて各種の討論会を開催
- 昭和 28 年 9 月 支部地方大会（函館市）、以後道内各地で廻り持ち開催
- 昭和 30 年 7 月 日本化学会北海道地方大会
- 昭和 35 年 7 月 日本化学会北海道地方大会
- 昭和 35 年 9 月 化学教育討論会、これより先昭和 29 年より化学教育懇談会
を時折開催、昭和 38 年に化学教育研究協議会と改称し毎年開
催
- 昭和 40 年 7 月 日本化学会北海道大会
- 昭和 42 年 3 月 杉野目晴貞氏日本化学会会長就任
- 昭和 45 年 8 月 日本化学会・学協会連合秋季大会
- 1971 昭和 46 年 2 月 支部冬期研究発表会、以後常会を廃し毎年夏期（道内各地）
および冬期（札幌）の 2 つの研究発表会を行うことに決定
- 昭和 48 年 6 月 支部夏期セミナー（北見市）、以後毎年各地区において開催
- 昭和 51 年 8 月 日本化学会第 35 秋季年会
- 昭和 53 年 7 月 支部創立 30 周年記念事業

Ⅱ 日本化学会北海道支部三十年回顧録

1. 黎明期における北海道化学会

丹 羽 貴知蔵

札幌理化会の結成

北海道帝国大学理学部は、昭和5年4月1日をもって開学されたが、学会活動の開始されたのは、第3年目に入ってからのことである。

すなわち、昭和7年4月4、5両日京都帝大工学部で開催された日本化学会第54年会上、杉野目晴貞教授と柴田善一助教授(当時)が化学教室から始めて出席された。このとき、柴田助教授引率の化学科学生見学団も、上記化学会年会の見学に便乗して染物工場、太泰スタジオ等を参観した。

この年、休暇中の出来事として、8月2日から11日間、理学部において、中等学校物理および化学科教員講習会が開かれ、田所哲太郎教授は蛋白質化学を、富永斉教授は化学反応速度論をそれぞれ講義した。

昭和8年4月6、7両日東京帝大において日本化学会第55年会有り、化学教室からも富永斉、杉野目晴貞、太泰康光、柴田善一の各教授を始め岡本剛、三宅泰雄、森一郎、高岡道夫の諸氏出席、それぞれ研究業績を発表した。

前年度夏期休暇中に行われた講習会が動機となり、在札物理化学中等教員を会員とする札幌理化会が結成され、昭和9年2月14日にはその第1回例会が理学部で開かれて、富永教授が同位元素と水素に関する講演を試みた。

昭和9年4月5、6両日大阪帝大において日本化学会第56年会有り、教室からも、太泰、岡本、上野清、高岡、三宅、梅沢純夫の諸氏が出席、研究発表を行った。

北海道化学協会の誕生

昭和9年の春以来富永教授を中心として北海道化学協会の設立が計画されていたが、その機熟して5月19日には理学部会議室で発起人会が行われ、更に7月1日には北大中央講堂で創立総会が華々しく挙行された。地方文化の中核体となって、科学知識の普及振興に力を尽すのも亦われわれの務めの一つであるから、農工医理の化学関係者を打って一丸とするこのような会の設立も、当時としては極めて意義あることと思われた。富永、杉野目両教授はその幹事に就任し、また杉野目教授はこの日、「北海道産薬用植物の成分」について講演した。

この年の9月29日には前記札幌理化学会の第2回例会が行われ、杉野目教授が「動物色素に就て」なる講演を試みた。

同年12月には、北海道化学協会会報第1号が発刊された。その内容は、後に紹介する三宅康次会長の「発刊の辞」に次いで、佐上信一北海道庁長官の「北海道の理想の姿」、杉野目晴貞教授の「北海道産業用植物の成分について」、「フラヴィン(Flavine) ヴィタミンB₂と同一生理作用を有する天然色素」、北海道工業試験場赤木救場長の「北海道の新工業」、田所哲太郎教授の「最近のホルモン生化学概要」、水産試験場五十嵐彦仁氏の「水産上より見た湖沼と水質研究史」、富永斉教授の「北海道と化学」などで、特筆に値するのは三宅会長の発刊の辞で、後輩のためにここに再録させて戴くこととする。

「北部日本の開発日尚ほ浅しと雖も各般の施設そのよろしきを得、産業の進歩発達日に月に目覚しきものあり、その産額今や数億円を数ふるに至れり。然りと雖もつぶさにその現状を稽查するに未だ模倣的原始産業の域を脱せず。これ拓地殖民の道程にして止むを得ざるものなりと雖もこれが有終の美をはかるにはすべからく自然の環境に則したる特殊産業の開発によらざるべからず、就中天然資源を利用しその経済的価値を高むる化学に基く工業の発達に俟つもの多しと謂ふべし。而してこれが進歩発達を期するには、一に学理の探究とこれが応用とによらざるべからず。抑學術の進歩と産業の振興とは唇齒輔車の如く一日として離るべからず、微に入り細に巨り分化する学界、業界の現状はもとより喜ぶべしと雖も徒にその伸展を放任せんか各々独自の分野にのみ没頭し相互の連絡を欠き斯界の向上に遺憾あるべきは敢て想像に難からず、この時にあたり為政者、実務家、学究者の何れたるを問はず相寄り相授けて一致団結、その伸展に力を致さば斯界の隆昌は火を睹るより明かなるべし。本邦にあっては己に日本學術協会の設立せらるゝありてその業績亦見るべきものありと雖も本州、四国、九州地方とはその環境を異にし開拓途上に在る北海道樺太の如きにあつてはこの種の地方的機関設立の翹望せむるゝも亦久しきを覚ゆ。この時あだかも北海道化学協会の設立を見たるは洵に時宜を得たるものと謂ふべく、邦家の為め慶賀に堪えざるところなり。

本協会は広く北部日本在住の純正、応用、農芸、林産、医学、薬学等の化学に関係を有するものを会員とし、会員相互の親睦をはかり、一面學術の進歩発達に貢献し、他面業界の向上発展を期するを以て目的とするものにして、これが目的達成の爲め本会報発刊せらる。希くは会員各位益々本会を鞭撻して協力翼賛、本会報をしてその使命を遂行し以て協会所期の目的を達成せしめられんことを。然らば北部日本文化の向上も亦期して俟つべきなり。

一言以て発刊の辞となす。」

文体の示すように、文語体であり、会則そのものも同様、第1号から第8号(昭和11年10月)までは縦書きであり、横書きに改められたのは第9号(昭和12年1月)からである。

当初の会員は前記発刊の辞にもあるように、北部日本の官界、業界、学界の凡そ化学に関係ある各

分野を網羅し、計288名、中には、雪印乳業の現相談役、佐藤貢氏、日本製鋼所の現会長、小林佐三郎博士、昨年他界された日の丸産業の松本菊次郎氏なども含まれている。

昭和10年4月4、5両日東大において日本化学会第57年会有り、化学科の教授、助教授、助手の諸先生の他に、この年から卒業生数名が出席講演するに到った。この月、化学協会報第2号が発行され、北海道農業試験場安孫給孝次場長の「本道の農産加工に就て」、農学部高橋栄治教授の「海藻中2、3の特殊成分に就て」、太秦康光教授の「化学分析における螢光現象の応用」、岡本剛助教授の「電解に依る結晶の生長機構」などが寄稿された。

同年6月29日には化学協会の第2回総会有り、三宅会長の「創立1周年を迎えて」の挨拶は、柴田善一教授の「鉱産物を中心とした北海道の工業の将来」、奥野久輝講師の「ヘリウムと地質年代の問題」ほか5件の寄稿とともに、同年7月に発行された会報第3号に収録されている。また、同年10月に発行された第4号には、第2回総会のあと公開講演された堀内寿郎教授の「滞欧雑感」、杉井善雄薬局長の「1934年度に於ける新薬紹介」、多和田寛助教授の「燃料工業の将来と北海道」、白浜潔助教授の「北海道の開拓と札幌農学校に於ける化学」ほか1件が掲載されている。

昭和11年1月に発行された化学協会会報第5号からは、その内容の主要部分を、論述、抄録、随録、座談会等に分け、論述には、農学部伊藤光治助教授の「気象及至豊凶の差異に依る穀実蛋白の特質化」外1件、抄録には半沢道郎氏「催涙剤に就て」、随録には小谷野格文講師の「学問と人格」、座談会としては「資源開発第1回座談会」及び「その第2回」が収録されている。この年の4月2、3日の両日東北帝大法文の教室で日本化学会の第58年会有り開催され、化学教室からも杉野目、太秦、柴田、堀内、小谷野、岡本、上野、広田、高岡、丹羽、梅沢、半沢、北川の諸氏が出席し、提出論文は11を算えた。同じ月に、化学協会会報第6号が発行され、講述として斎藤孝次郎助教授の「揮発油の話」外1件「資源開発第3回及び第4回座談会」が掲載された。同年6月27日化学協会の第3回総会有り開催され、三宅会長の演述「創立2周年に際して」は、他の講述、集報、丹羽貴知蔵の「蒸気圧の測定方法に就て」、「資源開発第5回座談会」などとともに7月に発行された会報第5号に収録されている。8月22日、化学協会初めての地方講演会有り旭川で開催され、化学教室よりは杉野目、柴田の諸教授外数名が同地に向う、太秦教授は「学術研究と産業」なる題で講演されたが、遺憾ながらこの会は成功とはいわれなかった。同年10月会報第8号が、講演「北海道と缶詰業」「北海道の甜菜糖業」、講述真崎健夫教授の「有機色素の薬理及び其の応用概説」、抄録、太秦教授の「分析に於ける吸着現象」、渡部清一氏の「超音波と化学的研究」などの内容で発行された。

昭和12年1月化学協会会報第9号が発行され、前にも述べたようにこの号より横書きが採用され、その内容も燃料問題、産業、進歩概説、道樺彙報等のトピック別に改められ「燃料問題を語る(座談会)」、「大谷光瑞氏に本道の産業を聴く」、黒澤西蔵氏の「北方農業と酪農関係」、太秦教授の「学術研究と産業」外2件、進歩概説として上野清氏の「有機化合物の触媒作用」などであった。同

年4月2日より3日間東大において日本化学会第59年会が開かれ、化学教室よりは約20の論文が提出された。同じ4月には化学協会会報第10号が発行され、赤木救祝の「燃料問題と酒精」、堀義路教授の「化学工業工場としての北海道」、「北海道と化学工業(座談会)」、畜産資源として村田喜一氏の「北海道に於ける乳製品資源の展望」、学界警見3件等が掲載されている。同年6月26日、化学協会第4回総会が行われ、三宅会長の講演は、資源問題、「北海道の電力資源(第9回座談会)」、「樺太の資源開発(第10回座談会)」、燃料問題、「大島博士に燃料問題を聴く(第11回座談会)」外1件、学界警見2件とともに会報第11号に収録されている(第4回総会当日の記念撮影一繰込み)。同年10月には会報第12号が発行され、産業と資源、川口正名氏の「本邦製鉄の現状と将来」、福山伍郎教授の「北海道のパルプ資源に就て」、中根俊雄氏の「本道窯業の現況について」、水産化学1件、学界警見3件等が掲載された。

昭和13年1月、化学協会会報第13号が発行された。その内容は、産業問題、斎藤繁雄氏の「瓦斯コークス処理問題と化学工業」、「電力の管理(第12回座談会)」、研究展望3件、雑録2件などである。同年4月5日より3日間京大で日本化学会第60年会が開催され、化学教室から諸先生の外、化学科卒業生の出席8氏に及び、提出論文は17を算した。同月化学協会会報第14号が出され、産業問題2件、研究展望3件、雑録1件等が含まれている。5月14日には室蘭で化学協会座談会があり化学教室より杉野目、太秦、柴田の3教授外数名が参加した。6月26日には化学協会第5回総



4回総会当日の記念撮影

会が大同生命館講堂で行われた。三宅会長の挨拶は、産業問題、「鉄を語る（第18回座談会）」、茅誠司教授の「鉄の磁性に就いて」、甲藤新氏の「北海道に於ける製鉄製鋼の原料並に材料に就て」ほか1件、研究展望、中村幸彦教授の「植物性ホルモン或は成長素」外3件、雑録2件とともに同年7月に発行された会報第15号に掲載されている。同年10月、会報第16号が発行され、研究展望、中村幸彦教授の「生物化学の最近の進歩」、天野智恵美氏の「超音波の生理的作用に就いて」、島崎英一氏の「インデウムの化学」、高杉直幹氏の「重水素をIndicatorとして動物体内の新陳代謝の研究」外1件、雑録4件などが収録されている。同年11月5日には函館で化学協会の地方講演会があり、化学教室からも諸先生が参加され、田所教授は「ビタミンの話」、又仙台より熊来道された富永教授は「海水の物理化学」を講演された。

昭和14年1月、化学協会会報第17号が発行され、燃料問題シンポジウム（其一）、佐山総平教授の「石炭の生産に就て」、斎藤繁雄氏の「石炭の利用に就て」など、産業及資源問題として、「本道のパルプ問題に就て」、「北海道の鉱物資源」など、進歩概説として、田所教授の「ビタミンの話」等が掲載された。同年4月初日本化学会の年会が東大で開催され、化学教室よりの提出論文は24の多数に及んだ。同じ月化学協会会報第18号が発行され、燃料問題シンポジウム（其二、三）、大島義清教授の「燃料問題最近の趨勢」、大塚博助教授の「航空燃料の合成に就て」、また杉野目教授の「代用品の化学」などが収録された。同年6月24日化学協会の第6回総会が行われ、創立以来会長の職にあって会の為に尽された農芸化学の三宅教授が勇退されたので、田所哲太郎教授が代って会長に就任された。同会長の総会における挨拶は会報第19号に、他の4件の報文並に第1号より第19号迄の著者名、事物及び研究抄録、事物索引と共に掲載されている。10月には会報第20号が発行されたが、この号より縦来の事項別分類をなくし、学術寄稿を一括して総覧できるようにされた。

昭和15年1月化学協会会報第21号が発行され、小栗捨蔵氏の「パルプに就て」、内田壯氏の「我国の化学工業の発達」、横山武一氏の「北海道の資源と高圧化学工業」、佐野正夫氏の「砂鉄製錬に就て」などが収録された。6月には会報第22号が出され、その内容は大島義清氏の「新興燃料工業の特異性」外4件などであった。昭和15年度の日本化学会年会は7月15日より3日間札幌で開催され、発表会も盛会、初めての試みである討論会も聴衆は文字通り堂に溢れ、廊下に椅子を積んでその上から傍聴するという物凄い有様であった。10月には化学協会会報第23号が発行され、田所会長の挨拶外7件の寄稿が収録された。11月30日には日本化学会、工業化学会、日本農芸化学会、日本薬学会の連合講演会が東京上野科学博物館で開催された。これはやはり皇紀2600年を記念するため田所日代会長が企画されたもので、田所教授の熱意よく人を動かし、全く予想以上の盛会裡に会を終始することができた。この年の12月、化学協会会報第24号が発行され、杉野目教授の「有機化学の進歩を顧みて」外4件の寄稿、創刊号以来2度目の会員名簿などが掲載された。名誉会員15名、賛助会員（会社、事業所など）62名、通常会員342名、計419名で、創立当初の約1倍半

となった訳である。

昭和16年2月、化学協学会報第25号が発行され、田所会長の「生物体内に就ける触媒作用」外5件が掲載された。この年日本化学会は新たに社団法人として認可されたので、その第1回総会が4月3日東京で開かれ、引き続き第63年会がこの日から3日間に亘り開催され、化学教室からも多数の研究発表があり、田所教授は前期会長として「デヒドロゲナーゼ」に関する特別講演を行った。6月には化学協学会報第26号が出され、林嘉吉氏の「時局下の本道化学工業」外5件の寄稿があった。8月には第27号が、田所会長の挨拶、正宗一教授の「糖蛋白質化学の過去と現在」、奥野久輝助教授の「河川の化学から」、石塚喜明助教授の「肥料の史的発展」などを内容として発行され、10月には第28号が白浜潔助教授の「海藻の化学的利用に就て」外4件の寄稿を得て出版された。

昭和17年3月、化学協学会報第29号が伊藤光治助教授の「食糧確保に対する十勝の使命」外2件などの内容にて発行された。日本化学会の第2回定期総会並びに第64年会は4月大阪にて開催されたが、時局緊迫のため例年のような研究発表はなく、特別講演だけであった。従って化学教室からは誰も参加しなかった。同じ月化学協学会報第30号が発行され、高田幸二氏の「医薬品原料としての水産物」、斎藤恒行氏の「ビタミンBと脂肪代謝」外3件とともに掲載された。10月には第31号が田所会長の挨拶、佐藤貢氏の「大東亜共栄圏と乳製品」外3件などを内容として出版された。

昭和18年4月、化学協学会報第32号が特に「大東亜号」と記念して、鈴木醇教授の「大東亜共栄圏内の鉱産資源」、大塚博教授の「大東亜戦争と燃料問題」、林嘉吉氏の「本道資源と南方資源の相関性」、丸山潤三氏の「大東亜共栄圏に於ける糖業に就て」などの内容にて発刊され、戦争の熾烈さとともにこの号が北海道化学協学会報としては最終号となったのである。日本化学会第8回総会並びに第65年会は4月4、5の両日東京工大にて開催され研究発表も行われたので、化学教室からも相当の人員が参加した。但し会期中には屢々警戒警報が発令され、2日目の祝宴も燈火管制下でひそかに開催されたのであった。

昭和19年に入り世は既に超非常時となり、化学会も事務的な総会だけで研究発表はなかった。

昭和20年も勿論化学会の年会はなく、月々の常会さえ空襲警報のため殆ど流会となる有様であった。

昭和21年、22年もともに化学会の総会、年会はなかった。

新社団法人日本化学会の成立

昭和23年に入り旧来の日本化学会は発展的に解消し、工業化学会と合併して新たに社団法人日本化学会が成立した。そしてその第1年会の関東部会が4月3、4両日東京にて開催され、多数の研究発表があった。この種の大会としては終戦以後始めての大規模なものであった。

北海道に於ても支部を結成することとなりかねて準備中であつたが、5月31日発起人会も終り、

6月19日発会式を挙、太秦康光教授が初代支部長に就任された。

2. ロビンソン博士招へい記

大塚 博

日本化学会北海道支部が本年創立30年を迎えられたことは真に慶賀にたえない。

終戦後工業化学会と日本化学会が合体されて現在の日本化学会となり、これを機に昭和28年に北海道支部が設立されたわけであるが、それ以前昭和9年頃から、北海道には学界、業界の化学関係者を広く網羅した北海道化学協会というものが設立されていた。この団体は化学関係者の親睦団体であるとともに化学知識に関する啓蒙的な活動も行っていた。この北海道化学協会が基盤となって極めて円滑に日本化学会北海道支部が設立されたと言っても過言ではあるまい。

昭和28年度に、私は日本化学会北海道支部長に選ばれた。この年は日本化学会創立75周年にあたり、その記念事業の一つとして、英国からロビンソン博士、米国からエグロフ博士、西独からレベル博士を招き、この3氏による特別講演会が東京に於て開催された。

ロビンソン博士は杉野目晴貞先生の英国留学時代の恩師であるので、杉野目先生が中心となってロビンソン博士夫妻を北海道にお招きして特別講演をしていたことが計画され、日本化学会北海道支部がそのお世話を引受けることになった。当時は食糧事情も交通事情もまだ十分に回復していなかったもので世話役の苦勞は相当のもので、25年経過した今でも当時の事がらをはっきり記憶している。この中には色々の珍談もあるので、北海道支部初期の行事の一つとして「ロビンソン博士招へい記」を紹介して執筆の責をふさぎたいと思う。

ロビンソン博士夫妻は東京まで出迎えにゆかれた杉野目先生とともに10月30日午後千歳空港に到着された。この年の秋、札幌から千歳空港までの舗装道路が完成し(当時弾丸道路と呼ばれた)、11月1日から一般に開放されることになっていた。それを杉野目先生は10月30日にロビンソン博士夫妻を乗せて通ってみたいと言われるのである。幸い開発局の幹部に北大工学部出身の方が何人かおられたので、開発局にお願いして開発局の旗をかり、これを大学の車の前につけて無事札幌-千歳間の弾丸道路を往復することが出来た。

翌31日には北大農学部講堂で、ロビンソン博士の「有機天然物化学構造の関連性」と題する特別講演があった。ロビンソン博士はアルカロイドの構造研究の権威であるが、講演の内容は、アルカロイドの構造をみると、これがいくつかの異なる単位構造の組合せでできていることがわかる。これ等の単位構造の結合の様式が異なると別種のアルカロイドができるというようなもので非常に示唆に

んだ話であった。ロビンソン博士も、講演の途中で物音がすると、「Someone shot!」などと冗談を言われる位真に上機嫌であった。講演が終ってから、講演の主催が北海道支部になっている関係から、支部長として講演に対する謝辞を英語で述べなければいけない羽目になり、こんな時に支部長にあたった身の不運を嘆いたものである。講演終了後はロビンソン博士は理学部で化学系の教官と懇談することになっていたらしいが、杉野目先生が夜の歓迎パーティーまでの間、完全に博士を独占してしまわれたので、どうやらこの計画はご破算になった模様である。

さて、翌日からは、札幌→中山峠→洞爺湖(少憩)→壮瞥→登別(1泊)→白老→苫小牧→支笏湖(少憩)→千歳空港の1泊2日のコースのエキスカージンにてかけるわけであるが、これには車が2台必要である。当時大学ではこの旅行に使える車が1台しか調達出来なかったので、我々世話役が乗る車を道庁から借用することにした。杉野目先生から、この件に関しては道庁に了解がとってあるとの連絡をうけていたので、出発の2、3日前、時間その他の打合せに道庁の秘書課に行った処、話が全然通っていないのである。その中秘書課長が、先日杉野目先生がお見えになって、私の肩をポンとたたくいて、「よろしく」と言って出ていかれましたが、その話でしたか、という仕末である。あわて、詳細な話をして、秘書課長に三拝九拝して車の借用の了承を得て事なきを得たが、この杉野目流のやり方には腹が立つより先におかしくなった。この辺が先生の人徳というものであろう。

11月1日、ロビンソン博士夫妻と杉野目、太秦両先生が大学の車に乗り、私と当時副支部長の東庄の横川氏、支部幹事の北大工学部の伊藤、青村両氏、当時杉野目先生の処の助教授であった松本氏が道庁の車に乗って札幌グランドホテルを出発して中山峠へ向った。今と異なり全コース未舗装であるから相当の強行軍である。中山峠からの下り道には深い車輪の跡がついていて、これにはまるでディフをするおそれがある。我々の乗った道庁の車は要心しながらそろそろ下っていったが、大学の車の運転手君はかなりの年輩の人なのにどんどん飛ばして、我々の車より大分早く洞爺湖についていた。洞爺湖では、英国の習慣のtea timeを持つことになっていたが、紅茶や菓子類は全部我々の車の方に積んであるので、無駄ないそぎ方をしたもので、後述するように、このためにえらい目に会うことになった。

洞爺湖温泉町を出発して、壮瞥で昭和新山の奇観を眺めてこの日の宿舎登別グランドホテルに入った時はかなりうす暗くなっていた。伊藤、青村、松本の3氏はこの晩は日本製鋼のクラブに宿泊した。

ロビンソン博士夫妻は翌2日午後6時頃千歳発の飛行機で出発されるので、充分な夕食がとれないと思ったので、ホテルにつくとすぐ料理長に会って事情を話し、博士夫妻の好物といわれるローストチキンとサンドウィッチを夫々2人前づつくってもらい承諾を得た。

明けて11月2日は相憎くの雨で、しかも相当の降りである。未だ朝食もすまない頃、大学の車の運転手君がしょんぼりとしてやって来て、ディフのカバーに穴があいてオイルが流れ出てしまったと言うのである。前日中山峠の下りで無理をして飛ばしたことが原因であることは明らかである。今更怒

ってもどうにもならないし、とにかく登別温泉までたどりつけたのは不幸中の幸であった。

この日のコースは登別温泉→白老→苫小牧→支笏湖→千歳空港であるから、午後から出発しても充分間に合うので、登別グランドホテルの下にある道南バスの修理工場にてかけて修理を頼んだ処、非常に厚意的で、午前中に修理を完了する確約を得て一安心した。運転手君には道庁の車で室蘭に戻りオイルを買って来てもらうことにした。当時のことなので、室蘭でのオイル入手にもかなり苦労したようであるが、とにかくオイルを手にいれて午前中にホテルに帰って来た。

ロビンソン夫妻や杉野目先生は、こんなことで裏方が目の色変えて飛んであるいていることなどは全然御存知なく、午前中ゆっくり休養されて、午後御機嫌麗しく御出発となった。

この日のスケジュールは、我々世話役が道庁の車で先行して、苫小牧から支笏湖畔に直行し、湖畔の翠明閣で休憩してお茶の支度をしておく、ロビンソン博士等は途中白老によってから、おくれて支笏湖畔に到着、tea time を過されてから千歳空港に向うということになっていた。

我々は予定通り支笏湖畔の翠明閣に到着し、お茶の用意をして待っていたが、大学の車が仲々現れない。又何かやってくれたかとそろそろ心配になって来た頃、杉野目先生から翠明閣に電話があり、雨が降っているし、薄暗くもなっているので、支笏湖畔に行っても仕方がないので、今苫小牧の王子製紙のクラブに寄って休ましてもらっている。こちらは直接千歳空港に行くから空港で会おうと言うわけである。当初のスケジュールでは、苫小牧の王子製紙のクラブにお世話になることになっていたが、支笏湖にまわることになったためにクラブ訪問は中止の旨の連絡を予め会社の方にしてあったので、クラブではさだめしあわてたことと思う。

我々も支笏湖畔で待っていても無駄なのですぐ空港に向うこととし、飛行機出発の小1時間前に千歳空港に到着した。処が待てどくらせどロビンソン博士一行が現われないのである。我々がギリギリして待っている中に出発時刻はどんどん迫り、とうとう塔乗手続め切りのアナウンスが始められた。あわてて日航の係員の処に飛んでゆき、今我々が待っているのは外国の大切なお客さんで、この飛行機に乗りおくれると、この後の予定が全部狂ってしまう。苫小牧をでてこちらに向っていることは確認しているのだから、どうか少し待ってくれと交渉して、やっと15分位待ってもらうことを承諾してもらった。その猶予時間も殆どなくなり、遂に駄目かと思った頃やっと空港に向って走ってくる自動車のヘッドライトが見えた。ロビンソン夫妻は車からころがり出すように出てこられて、東京まで送ってゆかれる杉野目先生とともに挨拶もそこそこに係員にせきたてられて飛行機の方にいそがれた。この間に私は杉野目先生にローストチキンの包みとサンドウィッチの包みを渡して、ロビンソン夫妻にあげて夜食にしてもらって下さいと言ったのであるがあわてゝいる先生の頭に充分に入っていないかったらしい。

一行を乗せた飛行機は直ちに飛び立って夜空に消えてゆき、世話人一同ヤレヤレと言うことになったが、気がついてみると大学の車に同乗された太秦先生の靴やズボンが泥だらけになっている。太秦

先生の話では、大学の車は苫小牧を出発、早来経由で千歳に向ったが、途中ぬかるみにはまり込んで動けなくなってしまい、折よく通りかゝったバスに引出してもらってやっと事無きを得たとのことである。車のおくれた原因は此処にあったわけで、ぬかるみをぬけ出してから悪路を80キロ位のスピードで飛ばして来たらしい。

ロビンソン博士夫人は訪日の翌年なくなられた。夫人の訃報を聞いた時に、悪路の長いドライブが身体に悪かったのではないかと気になった。我々が心配して大丈夫ですかと聞く度に、I'm all right とか、quite comfortable とか言っておられたが。

ロビンソン博士夫妻の離日を見送って札幌に帰られた杉野目先生と私との間に次の様な問答があった。

「大塚君、君は飛行機の中でローストチキンが出るといったがそんなものは出なかったよ」「機内食でそんな気の利いたものが出る筈はありませんよ。私が千歳空港でロビンソン博士夫妻の夜食と言ってローストチキンの包みとサンドウィッチの包みをお渡したでしょう。それを感ちがいでおられるのではないですか。あの2つの包みはどうされました？」

「ロビンソン夫人に2つとも渡した。そしたら夫人が1つあればよいと言って1つを私にくれたよ（此処でローストチキンとサンドウィッチは泣き別れとなる）。

「先生の方の包みには何が入っていましたか」

「その包みは、羽田空港に迎えに来てもらった武田製菓の車の運転手君に進呈したので内味はわからない」

このような次第で、ロビンソン夫妻既に亡く、杉野目先生も故人となられた今日、ロビンソン博士夫妻に渡った包の内味は永遠の謎となってしまったわけである。

3. 支部全国大会をかえりみて

久 郷 昌 夫

昭和28年に北海道支部が発足しているが、その準備打合せ会が理学部の大会議室で、杉野目、太秦、大塚各先生が集まって開かれ、発足の決定と企画が行なわれたのを覚えている。28年と言えば、戦後の混迷期で、欧州では西独政府樹立、ソ連のベルリン封鎖など米ソ関係の極度に緊張した時であり、一面米国のマーシャル援助計画により産業回復に懸命の時代でした。

すぐ翌年に第一回北海道地方大会を、理学部で開催しているが、この時は筆者は会計幹事を現在水産学部教授の西村雅吉氏とやらされている。この頃の本道は水力とならぶ根幹エネルギー資源である

石炭の産地として全国の注目をあびており、また農産、水産物生産基地としても鼻息が荒く、北海道独立論を唱える人もあった程である。

6年後の昭和30年の第2回大会は、佐藤久次先生が支部長、高杉直幹先生副支部長で開催されているが、この時市内見学後、郊外の月寒で当時始まったばかりで珍しかった野外ジンギスカン料理を試食したが、その一風景が写真(1)である。左正面に当時日本化学会副会長であった岡本剛先生、左側



写真(1) 月寒での野外ジンギスカン料理会食風景

太秦先生、1人おいて右側杉野目先生で、後方に白髪で有名な佐藤久次先生が見られる。この年は化学工業界が各国ともブームの年で、特にプラスチック、人造セylon、石油化学の進展が著しく、研究面では合成ゴム、ソーヤワクチン、さらにK.Zieglerの低圧ポリエチレン、Nattaのisotacticポリマー、Kochプロセスなど全く百花繚乱の年であった。本道でもセメント、製紙面で大きな飛躍の年であり、富士セメント(現在の日鉄セメント)、北海パイプ、北海道ガス工業(カーボンブラック)等が軌道にのり、北海道の工業開発も大分油がのってきた頃である。したがって研究者、技術者の不足が全国的に目立ちはじめ、これが工学系講座の大増設につながっていくのであるが、一方、労働力不足から自動化の傾向が顕著となってきた。

35年には、第3回大会を控え、初代および27年と既に2回支部長をされた太秦先生を3度目の大物支部長としてかつぎ出し、準備に万全が期された。講演件数も164となり、8会場を設定している。この頃の北海道大会のハイライトは北海道ブームにのった見学旅行で、この時もA・B・Cの3コースにわかれ、大塚見学旅行係長の下に、私はCコース(釧路-阿寒-北見)を担当している。写真(2)は釧路でとった記念写真で太秦大会実行委員長もこの班に参加されている。多数の知人をこの



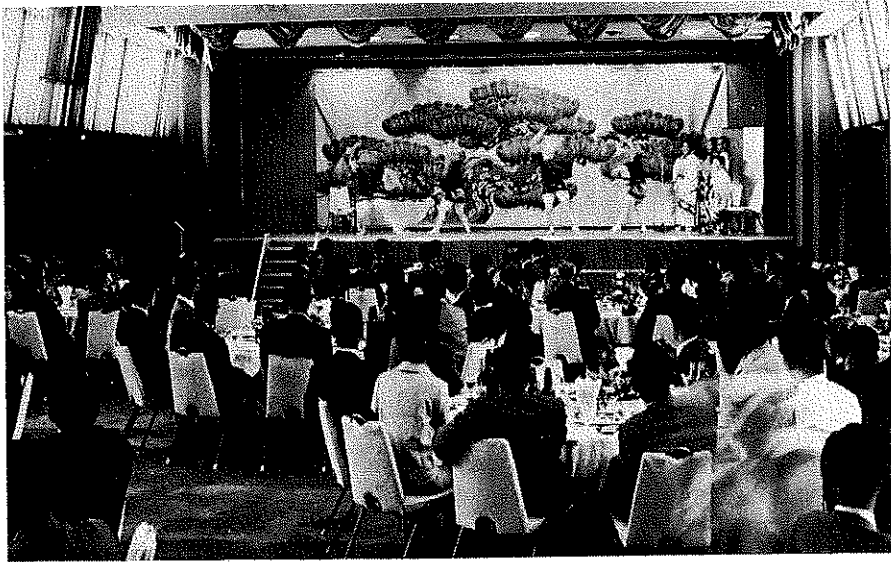
写真(2) 大会見学会(C班) 昭和35年7月20日

中に見出されることと思う。この頃は米ソの宇宙開発競争が一段とはげしく、ソ連がこの年初めて犬や猿を乗せた宇宙船を打ち上げている。北海道では総合開発二次5ヶ年計画の第3年目で、全国的にも32年の神武景気以来の惰性での設備拡張が尾をひいている。しかし、世界的にはその頃既に化学工業界では、生産過剰により市場獲得戦がはげしくなりつつあり、欧州では独仏中心のE.C.Mと英中心のE.F.T.Aの対立が表面に出てきていた。

また省力化技術面ではMonsanto, I.C.C, Du Pont, Standard Oil等が既にComputer Operated Plantを設置していた。つまり国内では増産、設備拡張に狂奔し、神武景気を上まわる好況に酔いしれており、しのびよる不況、生産過剰に全く無関心だったのである。

第4回大会は昭和40年で、丁度私が支部長の年にあたった。宮原孝四郎教授を副支部長として、年初頭から準備委員会を結成、太秦、大塚、丹羽各先生方にも御援助、御指導を願うべき体制をつかった。この頃は、宇宙開発は既に月に焦点がしぼられ、この面では過去5年間に最も大きい発展を示した反面、産業界は多くの過剰設備をかかえ、不況ムードにあえぎ、息を切らしており、丁度今の50~53年にかけての不況と酷似していた。大会自体も講演件数149件と前回を下まわり、会場を工学部と教育養成所を使用した4会場であった。特別講演には安藤鋭郎、内田俊一、堀義路の各先生に依頼した。内田先生は「研究ということ」と題し、また堀先生は「北海道を論ず」で講演されましたが、その後アメリカで飛行機事故で亡くなれているので、北大への訪問はこれが最後であつたらうと思われる。堀先生は乗物に対し極めて慎重な方であつたのですが、全くの奇禍と言うより外はなく痛恨事でした。内田先生は堀先生と東大応化同期生であり、戦前北大燃料工学科の化学工学の講義に來学されていた。この両先生と岡本、大塚先生の酒席での記念写真があるが、これは一寸公開はばかる。この大会行事の圧巻はなんと言っても懇親会であつたらう。会場は現在のパークホテル(当時のホテル三愛)で、約180名の参加で開かれ、出張サービスの女性は勿論、余興としてはソーラソング、江差追分などの民謡、おどりが披露され極めて盛大であつたと記憶している(写真(3))。

またこの頃は既に日化会としての北海道観光ブームは下火であつたので、見学旅行は、道南コース



写真(3) 大会懇親会場 昭和40年7月20日

(北開試、王子製紙、登別温泉、洞爺湖)のみとした。

この40年7月号に日化会から支部長である私に依頼され、「第4回北海道大会によせて」と題して「化学と工業」に巻頭文を書いているが、その中に、「……産業界の多くは過剰設備をかかえ、…低負荷運転してコスト高に悩んだいくつかの例もある。……わが国の産業経済でそれほど長期の予想が確実であった例があるだろうか……」と書いている。事実この不況後、所謂高度成長期を迎え、オイルショックまで再び我が国は生産拡張競走時代に突入している。30年から神武景気を迎えて設備拡張時代に入り、35～41年にかけて過剰生産に苦しめられ、42～48年にかけて再び設備拡張期に向い、48年から現在まで過剰設備、低負荷運転の不況期におちいっている。

たとえば北海道の場合、石炭ブームの20年代においても石炭の出荷額は馬鈴薯のそれに及ばず、30年代においても、製造業の出荷額は鉱業の分を合せても農産物出荷額を下まわり、40年代に入って初めて、製造、鉱業の両者の合計が農業のそれに漸く匹敵し、40年後期の高度成長期に入って、工業製造出荷額が一躍2倍となり、50年においては製造業出荷額は約3兆円で、農業の6,800億、漁業の3,000億をあわせても、その3倍に飛躍しているのである。

だから目の前の現象にあまりあわてたり、がたがたすることは無いというのが私の持論で、前に述べたように先の予測なんてものはそう簡単にはできない。極言すれば数ヶ月先さえ見通しのついていないことが多かったのではなからうか。

さて支部の話にもどると、地方で開催される全国大会、それを開催地の名前をつけた北海道の場合、「北海道大会」と言うのはこの第4回をもって最後となり、45年の曇目支部長の時に開催された全国大会は、連合秋季大会となり、内容も現在実施されている、秋期年會に近いものとなり、51年の

蒲原支部長期に開催されたのは、第3.5秋季年会で、形式も討論会形式となった。45年、51年では発表件数もその前に比べ、数倍となっており、これも前に述べた北海道の工業製造出荷額と同一傾向にあると言えよう。

この51年度の秋季年会では私はプログラム小委員であったが、それはまあふあとして、懇親会二次会担当の故伊藤光臣教授が急に発病し、私にそれを依頼されたので大変苦労した。と言うのは当日は日曜日で、普通70名も収容できるクラブなどは殆んど開店していないからである。頭を下げて、当日店を開いて貰ったわけで限られた予算内でそれを実施することは仲々なま易しいことではなかった。これを読まれる人々の中にも当日参会された方々も多いと思うが、一店を借切つての事で、しかも遠路遙々のお客様にできるだけ札幌情緒を味わってもらおうと言う事だったのである。当初予定した一流の某クラブが駄目になり、次善を選んだわけで、この点は伊藤教授も了承してくれていた。これは余談ですが、一昨年の暮、私の部屋に電話があって、「伊藤先生にはどちらに電話したらよろしいでしょうか。」と言うので用をきくと某クラブから請求書を持ってゆきたいと言う。私は「伊藤先生は亡くなったので、それは香典と思いなさい。」と言って電話を切ったが、全く伊藤教授らしい一面を現していると思った。私が始めて阿寒に行ったのも彼と二人で、北見での支部大会の帰路、バスで阿寒を縦断して帯広に出た。また私に海釣を教えたのも彼で、忍路沖の船釣に引張り出された。この時多少船に酔ったが、彼が色々気をつけてくれた。突然伊藤教授のことに話があったが、日化会北海道支部の大会歴史を回顧する時、矢張彼を外して考えられない。第1回大会の大会委員慰労会の世話をしたのも彼であり、日化会の夜の部では大なり小なり彼の関係していないものはなかったと言って過言であるまい。この稿を終るにあたり故伊藤光臣教授の様々の逸話を思い出しつつ、かつ深く彼の急逝を悼み、彼をしのびつつ筆をおく。



写真(4) 夜の故伊藤光臣教授の一スナップ

Ⅲ 北海道支部年表

1948

昭和23年

北海道支部発会式(6月19日 札幌市北大農)

特別講演 「蛔虫駆除薬の展望」(北大医) 田辺 恒義
「尿素の製造について」(東庄) 奥田 六郎

第1回常会(7月17日 札幌市北大理)

講演 (5件)

第2回常会(9月11日 札幌市北大理)

公開講演会(10月16日 札幌市北大農)

「石炭資源と石炭加工工業(本道の現在と将来について)」 武谷 愿
「化学療法剤について」 杉野目晴貞

映画 (2本)

第3回常会(11月13日 札幌市北大理)

講演 (8件)

1949

昭和24年

第4回常会(1月15日 札幌市北大理)

第5回常会(3月12日 札幌市北大理)

日化北海道地方大会(7月30、31日 札幌市北大理)

特別講演 「北海道油脂工業の諸問題」 (道工試) 高野 政吉
「充填塔について」 (東北大工) 八田四次郎
「地球化学の応用」 (東大理) 木村健二郎

見学会(10月8日 余市町)

ニッカウイスキー他

合同講演会(11月12日 札幌市北大理)

講演 (3件)

第6回常会

講演 (2件)

1950 昭和25年

合同講演会(6月23、24日 札幌市北大農)

講演 (29件)

第7回常会(11月11日 砂川市東庄)

講演 (16件)

見学会 東庄砂川工場他

第8回常会(12月12日 札幌市北大理)

講演 (4件)

昭和26年

合同講演会(7月9、10日 札幌市北大農)

講演 (9件)

特別講演 (6件)

触媒討論会(9月6~8日 札幌市北大触研)

合同講演会(9月19、20日 室蘭市富士製鉄)

講演 (11件)

特別講演 (4件)

見学会 富士製鉄他

第9回常会(12月7日 札幌市北大理)

講演 (4件)

特別講演 「新肥料について」 (東 庄) 横川 英夫

昭和27年

合同講演会(7月14、15日 札幌市北大農)

講演 (20件)

特別講演 (4件)

地球化学討論会(7月26、27日 札幌市北大理)

合同講演会(9月26、27日 旭川市市民会館)

講演 (17件)

特別講演 (2件)

見学会 国策バルブ工場他

映画 (5本)

第10回常会(12月16日 札幌市北大理)

講演 (10件)

1953 昭和28年

第11回常会(7月10日 札幌市北大理)

講演(11件)

触媒討論会(7月23~25日 札幌市北大触研)

支部地方大会(9月18、19日 函館市労働会館)

講演(19件)

特別講演 「北海道における農水産加工工業の合理化について」(北大工) 大塚 博

「北海道における鉍工業の廃水と水産」(道立水産試) 五十嵐彦仁

見学会 ライオン油脂函館工場他

映画(3本)

ロビンソン教授講演会(10月31日 札幌市北大農)

化学機械協会北海道大会

昭和29年

化学教育懇談会(7月25日 札幌市北大理)

講演(2件)

第12回常会(9月10日 札幌市北大理)

講演(13件)

支部地方大会(10月7、8日 苫小牧市公民館)

講演(12件)

特別講演 「放射性同位元素とその応用」(北大理)堀内 寿郎

「繊維の話」(北大工)渡辺 貞良

見学会 王子製紙工場他

映画(7本)

第13回常会(11月27日 札幌市北大理)

講演(4件)

昭和30年

触媒討論会(7月22~24日 札幌市北大触研)

日化北海道地方大会(7月25~29日 札幌市北大理)

特別講演 「新しい木材糖化工業」(野口研) 大島 幹義

「製塩工業の新しい発展」(東大工) 岡 俊平

第14回常会

講演 (7件)

特別講演 (1件)

化学教育懇談会

Heiderberger 氏講演会

緒方富雄氏講演会

昭和31年

支部地方大会 (9月2、3日 北見市商工会議所)

講演 (18件)

特別講演 (2件)

映画 (2本)

北海道地方分析化学研究発表会 (12月3、4日 札幌市北大理)

昭和32年

第15回常会 (1月26日 札幌市北大理)

講演 (4件)

特別講演 (1件)

分析化学研究発表会 (7月28、29日 札幌市北大理)

昭和32年度地球化学討論会 (7月29～31日 札幌市北学芸大)

支部地方大会 (10月6、7日 釧路市教育会館)

講演 (18件)

特別講演 (2件)

スタッケルベルグ教授講演会 (11月1日 札幌市北大触研)

第16回常会 (12月21日 札幌市道工試)

特別講演 「石炭の極性その他の問題について」 (北大応電) 東 健一

「欧米の石炭化学工業の印象」 (北大工) 武谷 愿

化学工学北海道大会

昭和33年

第6回腐食防食討論会 (6月25日 札幌市定山溪小)

第6回触媒討論会 (7月23～25日 札幌市北大理)

支部地方大会（7月25、26日 室蘭市富士製鉄）

講演（22件）

特別講演（3件）

潤滑油に関する座談会（9月16日 札幌市北大工）

第17回常会

第18回常会

油滑および潤滑油に関する講習会

エルトマン博士講演会

昭和34年

支部地方大会（8月1日 砂川市東匠）

特別講演 「尿素系合成繊維」（東匠） 三輪 一郎

化学教育シンポジウム（8月5日 札幌市北大理）

講演（1件）

パネル討論（1件）

東北・北海道支部合同大会（10月1～3日、秋田市秋田大）

ブラウン博士講演会

1960 昭和35年

第19回常会（1月23日 札幌市道工試）

特別講演 「塩酸法による木材糖化」（北大工） 石井 忠雄

「欧米視察談」（北大工） 大塚 博

第4回香料、テルペン、精油化学討論会（7月15～17日 札幌市北大農）

日化北海道大会（7月18、19日 札幌市北大理・工）

特別講演 「物の性質と原子」（東工大） 崎川 範行

「40年後の科学技術について」（旭化成） 宗像 英二

構造化学討論会（8月4～6日 札幌市北大理）

分子の電子状態討論会（8月5、6日 札幌市北大理）

化学教育討論会（9月2、3日 札幌市北大理）

特別講演（2件）

公開講演会

ビエット博士講演会

昭和36年

第20回常会(1月21日 札幌クラーク会館)

- 特別講演 「アラスカの氷河」 (北大理) 東 晃
「大学における基礎化学教育の諸問題」 (北大理) 太秦 康光
「工学教育における基礎化学教育について」 (北大工) 岡本 剛
「薬学教育における基礎化学教育について」 (北大医) 赤木満州雄

石油学会全国大会(6月21~28日 札幌市クラーク会館)

第10回触媒討論会(7月26~28日 札幌市北大工)

腐食防食討論会(9月25~27日 札幌市クラーク会館)

支部地方大会(10月2、3日 北見市北見工短)

講演 (32件)

公開講演会(10月3日 北見市北見会館)

- 「アメリカおよびカナダにおける化学研究の動向」 (北大理) 太秦 康光
「工業触媒について」 (北大工) 大塚 博
見学会 野村鉷業イトムカ鉷業所他

昭和37年

第21回常会(1月20日 札幌市クラーク会館)

- 特別講演 「隕石の化学」(北大理)西村雅吉, 「半導体の話」(電通研)前田正雄,
「ウラニウムの製錬」(東北大)須藤欽吾

第13回有機化学反応機構討論会(7月5、6日 札幌市北大理・クラーク会館)

第6回天然有機化合物討論会(7月6、7日 札幌市クラーク会館)

化学3学会連合・北海道地方大会(7月19~21日 函館市北大水産)

第7回リグニン化学討論会(10月4、5日 札幌市北大)

第22回常会

講演 (4件)

化学装置講演会

Longuet-Higgins 博士講演会

Todd 博士講演会

Sutton 博士講演会

Heidt 博士講演会

昭和38年

NMR講演会(6月22日 札幌市北大工)

講演 (3件)

Eyring教授講演会(7月2日 札幌市北大理)

化学教育に関する講演協議会(8月20日 旭川市北学芸大)

特別講演 (2件)

パネル討論 (1件)

支部地方大会(8月21日 旭川市北学芸大)

講演 (41件)

特別講演 (2件)

第13回触媒討論会(9月24~26日 札幌市北大工)

Campbell教授講演会

第23回常会

講演 (3件)

フテナント教授講演会

昭和39年

支部地方大会(9月4、5日 砂川市東汪)

講演 (17件)

特別講演 (2件)

Robinson教授講演会(9月7日 札幌市クラーク会館)

ポーラログラフ討論会(9月23~25日 札幌市北大理)

第9回人工鉱物討論会(10月1~3日 札幌市北大工)

国際天然化学札幌コロキウム

分析化学講習会

1965 昭和40年

第24回常会(1月23日 札幌市北大工)

特別講演 「未来の炭化水素資源について」 (北開試) 雨宮 登三

「ポリ α -アミノ酸の酵素模型」 (北大理) 野口 順蔵

石油・潤滑油北海道大会(6月24日 札幌市北大クラーク会館)

日化北海道大会(7月19~23日 札幌市北大)

特別講演 「タンパク質の構造研究がもたらしたもの」 (東大理) 安藤 鋭郎
「研究ということ」 (相模中央化学研) 内田 俊一
「北海道を論ず」 (電力中研) 堀 義路

Smyth 教授講演会 (9月15日 札幌市北大応電)

第7回高圧討論会 (10月21、22日 虻田郡洞爺湖グランドホテル)

芳香族化学パネル討論会

昭和41年

第25回常会 (2月4日 札幌市クラーク会館)

特別講演 「触媒の物性論的研究」 (北大触研) 戸谷 富之
「石油化学における工業触媒について」 (北大工) 大塚 博
「化学プロセスとプロセス工学」 (千代田化工) 矢木 栄

第8回北海道地区化学教育研究協議会 (8月27日 札幌市北大教養)

講演 (11件)

特別講演 (2件)

映画 (2本)

支部地方大会 (8月30、31日 室蘭市室工大)

講演 (77件)

特別講演 「反応速度論と触媒」 (北大触研) 宮原孝四郎

「最近の高炉原料のすう勢」 (富士鉄) 森永 孝三

見学会 室蘭製鉄化学

北海道国際電気セミナー (9月14日、19、20日 札幌市北大工)

第19回触媒討論会 (9月20～22日 札幌市クラーク会館)

昭和42年

第26回常会 (2月4日 札幌市北大工)

特別講演 「原子・分子による中速電子線の回折—その化学への応用」

(北大理) 飯島 孝夫

「北海道の肥料事情」 (東 匠) 広瀬 英二

「写真化学における増感と減感」 (東大生研) 菊池 真一

分析化学討論会 (2月6～8日 札幌市北大教養)

支部地方大会 (7月28、29日 北見市北見工大)

講演 (73件)

特別講演 「テン菜糖製造におけるイオン交換」 (日本甜菜) 及川 昭蔵

「世界石油会議に出席して」 (北大工) 青村 和夫

第9回北海道地区化学教育研究協議会(7月30日 北見市北見工大)

講演 (11件)

特別講演 (2件)

映画 (2本)

第16回レオロジー討論会(8月29日 札幌市北大教養)

第20回コロイド化学討論会(8月29、31日 札幌市北大教養)

分子構造総合討論会(10月5~7日 札幌市北大理)

全国大学工業化学、化学工学合同研究会

昭和43年

第27回常会(2月2日 札幌市北大工)

特別講演 「残留農薬分析における諸問題」 (東教大農) 武藤 聡雄

「電子スペクトルの化学への応用—とくに変化過程の追跡」

(北大応電) 馬場 宏明

「スペクトルの強度」 (東大工) 鎌田 仁

「写真および光化学における増感と減感」 (東大生研) 菊地 真一

支部地方大会(7月29、30日 函館市函館高専)

講演 (106件)

特別講演 「粘弾性の破壊」 (北教大函館) 清水 清

「米ヌカをみなおす」 (東 庄) 稲葉彌之助

第10回北海道地区化学教育研究協議会(7月31日 函館市函館高専)

講演 (9件)

特別講演 (2件)

映画 (2本)

第7回ESR討論会(9月30、10月1日 札幌市北大工)

第12回粘土科学討論会(10月1~3日 札幌市クラーク会館)

昭和44年

第28回常会(1月31日 札幌市北大工)

特別講演 「生体成分の微量分析」 (東大薬) 田村 善蔵
「芳香族を原料とする最近の石油化学」 (資源技試) 芦田 誠二
第1回北海道科学機器展(7月9～11日 札幌市総合卸センター)
支部地方大会(8月5、6日 室蘭市富士製鉄)
講演 (88件)
特別講演 「海藻の含臭素有機化合物について」 (北大理) 入江 遠
「わが国の電解カセイソーダ工業の経過」 (北海道曹達) 国分 恒次
防災化学講演会(9月2日 札幌市北大工)
講演 (3件)
第11回北海道地区化学教育研究協議会(9月3日 札幌市総合卸センター)
特別講演 (2件)
第13回天然有機化合物討論会(9月25～27日 札幌市道新ホール)
石油学会北海道大会(9月25日 札幌市北大工)
第6回石炭科学会議(10月1～3日 札幌市青らん荘)
Ingold 教授講演会(10月27日 札幌市北大理)

1970
昭和45年

第29回常会(1月30、31日 札幌市市民会館)
講演 (46件)
特別講演 「固体触媒の作用機構の動的研究方法」 (東大理) 田丸 謙二
「分析化学における非水溶媒」 (京大理) 藤永 太郎
Brown 教授講演会(7月22日 札幌市北大工)
第12回北海道地区化学教育研究協議会および化学実験講習会(7月29日 札幌市北大教養)
特別講演 (2件)
日化・学協会連合秋季大会(8月29、30日 札幌市北海道工業大学)
特別講演 「タンパク食料資源の諸問題」 (京大農) 満田 久輝
「日本のエネルギー諸問題」 (東大工) 向坊 隆
第14回香料・テンペル・精油化学討論会(9月5～8日 北見市北見工大)
第15回リグニン化学討論会(10月8、9日 札幌市市民会館)
温泉科学会第28回大会

1971 昭和46年

支部冬期研究発表会(2月1、2日 札幌市北大教養)

講演 (44件)

特別講演 「リソチームとペニシリン」 (北大理) 伊藤 英二

「光電子スペクトロメトリーの分析化学への応用」(阪大理) 池田 重良

「月試料の化学組成」 (東大物性研) 本田 雅健

支部夏期研究発表会(8月7、8日 苫小牧市市民会館)

講演 (88件)

特別講演 「ポリ- α -アミノ酸」 (北大理) 野口 順蔵

「アルミニウム電解工業の最近の傾向」 (日軽金) 篠田 公隆

第29回触媒討論会(8月19~21日 札幌市北大工)

第18回腐食防食討論会(8月23~25日 札幌市北海道工業大)

第5回溶融塩化学討論会(8月24日 札幌市北海道工業大)

北海道地区化学教育研究協議会および化学実験講習会(9月1日 札幌市北大教養)

特別講演 (2件)

第14回放射線化学討論会(9月22、23日 札幌市北大応電研)

第16回人工鉱物討論会(10月2、3日 札幌市北大理)

第16回音波の物性と化学討論会(10月8、9日 札幌市北大応電研)

Katritzky 教授講演会

Pettit 教授講演会

Janzen 教授講演会

昭和47年

支部冬季研究発表会(1月28、29日 札幌市北大教養)

講演 (49件)

特別講演 「化学工業の現状」 (旭化成技研) 若狭 良一

「公害分析に関する理学的諸問題」(金沢大理) 木羽 敏泰

Henglein 教授講演会(2月8日 札幌市北大工)

支部夏季研究発表会(8月25、26日 旭川市高専)

講演 (82件)

特別講演 「北国の花の香り」 (北教大札幌) 若山 誠治

「環境科学の現実の問題点」(環境科学センター) 草間 潤

北海道地区化学教育研究会および化学実験講習会（9月5日 札幌市北大教養）

特別講演（2件）

映 画（1本）

第10回ペプチド化学討論会（9月26、27日 札幌市共済ホール）

表面科学シンポジウム（9月28日 札幌市北大教養）

Blyholder 教授講演会（9月28日 札幌市北大教養）

有機金属化合物を用いる合成反応に関する合同講演会

高速クロマトグラフ講演会

Smets 教授講演会

Daudel 教授講演会

Heimbach 教授講演会

Claesson 教授講演会

Hofmann 教授講演会

昭和48年

支部冬季研究発表会（2月3、4日 札幌市北大工）

講 演（59件）

特別講演 「農薬およびPCBによる環境汚染に関連する諸問題」

（カナダ国立農業研） 千葉 幹雄

「有機化学におけるNMRの新しい使い方」（北大理） 松本 毅

支部夏季セミナー（6月16日 北見市北見工大）

特別講演（4件）

有機化合物の合成デザイン講習会（7月24～27日 仙台市岩松旅館）

第34回分析化学討論会（7月26、27日 室蘭市室工大）

支部夏季研究発表会（7月28、29日 函館市北大水産）

講 演（72件）

特別講演 「南極ドライバレー塩の化学組成」（北大水産） 中谷 周

「一本の試験管」（北大理） 藤本 昌利

北海道地区化学教育研究協議会（7月30日 函館市北大水産）

講 演（11件）

特別講演（2件）

石油学会創立15周年記念北海道大会第16回研究発表会（9月20～22日 札幌市ムトウビル）

第19回ポーログラフイーおよび電気分析化学討論会(10月2~4日 札幌市北大理)

Olah教授講演会(11月19日 札幌市北大工)

仁田勇教授講演会

Murrey教授講演会

Noltes博士講演会

Milles教授講演会

Davies教授講演会

昭和49年

支部冬季研究発表会(1月31日、2月1日 札幌市北大工)

講演(53件)

特別講演 「天然水中微量成分の分析の信頼度」(東大理) 浜口 博

「新しい廃水処理法」(栗田工業総研) 加藤 健司

Pearson教授講演会(3月25日 札幌市北大理)

Atkins博士講演会(5月24日 札幌市北大理)

支部夏季研究発表会(7月25、26日 北見市北見工大)

講演(80件)

特別講演 「昆虫変態ホルモンエクジソンをめぐって」(北大低温研) 茅野 春雄

「新しい有機合成化学原料」(北大工) 伊藤 光臣

北海道地区化学教育研究協議会(7月27日 北見市北見工大)

講演(8件)

特別講演(3件)

Song教授講演会(8月21日 札幌市北大応電研)

支部夏季セミナー(9月6日 室蘭市室工大)

特別講演 「硫化鉍の製錬と水素の利用」(北大工) 田中 時昭

「石油の将来」(丸善石油) 雨宮 登三

「サンシャイン計画の概要」(東工試) 益子洋一郎

「石炭サイドから見たエネルギー問題と石炭化学の将来」

(北大工) 武谷 愿

Pimentel教授講演会(9月26日 札幌市北大工)

第11回石炭科学会議(9月30~10月2日 札幌市ムトウビル)

日ノ電気化学シンポジウム(10月4、5日 札幌市北大触研)

昭和50年

支部冬季研究発表会(1月30、31日 札幌市北大工)

講演 (58件)

特別講演 「シクロプロピル置換エチレンを基質として用いるオレフィンへの付加反応機構
の研究法」 (北大理) 西田 進也
「ゲル状有機試薬の分析化学的应用」 (九大工) 上野 景平

「酸素種の反応性」に関する小討論会(2月1日 札幌市北大触研)

支部夏季研究発表会(7月26日 苫小牧市市民会館)

講演 (69件)

特別講演 「苫小牧市の環境」 (苫小牧市役所) 渡辺 有治
「けい光測定の最近の進歩と応用」(北大応電研) 馬場 宏明

北海道地区化学教育研究協議会および化学実験講習会(7月31日 札幌市北大教養)

特別講演 (8件)

支部夏季セミナー(9月6日 函館市北大水産)

特別講演 「環境(大気圏、海洋)における物質の滞留時間」(北大水産) 角皆 静男
「公害防止に関する問題点」 (アジア石油函館) 美島 喬
「窒素酸化物の触媒による除去」 (九大工) 清山 哲郎
「天然水の地球化学に関する国際シンポジウムの報告」
(北大水産) 西村 雅吉

第3回核酸シンポジウム(9月25、26日 札幌市市民会館)

Hunt 博士講演会

Schopper 博士講演会

Emmet 博士講演会

Kutney 博士講演会

Winterbatom 博士講演会

Bockris 博士講演会

昭和51年

支部冬季研究発表会(1月29、30日 札幌市北大工)

講演 (55件)

特別講演 「有機化合物の質量分析法の最近の進歩」 (東工試) 土屋 利一
「接触反応の非定常解析」 (北大工) 小林 晴夫

四学会北部支部合同講演会（6月20、21日 札幌市全日空ホテル）

Rausch 教授講演会（6月23日 札幌市北大工）

支部夏季研究発表会（7月19日 北見市北見工大）

講演（44件）

特別講演 「温度滴定とその利用」（北大理）吉田 仁志

「バイオセンサー（膜レベルにおける電気化学的過程に関連した）」

（北大薬）小島陽之助

北海道地区化学教育協議会（7月20日 北見市北見工大）

講演（6件）

特別講演（2件）

パネル討論

日化第35（学協会連合）秋季年会（8月28～31日 札幌市北大教養・工）

第27回タンパク質構造討論会（9月5日 札幌市クラーク会館）

第17回高圧討論会（10月1、2日 札幌市共済ビル）

釧路地区化学講演会（10月16日 釧路市北教大）

「タンパク質の一次構造」（北大獣医）久保周一郎

「パルプ製造に関して」（本州製紙）上野 中

旭川地区化学講演会（12月7日 旭川市高専）

「現代の公害と化学工学」（北大名誉教授）丹羽貴知蔵

Laitien 博士講演会

Breslow 博士講演会

Ayer 博士講演会

Schollner 博士講演会

Trozanowicz 博士講演会

昭和52年

支部冬季研究発表会（2月2、3日 札幌市北大工）

講演（60件）

特別講演 「金属キレートにおける溶質-溶媒間相互作用」（広島大理）山本 勇範

「化学情報の問題点とその対策」（阪大産研）湯川 泰秀

支部夏季研究発表会（7月30、31日 函館市高専）

講演（66件）

特別講演 「ホルモンの化学」 (北大水産) 石原 義雄
「10年後の石油、石油化学」 (北大工) 青村 和夫
分子構造討論会 (8月19～21日 札幌市北大工)
支部夏季セミナー (8月26日 室蘭市室工大)
特別講演 「プラスチックの再生利用」 (室工大) 小松 藤男
「省資源と触媒」 (北大触研) 宮原孝四郎
「最近の酸化半導体材料」 (北大工) 松下 徹
北海道地区化学教育研究協議会 (8月27日 札幌市北大教養)
特別講演 (2件)
パネル討論
有機ホウ素化合物の化学に関する講演会 (9月5日 札幌市北大工)
講演 (2件)
Turner教授講演会 (9月12日 札幌市北大理)
Doering教授講演会 (10月6日 札幌市北大理)
第20回放射線化学討論会 (10月6～8日 札幌市厚生年金会館)
第22回リグニン化学討論会 (10月8、9日 札幌市北大農)
釧路地区化学講演会 (11月12日 釧路市厚生年金福祉会館)
「高分子の構造と特性」 (北大理) 金子 元三
「200海里時代の海洋タンパク資源」 (釧路水産協会) 桜井 基博
北見地区化学講演会 (11月17日 北見市北見工大)
「天然高分子化学」 (北大理) 野口 順蔵
「ケイ酸塩の化学」 (北大工) 松下 徹
旭川地区化学講演会 (11月18日 旭川市高専)
講演 北見地区と同じ

Ⅳ 役 員 等 名 簿

*印は支部所属本部役員

年度 項目	昭和23年	昭和24年	昭和25年	昭和26年
支 部 長	太 秦 康 光 (北 大 理)	香 春 三 樹 次 (富 士 鉄)	杉 野 日 晴 貞 (北 大 理)	副会長* 太 秦 康 光 大 塚 忠 比 古 (東 庄)
副支部長	大 塚 博 (北 大 工)	太 秦 康 光 (北 大 理)	岡 本 剛 (北 大 工)	丹 羽 貴 知 蔵 (北 大 理)
庶務幹事	半 沢 道 郎 (北 大 農) 高 杉 直 幹 (北 大 理) 香 山 勲 (学大札幌)	五十嵐 久 尚 (北大水産) 島 崎 英 一 (北 大 理) 渡 辺 静 雄 (北 大 理)	柿 本 七 郎 (北大結研) 小 林 晴 夫 (北 大 工) 渡 辺 静 雄 (北 大 理)	島 崎 英 一 (北 大 理) 暮 目 清 一 郎 (") 高 田 善 之 (北 大 工)
会計幹事	柿 本 七 郎 (北大結研) 進 藤 益 男 (室 工 大)	久 郷 昌 夫 (北 大 工) 西 村 雅 吉 (北 大 理)	金 子 義 久 (北 大 理) 伊 藤 光 臣 (北 大 工)	松 下 三 十 郎 (北 大 理) 大 蔵 武 (北 大 工)
地方幹事	林 嘉 吉 (道 工 試) 中 村 幸 彦 (北 大 農) 岡 本 光 男 (小樽新栄化学) 杉 浦 伴 (東 庄) 香 春 三 樹 次 (富 士 鉄) 吉 村 克 二 (北大水産) 堀 豪 三 (合同酒精) 江 口 孝 (留 萌 水 産) 中 平 馬 之 丞 (帯 広 日 辞)	伊 藤 修 (国 策) 江 口 孝 (留 萌 水 産) 佐 藤 忠 正 (北 大 工) 高 野 政 吉 (道 工 試) 寺 崎 義 男 (東 庄) 中 村 幸 彦 (北 大 農) 三 谷 光 雄 (三 谷 化 学) 吉 村 克 二 (北大水産) 佐 藤 久 次 (室 工 大)	高 田 道 夫 (北大水産) 高 野 政 吉 (道 工 試) 岡 本 光 男 (小樽新栄化学) 飯 田 神 生 (函館日産化学) 野 地 福 治 (日 鉄) 三 原 重 俊 (東 庄) 淵 一 郎 (滝川化学) 江 口 孝 (留 萌 水 産) 伊 藤 修 (国 策)	小 幡 彌 太 郎 (北大農) 川 原 鳳 策 (北大水産) 鈴 木 昇 (小樽商大) 横 川 英 夫 (東 庄) 横 田 晋 (滝川化学) 伊 藤 修 (国 策)
監 査				

年度 項目	昭和27年	昭和28年	昭和29年	昭和30年
支部長	太 泰 康 光 (北 大 理)	大 塚 博 (北 大 工)	堀 内 寿 郎 (北 大 理)	副会長* 剛 岡 本 剛 佐 藤 久 次 (室 工 大)
副支部長	武 谷 愿 (北 大 工)	横 川 英 夫 (東 大 工)	渡 辺 貞 良 (北 大 工)	高 杉 直 幹 (北 大 理)
庶務幹事	藁 目 清 一 郎 (北 大 理) 青 村 和 夫 (北 大 工) 伊 藤 英 治 (北 大 理)	青 村 和 夫 (北 大 工) 高 田 善 之 (") 勝 井 信 勝 (北 大 理)	佐 藤 俊 夫 (北 大 理) 正 宗 直 (") 伊 藤 英 治 (")	伊 藤 英 治 (北 大 理) 今 官 明 男 (") 佐 藤 忠 正 (北 大 工)
会計幹事	松 本 毅 (北 大 理) 勝 藤 昌 伸 (")	伊 藤 光 臣 (北 大 工) 佐 藤 秀 雄 (北 大 工)	宮 原 孝 四 郎 (北 大 理) 永 山 政 一 (北 大 理)	西 村 雅 吉 (北 大 理) 白 浜 晴 久 (")
地方幹事	五十嵐 久 尚 (北 大 農) 川 原 鳳 策 (小 樽 商 大) 飯 田 神 生 (函 館 日 産 化 学) 寺 崎 義 男 (東 大 工) 奥 田 五 郎 (学 大 旭 川) 横 田 晋 (滝 川 化 学) 久 田 清 明 (室 工 大) 齐 藤 恒 行 (北 大 水 産)	上 野 幸 三 (室 工 大) 奥 田 五 郎 (学 大 旭 川) 飯 田 神 生 (函 館 日 産 化 学) 広 田 和 一 (道 工 試) 川 原 鳳 策 (小 樽 商 大) 中 山 義 男 (東 大 工) 石 塚 喜 明 (北 大 農) 前 川 静 彌 (日 鋼)	下 村 得 治 (北 大 農) 末 広 吉 生 (道 工 試) 川 原 鳳 策 (小 樽 商 大) 加 納 久 雄 (室 工 大) 齐 藤 恒 行 (北 大 水 産) 中 山 義 男 (東 大 工) 江 口 安 (国 策) 館 正 之 (学 大 釧 路)	佐々木 清 一 (北 大 農) 緑 川 林 造 (道 工 試) 川 原 鳳 策 (小 樽 商 大) 佐々木 満 雄 (北 大 見 工 大) 吉 村 克 二 (北 大 水 産) 寺 崎 義 男 (東 大 工) 奥 田 五 郎 (学 大 旭 川) 館 正 之 (学 大 釧 路)
監 査				

年度 項目	昭和31年	昭和32年	昭和33年	昭和34年
支部長	坂元義男 (北大理)	岡本剛 (北大工)	丹羽貴知蔵 (北大理)	副会長* 堀内寿郎 武谷愿 (北大工)
副支部長	佐藤忠正 (北大工)	入江遠 (北大理)	久郷昌夫 (北大工)	菅孝男 (北大理)
庶務幹事	藪目清一郎 (北大理) 和田次康 (") 那須義和 (")	小林晴夫 (北大工) 永山政一 (北大理) 大蔵武 (北大工)	島崎英一 (北大理) 杉野目浩 (") 和田次康 (") 山井巖 (")	伊藤光臣 (北大工) 石井忠雄 (") 横山晋 (")
会計幹事	今宮明男 (北大理) 藤川昌久 (北大工)	高田善之 (北大工) 勝井信勝 (北大理)	下地光雄 (北大理) 高田善之 (北大工)	田部浩三 (北大触研) 藤川昌久 (北大工)
地方幹事	小野垣俊雄 (北販連) 保坂秀明 (旭川林指) 吉村克二 (北大水産) 寺崎義男 (東庄) 竹鶴威 (余市ニッカ) 小松藤男 (室工大) 種村正 (富士鉄) 中平馬之丞 (帯広日甜) 富樫喜代治 (道工試) 半沢道郎 (北大農)	種村正 (富士鉄) 奥田五郎 (学大旭川) 斉藤恒行 (北大水産) 末広吉生 (道工試) 竹鶴威 (余市ニッカ) 中山義男 (東庄) 香山勲 (学大札幌) 上野幸三 (室工大) 小野垣俊雄 (ホクレン北見) 中平馬之丞 (帯広日甜) 佐藤悦蔵 (日東釧路)	種村正 (富士鉄) 奥田五郎 (学大旭川) 斉藤恒行 (北大水産) 末広吉生 (道工試) 竹鶴威 (余市ニッカ) 中山義男 (東庄) 香山勲 (学大札幌) 上野幸三 (室工大) 小野垣俊雄 (ホクレン北見) 中平馬之丞 (帯広日甜) 下田信男 (学大釧路)	五十嵐久尚 (北大水産) 杉田治八郎 (室工大) 太田満喜雄 (富士鉄) 竹鶴威 (余市ニッカ) 末広吉生 (道工試) 半沢道郎 (北大農) 奥出美朔 (東庄) 奥田五郎 (学大旭川) 小倉一実 (日甜) 小野垣俊雄 (ホクレン北見) 下田信男 (学大釧路)
監査				

年度 項目	昭和35年	昭和36年	昭和37年	昭和38年
支部長	太 泰 康 光 (北 大 理)	緑 川 林 造 (北 大 工)	東 健 一 (北 大 応 電)	副会長* 博 大 塚 貞 良 渡 辺 貞 良 (北 大 工)
副支部長	伊 藤 光 臣 (北 大 工)	島 崎 英 一 (北 大 理)	小 林 晴 夫 (北 大 工) 吉 村 克 二 (北 大 水 産)	松 本 毅 (北 大 理)
庶務幹事	藁 目 清 一 郎 (北 大 理) 林 謙 二 郎 (") 横 川 敏 雄 (") 石 川 昭 男 (")	諸 住 高 (北 大 工) 末 広 吉 生 (道 工 試) 白 浜 晴 久 (北 大 理) 三 谷 幸 雄 (北 大 工)	馬 場 宏 明 (北 大 応 電) 千 徳 一 夫 (") 林 治 助 (北 大 工)	林 治 助 (北 大 工) 工 藤 雅 (") 神 田 玲 子 (帯 広 畜 大)
会計幹事	網 谷 孝 (北 大 工) 諸 住 高 (") 鈴 木 章 (")	林 治 助 (北 大 工) 石 川 昭 雄 (北 大 理)	鈴 木 哲 (北 大 応 電) 白 浜 晴 久 (北 大 理)	戸 坂 罔 夫 (北 大 工) 横 田 和 明 (北 大 理)
地方幹事	末 広 吉 生 (道 工 試) 半 沢 道 郎 (北 大 農) 斉 藤 恒 行 (北 大 水 産) 太 田 満 喜 雄 (富 士 鉄 道) 森 田 睦 夫 (室 工 大) 阿 座 上 信 治 (東 大 理) 奥 田 五 郎 (学 大 旭 川) 小 野 垣 俊 雄 (ホ ク レ ン 北 見) 下 田 大 信 男 (学 大 釧 路) 小 倉 一 実 (日 甜) 竹 鶴 威 (余 市 ニ ッ カ)	阿 座 上 信 治 (東 大 理) 五十 嵐 彦 仁 (余 市 水 試) 長 井 弘 (道 工 試) 下 田 信 男 (学 大 釧 路) 沢 村 浩 光 (学 大 函 館) 佐 々 木 満 雄 (北 大 理) 神 田 玲 子 (帯 広 畜 大) 太 田 満 喜 雄 (富 士 鉄 道) 奥 田 五 郎 (学 大 旭 川) 木 村 一 (室 工 大) 佐 々 木 清 一 (北 大 農)	阿 座 上 信 治 (東 大 理) 五十 嵐 彦 仁 (余 市 水 試) 長 井 弘 (道 工 試) 下 田 信 男 (学 大 釧 路) 沢 村 浩 光 (学 大 函 館) 佐 々 木 満 雄 (北 大 理) 神 田 玲 子 (帯 広 畜 大) 太 田 満 喜 雄 (富 士 鉄 道) 本 多 辰 也 (学 大 旭 川) 八 幡 寿 雄 (室 工 大) 佐 藤 俊 夫 (北 大 開 試)	阿 座 上 信 治 (東 大 理) 五十 嵐 彦 仁 (余 市 水 試) 長 井 弘 (道 工 試) 伊 藤 裕 三 (学 大 釧 路) 沢 村 浩 光 (学 大 函 館) 佐 々 木 満 雄 (北 大 理) 館 正 之 (帯 広 畜 大) 佐 藤 俊 夫 (北 大 開 試) 奥 田 五 郎 (学 大 旭 川) 太 田 満 喜 雄 (富 士 鉄 道) 和 田 秀 雄 (国 策) 金 塚 高 次 (室 工 大)
監 査				東 健 一 (北 大 応 電) 鹿 園 直 治 (北 大 開 試)

年度 項目	昭和39年	昭和40年	昭和41年	昭和42年
支部長	入江 遠 (北大理)	久郷昌夫 (北工大)	横川英夫 (室蘭製鉄)	會長* 杉野目晴貞 伊藤光臣 (北大工)
副支部長	高田善之 (北大工)	宮原孝四郎 (北大触研)	齊藤肇 (北大工)	正宗直 (北大理)
庶務幹事	正宗直 (北大理) 横田和明 (北大工) 高杉光雄 (北大理)	青村和夫 (北大工) 藤川昌久 (") 喜多英明 (北大触研)	尾上俊夫 (室蘭製鉄) 木村一 (室工大) 田草川信雄 (北大工) 山井 巖 (")	荒瀬晃 (北大工) 佐々木満雄 (北見工大) 鈴木章 (北大工) 村井章夫 (北大理)
会計幹事	豊嶋勇 (北大触研) 林健次郎 (北大教養)	石井忠雄 (北大工) 佐藤教男 (")	佐藤教男 (北大工) 横川敏雄 (北大理)	富田宣 (北大工) 中村義男 (北大理)
地方幹事	阿座上信治 (東 匠) 五十嵐彦仁 (余市水試) 石田良一 (室工大) 伊藤裕三 (学大釧路) 沢村浩光 (学大函館) 佐々木満雄 (北見工大) 館正之 (帯広畜大) 佐藤俊夫 (北開試) 奥田五郎 (学大旭川) 太田満喜雄 (富士鉄) 高倉英太郎 (道工試)	広田政雄 (東 匠) 五十嵐彦仁 (余市水試) 太田満喜雄 (富士鉄) 竹野昇 (室工大) 奥田五郎 (学大旭川) 佐々木満雄 (北見工大) 沢村浩光 (学大函館) 末広吉生 (道工試) 館正之 (帯広畜大) 田中俊 (北開試) 本多正孝 (学大釧路)	五十嵐彦仁 (余市水試) 佐々木満雄 (北見工大) 城本善光 (富士鉄) 末広吉生 (道工試) 竹鶴威 (余市ニッカ) 館正之 (帯広畜大) 田中俊 (北開試) 辻野勇 (北大水産) 広田政雄 (東 匠) 本多辰也 (学大旭川) 本多正孝 (学大釧路) 森田修吾 (苦小牧高専) 柳井弘 (室工大)	伊藤昌明 (北見工大) 鎌田紀 (道工試) 城本善光 (富士鉄) 竹鶴威 (余市ニッカ) 田中俊 (北開試) 館正之 (帯広畜大) 辻野勇 (北大水産) 広田政雄 (東 匠) 本多辰也 (北教大旭川) 本田正孝 (北教大釧路) 森田修吾 (苦小牧高専) 下田信男 (室工大)
監 査	渡辺貞良 (北大工) 久田清明 (富士鉄)	入江 遠 (北大理) 阿座上信治 (東 匠)	阿座上信治 (東 匠) 久郷昌夫 (北大工)	久郷昌夫 (北大工) 横川英夫 (製鉄化学)

年度 項目	昭和43年	昭和44年	昭和45年	昭和46年
支部長	柿本七郎 (北大結研)	副会長 丹羽貴知蔵 小林晴夫 (北大工)	藁目清一郎 (北大理)	高田善之 (北大工)
副支部長	青村和夫 (北大工)	伊藤英治 (北大理)	永山政一 (北大工)	田部浩三 (北大理)
庶務幹事	関川 勲 (北大結研) 市原耿民 (北大理) 四ッ柳隆夫 (北大工) 吉田仁志 (北大理)	山科俊郎 (北大工) 石本聿利 (北大理) 小林正義 (北大工) 多賀光彦 (北大理)	吉田仁志 (北大理) 後藤克己 (北大工) 新明正弘 (北大理) 戸倉清一 (北大工)	横田和明 (北大工) 松本敏雄 (北大工) 佐野正勝 (北大工) 服部英 (北大理)
会計幹事	外岡秀一 (北大結研) 米田徳彦 (北大工)	古市隆三郎 (北大工) 前川尚 (北大理)	多賀光彦 (北大理) 田村和利 (北大工)	大冨邦久 (北大工) 大沢映二 (北大理)
地方幹事	鎌田 紀 (道工試) 佐藤俊夫 (北開試) 佐々木満雄 (北見工大) 城本義光 (富士鉄) 下林富士雄 (小樽千秋高) 館正之 (帯広畜大) 辻野勇 (北大水産) 広田政雄 (東 庄) 本田辰也 (北教大旭川) 伊藤裕三 (北教大釧路) 森田修吾 (苫小牧高専) 渡辺寛人 (室工大)	鎌田 紀 (道工試) 佐藤俊夫 (北開試) 佐々木満雄 (北見工大) 城本義光 (富士鉄) 下林富士雄 (小樽千秋高) 館正之 (帯広畜大) 辻野勇 (北大水産) 広田政雄 (東 庄) 本田辰也 (北教大旭川) 伊藤裕三 (北教大釧路) 森田修吾 (苫小牧高専) 渡辺治夫 (室工大)	鎌田 紀 (道工試) 田中開俊 (北開試) 佐々木満雄 (北見工大) 城本義光 (富士鉄) 下林富士雄 (小樽千秋高) 館正之 (帯広畜大) 辻野勇 (北大水産) 広田政雄 (三井東庄) 本田辰也 (北教大旭川) 伊藤裕三 (北教大釧路) 森田修吾 (苫小牧高専) 東海林幸義 (室工大)	飯田貞一 (道工試) 岩瀬政吉 (釧路高専) 菊地望 (新日鉄) 佐々木満雄 (北見工大) 沢村浩光 (北教大函館) 下林富士雄 (小樽工業高) 杉田治八郎 (室工大) 高倉英太郎 (旭川高専) 田中開俊 (北開試) 原田武夫 (北大水産) 広田政雄 (三井東庄) 森田修吾 (苫小牧高専)
監 査	伊藤光臣 (北大工) 横川英夫 (製鉄化学)	柿本七郎 (北大結研) 宮永喜一郎 (製鉄化)	小林晴夫 (北大工) 広瀬英二 (三井東庄)	藁目清一郎 (北大理) 深見 進 (豊 羽)

年度 項目	昭和47年	昭和48年	昭和49年	昭和50年
支部長	正宗直 (北大理)	青村和夫 (北大工)	木村雅男 (北大理)	副会長* 久郷昌夫 永山政一 (北大工)
副支部長	石井忠雄 (北大工)	木村雅男 (北大理) 馬場宏明 (北大応電)	永山政一 (北大工) 佐々木満雄 (北見工大)	神原富民 (北大理) 森田修吾 (苫小牧高専)
庶務幹事	杉野目浩 (北大理) 星野英興 (北大理) 島田明 (北大理) 古市隆三郎 (北大工)	鈴木明 (北大工) 四ッ柳隆夫 (北大工) 杉岡政敏 (北大工) 吉田仁志 (北大理)	飯島孝夫 (北大理) 服部英 (北大理) 新井義夫 (北見工大) 田村紘基 (北大工)	田村紘基 (北大工) 多賀光彦 (北大理) 大関邦夫 (北大工) 川村静夫 (苫小牧高専)
会計幹事	高杉光雄 (北大理) 土田大猛 (北大工)	新田昌弘 (北大工) 山崎巖 (北大応電)	市川和彦 (北大理) 高橋英明 (北大工)	高橋英明 (北大工) 辻孝 (北大理)
地方幹事	飯田貞一 (道工試) 石丸幸造 (室工大) 岩瀬政吉 (釧路高専) 菊地望 (新日鉄) 佐々木満雄 (北見工大) 沢村浩光 (北教大函館) 下林富士雄 (小樽工高) 高倉英太郎 (旭川高専) 田中開試 (北開試) 広田政雄 (三井東匠) 本多辰也 (北教大旭川) 森田修吾 (苫小牧高専)	飯田貞一 (道工試) 葛蒲明己 (室工大) 岩瀬政吉 (釧路高専) 菊地望 (新日鉄) 佐々木満雄 (北見工大) 沢村浩光 (北教大函館) 今康昭 (小樽保健所) 高倉英太郎 (旭川高専) 田中開試 (北開試) 広田政雄 (三井東匠) 辻野勇 (北大水産) 森田修吾 (苫小牧高専)	飯田貞一 (道工試) 竹内隆男 (室工大) 岩瀬政吉 (釧路高専) 菊地望 (新日鉄) 荒瀬晃 (北見工大) 細谷孝 (函館高専) 今康治 (小樽保健所) 高倉英太郎 (旭川高専) 田中開試 (北開試) 竹本良治 (三井東匠) 森田修吾 (苫小牧高専)	飯田貞一 (道工試) 武田新一 (室工大) 菊地望 (新日鉄) 岩瀬政吉 (釧路高専) 佐々木満雄 (北見工大) 長谷川俊勝 (函館高専) 今康昭 (小樽保健所) 諏訪宣雄 (旭川高専) 吉田雄次 (北開試) 竹本良治 (三井東匠) 間邦彦 (王子製紙)
監査	高田善之 (北大工) 本山秀英 (北海道三共)	正宗直 (北大理) 本山秀英 (北海道三共)	関修一 (北電) 青村和夫 (北大工)	木村雅男 (北大理) 関修一 (北電)

年度 項目	昭和51年	昭和52年	昭和53年
支部長	理事* 正宗 直 神原 富民 (北大理)	理事* 正宗 直 松下 徹 (北大工)	野口 順蔵 (北大理)
副支部長	松下 徹 (北大工) 藤本 昌利 (北大理)	野口 順蔵 (北大理) 吉田 宏 (北大工)	石井 忠雄 (北大工) 勝井 信勝 (北大理)
庶務幹事	大関 邦夫 (北大理) 小平 紘平 (北大工) 片岡 正光 (北大理) 伊藤 翼 (")	小平 紘平 (北大工) 戸倉 清一 (北大理) 網島 群 (北大工) 小笠原 正明 (") 長谷川 俊勝 (函館高専)	戸倉 清一 (北大理) 古市 隆三郎 (北大工) 高杉 光雄 (北大理) 中村 義男 (")
会計幹事	菅原 正雄 (北大理) 大森 唯義 (北大触研)	島田 志郎 (北大工) 戸坂 罔夫 (")	西 則夫 (北大理) 桜井 雅男 (")
化学教育 部会幹事		藁目 清一郎 (北大理)	藁目 清一郎 (北大理)
地方幹事	飯田 貞一 (道工試) 原 弘 (室工大) 菊地 望 (新日鉄) 岩瀬 政吉 (釧路高専) 佐々木 満雄 (北見工大) 長谷川 俊勝 (函館高専) 中谷 省三 (東日本大) 諏訪 宣雄 (旭川高専) 佐藤 俊夫 (北開試) 竹本 良治 (三井東匠) 間 邦彦 (王子製紙)	飯田 貞一 (道工試) 富士川 計吉 (室工大) 菊地 望 (新日鉄) 岩瀬 政吉 (釧路高専) 佐々木 満雄 (北見工大) 長谷川 俊勝 (函館高専) 中谷 省三 (東日本大) 諏訪 宣雄 (旭川高専) 佐藤 俊夫 (北開試) 竹本 良治 (三井東匠) 間 邦彦 (王子製紙)	安孫子 勤 (室工大) 菊地 望 (新日鉄) 長谷川 俊勝 (函館高専) 諏訪 宣雄 (旭川高専) 間 邦彦 (王子製紙) 中谷 省三 (東日本大) 飯田 貞一 (道工試) 岩瀬 政吉 (釧路高専) 佐々木 満雄 (北見工大) 佐藤 俊夫 (北開試) 速水 重利 (三井東匠)
監 査	永山 政一 (北大工) 広田 政雄 (道公害技術 センター)	広田 政雄 (道環境科学 技術センター) 神原 富民 (北大理)	吉田 雄次 (北開試) 松下 徹 (北大工)

V. 資 料 集

寄贈

昭和九年十二月

北海道化學協會會報 第一號

北海道化學協會會則

- 第一條 本會ハ北海道化學協會ト稱シ、北部日本ニ於テ化學ニ關係アル職務又ハ事業ニ從事スルモノ及ビ本會ノ趣旨ニ賛成スルモノヲ以テ會員トス
- 第二條 本會ハ會員相互ノ親睦、連絡ヲ圖リ、知識ノ交換ヲナシ、併セテ斯界ノ向上發展ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ次ノ事業ヲ行フ
- 一、年數回適地ニ於テ會合ヲ催シ、通俗講演、意見ノ交換、研究ノ紹介及ビ各種ノ見學等ヲ行フ
 - 二、隨時各方面ノ權威ヲ聘シ懇談會ヲ催ス
 - 三、各種ノ印刷物ヲ出版シテ會員ニ頒ツ
 - 四、其他前條ノ目的ヲ達センガタメ各種ノ事業ヲ行フ
- 第四條 會員ヲ分チテ名譽會員、贊助會員、通常會員ノ三トス
- 名譽會員 本會ノ推薦シタルモノ
- 贊助會員 本會ノ事業ヲ贊助スル團體又ハ個人ニシテ會費年額拾圓以上若シクハ一時金百圓以上ヲ納ムルモノ
- 通常會員 會費年額貳圓ヲ納ムルモノ
- 第五條 本會ハ會長一各幹事若干名ヲ置キテ會務ヲ處理ス
- 會長及ビ幹事ノ任期ハ一ケ年トシ會員ノ互選ニヨルモノトス
- 第六條 本會ノ經費ハ會費、寄附金及ビ其他ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第七條 本會ノ事業年度ハ毎年六月一日ヨリ翌年五月三十一日ニ至ルマデノ一ケ年トス
- 第八條 會則ノ變更ハ總會ノ決議ニヨル
- 第九條 本會ノ事務所ハ北海道帝國大學理學部内ニ設ク

本會役員

<p>會長 三宅 康次</p> <p>幹事 赤木 救</p> <p>林 嘉吉</p> <p>岩田 彦次郎</p> <p>松山 清藏</p> <p>野澤 弘幸</p> <p>佐藤 久治</p> <p>高橋 榮治</p>	<p>天野 文助</p> <p>堀 義路</p> <p>笠原 十司</p> <p>中村 幸彦</p> <p>大島 幸吉</p> <p>杉野 晴貞</p>
--	--

昭和十年四月廿五日印刷
昭和十年四月三十日發行

北海道帝國大學理學部内

發行所 北海道化學協會

振替小樽一〇四八二番

北海道帝國大學理學部化學教室内

編輯人 杉野 晴 貞

札幌市南二條西六丁目

印刷者 山 藤 國 八

札幌市南二條西六丁目

印刷所 山藤印刷株式會社

昭和23年

支部発会式

昭和23年6月19日(土)午後1時より
北大農学部大講堂に於て開催、盛會裡に無事發會式を終了した。

式後次の特別記念講演があつた。

(1) 蛔虫驅除薬の展望 北大醫學部 田邊恒義

(2) 尿素の製造について
東洋高壓(株)北海道工業所 奥田六郎

支部所在地

札幌市北十條 北海道大學理學部化學教室

支部役員

支部長 太秦康光

副支部長 大塚 博

幹事

庶務幹事 半澤 道郎 高杉直幹 香山 勳

會計幹事 柿本 七郎 進藤益男

地方幹事 林 嘉吉 中村幸彦 江口 孝

岡本 光男 杉浦 伴 吉村 克二

香春三樹次 堀 豪三 中平馬之丞

日本化学会北海道支部内規

第一條 本支部は日本化学會北海道支部と稱し北海道在住の日本化学會員を以て組織する

第二條 本支部は事務所を北海道大學内に置く

第三條 支部は常會を開き學術講演會を行う外見學會、特別講演會、地方大會其他本會の目的達成上適當と認められた事業を行う

第四條 本支部に次の役員を置く

支部長 一名

幹事 十五名以内(中副支部長一名、庶務幹事三名、會計幹事二名)

第五條 支部役員は支部會員中より選りその選舉は毎年二月北海道支部役員選舉委員會で之を行う

第六條 北海道支部役員選舉委員會は毎年一月北海道支部所屬の會員から選舉された十五名の役員選舉委員を以て組織する

第七條 北海道支部役員選舉委員會は全委員の二分の一以上の出席がなければ成立しない、但し缺席委員は書面により出席委員に委任して表決權を行うことが出来る、この場合有効に表決權を行つた者はこれを出席者と見なす

第八條 北海道支部役員選舉委員會は委員長を互選し次期役員中の支部長及び幹事の候補者を豫選しその候補

者を參考として支部役員選舉委員會全員の無記名投票によつてこれらの役員を選舉する

第九條 副支部長、庶務幹事及び會計幹事は幹事の中から互選し支部長がこれを委嘱する

第十條 支部役員の任期は四月より翌年三月に至る一年とする、但し再選を妨げない

第十一條 支部役員に欠員が出来た場合には補欠選舉を行う、但し役員會で事務執行に差支えないと認めた時は選舉を行わなくてもよい

補欠選舉は第五、六、七條に準じて行い補選された支部役員の任期は前任者の残任期間とする

第十二條 支部役員は役員會の同意を得なければ辭任することができない

第十三條 支部長は支部を代表し支部の事務を總括する支部長は役員會を召集し、その議長となる

支部長は細則第四十五條及び第四十六條に定められた事項につき責任を持つ

第十四條 副支部長は支部長を補佐し支部長に事故がある時はその代理となる

第十五條 庶務幹事及び會計幹事はそれぞれ支部の庶務並に會計事務を分擔し、毎年度初めの役員會にはその年度の事業計畫を提出しなければならない

第十六條 役員會は支部役員全員を以て組織し支部の事業計畫を審議し、その遂行に當る

役員會は毎年度末の會合に於て會計幹事より提出された收支決算表を審査する役員會は出席者七名に達しなければ決議をすることができない

第十七條 支部の収入は本部より送附の支部經常費と支部に對する寄附金とからなる

第十八條 本内規は役員會の決議によらなければ變更することができない

附 則

第一條 本内規は昭和二十三年六月 日より有效とし昭和二十三年度に限りこの日より昭和二十四年三月三十一日迄を本支部の事業年度とする

第二條 昭和二十三年度に限り支部發起人會を以て支部役員選舉委員會に代える

第1回常會

常會 北海道支部第1回常會は7月17日(土)午後1時30分より北海道大學理學部に於て開催され、次の如き講演があつた。

(1) モナズ砂より稀土類の抽出について (1) セリウム、ネオジム、ランタンの分離 島崎英一

- (2) トリカプト属アルカロイドの研究(第26報) ル
カコニン(Lucaconine)に就て 古澤至誠
- (3) タール中の鹽基性油の分離につい
て(第1報) 伊藤光臣
- (4) 石炭のコークス化に関する研究(第3報) 石炭
の膨脹性に就て 武谷 愷・久郷昌夫
- (5) 遷移状態法に関する注意 進藤益男

第2回常会

11月13日(土)午後1時半より北大理學
部會議室に第3回常会を開催、下記の研究報告あり、聽
衆約50名、午後4時半散會した。

- 1. 温泉の化學的研究(第20報) 青森縣淺虫温泉
その1) 源泉の分布について
太秦康光・北野康・宮下功・室住正世

- 2. 同 (第21報) 青森縣淺虫温泉(その2)
潮夕の影響について
太秦康光・西村雅吉・渡邊精夫
- 3. 同 (第22報) 青森縣大鰐、藏館温泉
太秦康光・西村雅吉・北野 康・室住正世
- 4. 陸奥灣及び津輕海峽の亞硝酸鹽の分布について
太秦康光・北野 康
- 5. 陸奥灣及び津輕海峽の珪酸鹽及び磷酸鹽の
分布について 太秦康光・北野康
- 6. ビルマシングウ産揮發油成分について
故山本義則・黒田一郎・大手英夫・若山誠治
- 7. Tritium (H^3) 電解分離係數理論値の算出
中村 孝
- 8. 有機硫黃化合物の合成(第2報) チアゾリジン及
びチアゾリジン-4-カルボン酸のN-スルフォニル
誘導體の合成 高田義之

昭和 24 年

北海道地方講演會 (日本化學會・日本化學會北海道支部共催)

第 1 日 7 月 30 日(土)

研究發表會 午前及び午後 (北海道大學理學部に於て)

第 2 日 7 月 31 日(日)

綜合講演會 午前 (北海道大學農學部に於て)

懇親會 午後 5 時より (會費 250 圓)

視察旅行

第 1 班 定員 20 名 費用概算 2,500 圓 (札幌→上川三等汽車賃を含む) 外に米 9 合

8 月 1 日(月) 札幌→豊沼(東洋高壓北海道工業所)→旭川(北海ホテル宿泊)

8 月 2 日(火) 旭川(國策パルプ旭川工場)→上川→層雲峽(層雲閣宿泊)

8 月 3 日(水) 層雲峽にて解散

第 2 班 定員 20 名 費用概算 2,300 圓 (汽車賃を含まず) 外に米 9 合

8 月 1 日(月) 札幌→苫小牧(王子製紙苫小牧工場)→登別温泉(第一瀧本館宿泊)

8 月 2 日(火) 登別温泉→輪西(日本製鐵輪西製鐵所, 日本製鋼室蘭製作所)→洞爺湖(萬世閣宿泊)

8 月 3 日(水) 洞爺湖にて解散

(注意) 第 1, 2 班とも定員超過の場合は先着順による外に札幌附近の視察班もつくる豫定, 參加御希望の方は 6 月末日までに下記へ御申込下さい。

札幌宿泊

札幌に於ける宿舎はできる限りお世話致しますから御希望の方は下記宛御申込下さい。

A 級 1 泊 約 1000 圓外に米 3 合, B 級 1 泊 約 800 圓外に米 3 合

申込先 札幌市北八條西五丁目

北海道大學理學部内 日本化學會北海道支部

昭和 25 年

第 7 回常会

[1] 膠狀沈澱の凍結に関する研究(第 3 報) 凍結水酸化アルミニウムの乾燥について (北大理化) 太秦

康光○藝目清一郎

凍結の反覆により水分の排出%を測定した。水酸化アルミニウムの含水沈澱を -20°C にて 20 時間凍結し, 融解後吸引濾過し, 種々の温度で乾燥脱水を行い, $\text{Al}_2\text{O}_3 \cdot \alpha\text{H}_2\text{O}$ ($\alpha=1\sim 2$ モル) の組成を有する活性アルミナ

を製造した。

[2] Al-陽極による工業用水の脱珪処理について

(北大工) 岡本 剛・大蔵 武○須藤 登

流水中, Al-陽極で電解して脱珪する。その条件を電流密度, 流速等最適条件を示した。

[3] 眞空蒸溜下に於ける充填物に就いて (北工試)

富樫喜代治

デカリン, テトラリンの二成分系を一定の精溜塔で比較試験をし, その充填物として Carding tooth, Berl Saddle, Rasching Ring 等を用い精溜能をしらべた。

〔4〕ハッカ油中のメントール回収について (北工試) ○伊藤昌明・中沢信二

脱脂油の高沸点部を除去して硼酸法を用い、又濃厚アルカリで処理して硼酸法を用いると香氣良好なる結晶メントールを殆んど定量的に回収される。殊にメントンに就いてはその動的立体平衡に論及した。

〔5〕合成潤滑油の安定性向上並に発動機内に於る変化(第5報) 安定剤と天然鉱油処理油との協同効果

(北大工) ○稻葉彌之助 (北販連研究所) 馬谷勝利

テトラフェニル錫と特別な天然鉱油処理油を併用して British Air Ministry 法, 酸化試験, 粘度指数, 酸價及カーボン数の変化, 夫々の指数の相互関係等を詳しく検討した。

〔6〕石灰窒素誘導体に関する研究(第3報) ニトログアニチンよりアミノグアニチンの製造 (北大工)

大塚博○高田善男

亜鉛末と醋酸による還元条件を吟味して収率を70%まで上昇せしめた。

〔7〕充填塔に於けるアンモニア水に依る炭酸ガスの吸収について (東庄) ○北 弘・大籠一郎

アンモニア水に依る炭酸ガスの吸収を小充填塔で種々のガス流速, 液流速にて行い, 総括物質移動係数 K_{GA} はガス流速に無関係で, 液の流速と NH_3 の濃度によって變化し, 次の如き実験式を求めた。

$$K_{GA} = 61 L^{0.40} (0.94 N \text{ アンモニア})$$

$$K_{GA} = 23.7 L^{0.18} (2.50 N \text{ アンモニア})$$

〔8〕合成洗剤の研究(第1報) 合成残ガスを水添用ガスとする硬化油の製造 (東庄) ○上野喜三郎・紀俊道・丹後敬三 (北大工) 大塚博・富田宣・高橋修・青村和夫

H_2 57.8%, CH_4 15.2%, N_2 27.0% (NH_3 除去後) の如き組成の NH_3 合成の残ガスが鯨油の如き油脂の水添に使用出来る事を試験した。この際, NH_3 残は触媒に悪影響をおよぼすので除く。Ni-珪藻土 1%, ガス圧 9 atm, 180°C, 3 時間で I. V. 120 のものが I. V. 6.8 に降下する。

〔9〕熱拡散法による混合ガスの連続的分離 (北大応電) 廣田鋼藏 ○小林康司

さきに報告した(日化, 64, 450(1943)) の分離管について, 管長のみを変えて, その分離能を調べた。しかし最大の分離量を得る装置を設計した。

〔10〕泥炭のアンモニア化(第2報) (室工大) 佐藤久次 ○佐々木満雄

泥炭のアンモニア化はそのフミン酸を増加させる必要があり, 稀硝酸, 空氣にて泥炭を酸化して, 63% のフ

ミン酸含有の泥炭をつくり, これをアンモニア化して窒素量 12.6% のものを得た。又フミン酸, 酸化フミン酸, フミン酸泥炭の比較アンモニア化により, 泥炭のアンモニア化は殆んど化学反応である事を推論した。

第8回常会

1. 非可逆過程の統計理論 (I) (北大理) 下地光雄

非可逆過程を統計力学的方法によつて論じた。grand canonical ensemble について Gibbs の方法を extension し種々の重要な結論を得る。この結果が熱力学方法及び Boltzmann の方法による結果と比較した。第1報に於ては, 化学反応の場合について特に考へている。

2. レダクトンオキシダーゼ(第1報) (北大理)

○山崎勇夫・齊藤恒行・高杉直幹

S. Filitti-Wurmser and J. B. Veiga Salles (1942) はアスコルビン酸 (I) の酸化酵素によるレダクトン (II) の酸化について述べている。しかし演者は I 及レダチン酸 (III) を酸化しない酵素が II を酸化し, II の酸化酵素の阻害度 $pKCN$ 曲線は I のそれと異なり, 又グラタンが阻害しない事から, I と II の酸化酵素の相異を述べた。II の酸化酵素の反応活性化熱は 9300 cal で $(NH_4)_2SO_4$ の塩析曲線からしても, それが酵素的である。

3. 水銀塩存在下に於けるサルチル酸及トルオールに対する硝酸の作用 (北大理) 柿本七郎・塩見貞昭

A. Zakherov (C. A., 25, 4864(1931)) はサルチル酸の水銀塩存在下に於て 4-, 6-ニトロサルチル酸を得た条件にては 5-, 3-ニトロ化合物のみを得。演者等は更に条件を吟味して 3-ニトロ化合物及 5-ニトロ化合物を各々別々に 80% 収量にて得る事が出来た。又トルオールに於ては *p*-ニトロ安息香酸及び 3-オキシ-2, 4, 6-トリニトロトルオール (I) を各々別々に 60% の収量にて得る条件を見出した。同時に少量のニトロサルチル酸を得。猶 I の生成条件にてフェノールを硝化すると 85% の収量にてピクリン酸を直ちに得る事が出来る。

4. 抗結核製剤の合成 (第1報) チオセミカルバソンの誘導体 (北大結核研) ○関川 勳・柿本七郎

次のものを合成した。即ち $NH_2 \cdot CS \cdot NH \cdot N = CH \cdot C_6H_4 \cdot SO_2 (-R \text{ とす}) - NH_2$ (I), $R - NHC_6H_5$ (II), $R - NHC_6H_4NO_2$ (III), $R - NH - C_6H_4OC_2H_5$ (IV)。合成法は *p*-トルオールスルホクロリドを酸化したアルデヒド・チアセタートをアミノ化合物と縮合した。以下常法。I の抗菌力は Modified Proskauer and Beck's medium にて H-37 R で 8×10^{-4} mol. per l. 他は試験中である。

昭和26年

第9回常会

昭和26年12月7日(金)午後1時30分より北大理学部会議室に於て、第9回支部常会を開催した。農・理・工の関係者のみならず、多数の参加者があり、各分野からの質問も続出し、活発な質疑応答が展開されて非常に有意義だった。

研究発表：—

1. 抗菌性表面活性剤の研究(第2報)テウロニウム化合物の抗菌性について 北大工 稲葉彌之助○高田善之・宇野翁
2. チアゾリジン誘導体の合成(第2報) 北大工 高田善之
3. 磷酸系清浄剤に関する研究(第1報) 室工大 ○佐藤久次・加納久雄
4. 海藻類の完全利用に関する研究(第5報) 昆布中よりL-グルタミンの分離 室工大 佐藤久次○森田勝夫

特別講演：—

新肥料について

東洋高圧北海道工業所技術部長 横川英夫

昭和27年

第10回常会

12月16日(火)午後1時30分より北大理学部会議室にて開催、下記10件の研究発表があり、活発な質疑応答が行われた。参加者約40名。

- (1)北海道白樺より活性炭の製造試験について(北興化学)○兼子隆夫・藤井芳男
- (2)有機化合物中のHgの分析——特にジチゾンによるR-Hg⁺の分析について(北興化学・北大工)○兼子隆夫・天崎泰平
- (4)硫黄原鉱を直接原料とせる石灰、硫黄合剤の製法について(北興化学) 村川重郎・飛鳥音久・兼子隆夫○佐藤久隆
- (5)チアゾールカルボン酸ヒドラジドの抗結核菌作用について(北大工・結核研)○高田善之・山本健一
- (6)魚油の乾性化に関する研究(北工試) 高野政吉○井上博・田畑恒夫
- (7)海藻類の精油成分について(北大農水)○安藤芳明・山東セツ子
- (8) Alginase について(小樽協会病院) 馬久地松雄○荒井静雄
- (9) Reduction oxidase の作用について(北大工)○高橋 宏・山崎勇夫
- (10) Cu⁺⁺ による Ascorbic acid の究気酸化触媒機構(Anionの影響について)(北大工)○小西和彦・山崎勇夫

昭和28年

第11回常会

7月10日午後1時半より北海道大学理学部会議室に於いて開催、多数参加者あり盛大裡に終了した。

- 研究発表 (1) 不飽和脂肪酸の酸化について(第1報)(不飽和脂肪酸の硝酸酸化)(東工) 三輪一郎・上野喜三郎○似内清明・丹後敏三 (2) 炭酸ガスの脱硫について(東工) 田中義人・紀俊道・広田政雄・吉井喜八郎 (3) ベンゾール精製に及ぼすジクロールペンタジエンの影響(富士鉄) 玉置喜平治 (4) コークス炉作業条件と化成品の性状(富士鉄) 杉森正和 (5) ハッカに関する研究(第7報) ハッカ油成分のクロマトストリップ(北工試) 伊藤昌明○若松茂・川原鳳策 (6) ハッカに関する研究(第8報) 邦産ハッカ油の精製について(北工試)○伊藤昌明・川原鳳策 (7) 柔魚の生物化学的研究(第1報) 柔魚肉蛋白の分別について(北海道学芸大函館) 奈良盛 (8) 二塩基酸ヒドラジドの抗結核菌作用について(北大工)○高田善之(北大結核研) 山本研一 (9) イオン交換樹脂による低湿地帯の水処理に関する知見(北大工) 岡本剛・大蔵武○後藤克己(北大工) 香山勲 (10) 表面活性剤による硫黄精練の収率増進について(北大工) 岡本剛・大蔵武・北浜正治 (11) 燐酸塩の定量 オルト及びピロ燐酸塩の定量(室工大)○上野幸三・丹羽光範・室左豊彦

支部地方大会

昭和28年9月18日19日の両日、函館市において昭和28年度北海道地方大会を開催した。第1日 9月18日(金)

研究発表講演会

- (1) 甘露フオスファターゼの研究(続1報) 砒酸塩、硼酸塩等による阻害(北大工) 高杉直幹○近藤 敏・渡辺静雄・伊藤英治
- (2) 動物飼育試験による柔魚肉蛋白の栄養価とその消化吸収率について(北大水産) 吉村克二(学芸大)○奈良 盛
- (3) 根曲竹よりフルフラールの製造に就て(北工試) 末広吉生○田畑恒夫・高倉英太郎
- (4) 新テトラゾリウム・クロリド系色素の合成並びにその結核菌に対する利用について(北大結核研)○柿本七郎・有馬 純・山本研一
- (5) 焼入後加工したAl-Zn-Mg合金の応力腐蝕について(学芸大)○渡辺亮治(上磯商校) 沢田 満
- (6) 蒸気圧法による魚肉結合水の測定について(北大水産) 秋場 稔
- (7) 合成高級アルコールの成分分析について(北大工) 大塚 博・伊藤光臣・富田 宣・飯尾賢二○上徳 実
- (8) 苫小牧市周辺の河川の水質(特に工業用水源としての見地より)(学芸大札幌)○香山 勲(北大工) 大蔵 武・後藤克己
- (9) 工業用水としての北海道河川水の水質について(第1類) 石狩川の水質(北工試) 塗師幸吉○高倉英太郎・駒井英一・種村藤吉
- (11) 石炭サンプリングの研究(東洋高圧)○北 弘・白鳥 武
- (12) 乾燥の条件とコークスの性状(富士鉄) 久田清明○菊地 望
- (13) 煉炭

製造に関する研究(第5報)草炭粘結剤を用い加温中圧式成型績炭について(北工試)富樫喜代治(14)泥炭のアンモニア化(第6報)泥炭の酸化法について(室工大工)佐藤久次○佐々木満雄・八幡寿雄(東洋高圧)紀俊道(15)ヌール塩基の利用(第8報)(北大工)伊藤光臣(16)キノリンの液相接触酸化(室工大工)小松藤男(16')アルギン稀薄溶液の膠質学的平衡について(北大水産)加藤健司(17)アルギンの製造機構に関する研究(北大水産)鈴木昇(18)海藻類の完全利用に関する研究(第7報)アルギン酸製造法の改良(その3)(室工大工)佐藤久次○安藤節夫・森田睦夫(19)海藻類の完全利用に関する研究(第8報)褐藻類のヨード化合物について(室工大工)佐藤久次○森田睦夫

懇親会 午後5時30分より函館五島軒に於いて開催した。出席者60名。

第2日 9月19日(土)

工場見学

A班 ライオン油脂函館工場
日産化学工業函館工場 出席者 40名

B班 日本セメント上磯工場 出席者 20名

特別講演及び科学映画

午後1時30分より函館市労働会館において開催した。

来聴者約200名

開会の辞 日化北海道支部副支部長 横川 英夫
講演

「北海道における農水産加工工業の合理化について」 北大教授 大塚 博
「北海道における鉱工業の廃水と水産」

道立水産試験場函館支部長 五十嵐彦仁

閉会の辞 日化北海道支部函館地方大会実行委員長 飯田 紳生

映画 つつが虫、こむぎの祖先、せんたく

昭和29年

第12回常会

日時 9月10日午後1時

場所 北海道大学理学部南講義室

新旧支部長挨拶 その他

研究発表

司会者 正宗 直

1. あわび肝臓に含まれる酵素 Alginase について—
酵素作用の至適 pH に関する知見(20)(小橋病院)
馬久地松雄○荒井静夫
2. 羊毛蠟の回収および利用に関する研究(第1報)
抽出羊毛の化学的性状について(20)(北工試)○井
上 博・鎌田 紀
3. 合成高級アルコール中の飽和炭化水素の定量につ
いて(15)(北大工) 飯尾賢二・齋藤松寛
4. Sesamol の一新合成法について(15)(北大工)
高田善之・松田敏雄

司会者 永山 政一

5. フレーム・フォトメータによる化成肥料中のカリ
の定量(15)(東洋高圧) 田中忠義○大籠一郎・江木
博
6. 赤色第一銅アセチリドの酸化と発火温度(20)(東
洋高圧) 森田修吾
7. 高压汽罐における珪酸系織石防止に関する研究
(第2報) 磷酸系清繕剤の作用機構並びに適正添加
量について(その1)(20)(室蘭工大) ○加納久雄
・佐藤久次
8. 高压汽罐における珪酸系織石防止に関する研究
(第3報) 磷酸系清繕剤の適正使用量に関する考察
(20)(室蘭工大) 佐藤久次
司会者 佐藤 俊夫
9. コーライトの粘結炭による固形化に関する研究
(15)(北工試) ○長井 弘・広田和一
10. ビーハイブコークスの製造に関する研究—沈澱
微粉炭の脱灰(その1)(15)(北工試) ○飯田貞一
・広田和一
11. 熔融金属中の拡散現象について(20)(北大理)丹
羽貴知蔵○下地光雄・門 智・渡辺芳彦・横川敏雄
12. 熔融金属の表面皮膜に関する研究 I (錫の酸化皮
膜について)(20)(北大理) 丹羽貴知蔵○島岡五朗
・山井 巖
13. 熔融金属の表面皮膜に関する研究 II (錫の酸化皮
膜について)(20)(北大理) 丹羽貴知蔵○島岡五朗
・山井 巖

支部地方大会

10月7日、8日の両日にわたり、
苫小牧市において研究発表、懇親会、工場見学、講演と
映画の会等多彩な行事を行い、研究発表会は参加者約
150名、工場見学会約40名、懇親会約50名、講演と映
画の会約350名で盛大裡に無事終了した。

I. 研究発表 市公民館 7日午前10時より

- (1) 乾式繊維板について(岩倉組) 会田徹 (2) 印
刷紙適性に対するヘミセルローズの挙動(国策パルプ勇
払) ○山森昇・小林学 (3) パルプ中の還元基の定量
法(北大工) 渡辺貞良○桑名謙一・佐藤芳雄 (4) ア
ルカリ処理によるパルプ中の酸化繊維素の変化について
(北大工) 渡辺貞良・桑名謙一○佐藤芳雄 (5) 泥炭

のアンモニア化(第7報) 稀硝酸酸化法(室蘭工大)
○八幡寿雄・佐藤久次・佐々木満雄 (6) 泥炭肥料に
関する研究(第1報) 泥炭肥料フモンのサンプリングに
ついて(北工試) 富樫喜代治 (7) 脂肪酸礬土による
凝灰土の防水防湿防熱の研究とその応用(函館) 佐藤専
八 (8) ビーハイブコークスの製造に関する研究・沈
澱微粉炭の脱灰(その2)(北工試) ○飯田貞一・広田和
一 (9) エチレンジアミンテトラ酢酸 2-ナトリウム
(ETA 試薬)による淡水の硬度測定についての一知見(北
工試) 駒井英一 (10) 尿素中のピュレット定量(東
洋高圧) 中山義男・田中忠義○中村宏三 (11) Natrium
acyl hydrazino methan-sulfonate の合成について(北
大工) ○高田善之(北大結核研) 山本健一 (12) ミル
クの Phosphatase について(北大理) 近藤敏・高杉直
幹

II. 文化映画鑑賞 市公民館

「空気と水の化学」「火山三原山」「南極の秘境」

III. 懇親会 王子製紙クラブ 午後6時半より

IV. 工場見学 8日午前8時より

国策パルプ男払工場・岩倉組ハードボード工場・王子製紙工場

V. 特別講演と映画の会 午後2時より

講演「放射性同位元素とその応用」

北大理学部教授 堀内寿郎

「繊維の話」 北大工学部教授 渡辺貞良

映画「輝く富士」「レーヨンの科学」「火山三原山」「空気と水の化学」

第13回常会

11月27日(土)午後1時より北大理学部会議室において開催、活潑な討論が行われ、午後3時無事終了した。参加者約30名。

【研究発表】(1) 界面活性剤による硫安の固結防止について(東洋高圧) 中山義男○吉井喜八郎・井尾健次 (2) 海藻類の精油に関する研究(第5報) エゾヤハズ油セスキテルペン類の構造(札幌衛研) 安藤芳明 (3) Alkylbernstein-säuredihydrazidの合成について(北大工) ○高田善之・松田敏雄(北大結核研) 山本健一 (4) 実験室的精溜塔の性能試験について(北大工) 伊藤光臣

昭和30年

北海道地方大会

日本化学会北海道地方大会は、7月25日より29日まで5日間札幌で開催された。幸い会期中は快晴に恵まれ道外より鮫島会長、岡副会長をはじめ約40名、道内より岡本副会長、佐藤支部長をはじめ約300名が参加して盛況であった。

第1日 北大理学部の2会場で午前、午後にわたって40件の研究発表が行われ、夕刻より札幌市長招待のバ



研究発表会会場



札幌市長招待会で挨拶する鮫島会長

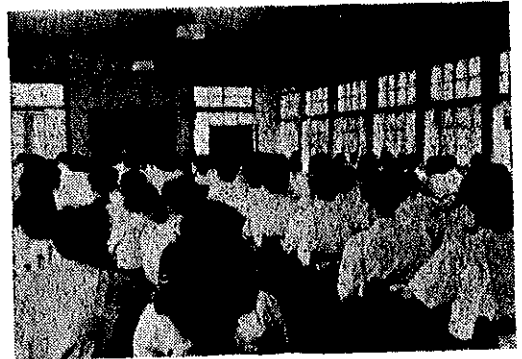
ティーがアカシアの並木の産業会館で開催され、約100名の会員が参加して静かな夏の夕暮を過ごした。

第2日 同じく2会場で午前中14件の研究発表が行われ、引きつづき午後1時30分より商工会議所ホールにて、道との共催で特別講演会を開催した。

1. 新しい木材糖化工業 野口研究所 大島幹義
2. 製塩工業の新しい発展

東京大学工学部 岡 俊平

両氏の特別講演は、北海道総合開発が叫ばれている折柄一般市民の関心をよび、会員、一般市民を含めて約200名が詰めかけ非常な盛況裡に終わった。



特別講演会の会場

つづいて5時30分よりグランドホテルにて、鮫島会長以下本部役員、道内外会員および各官公庁、会社の代表者等約130名が和やかに2時間を過ごした。

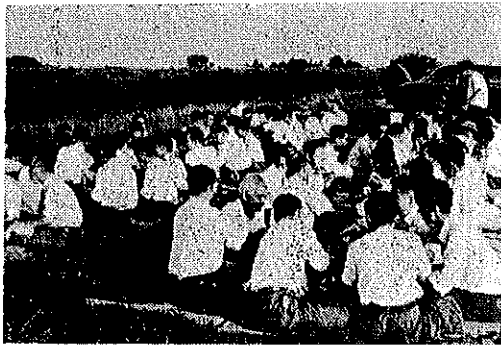
第3日 市内見学(A班)

バス2台を連ねて約85名の会員が次の経路で市内を見学、最後に羊の群れ遊ぶ月寒種羊場から月寒学院向ヶ丘にて成吉思汗鍋を賞味しながら、夕日の地平線に沈む頃帰途についた。

コース 北大構内——北大植物園——円山公園——動物園——中島公園——雪印乳業本社および同工場——帝国製麻札幌工場——日本ビール札幌工場——月寒種羊場——月寒学院——札幌駅前

第4日、第5日 見学旅行(B班 旭川、履雲峡方面 約25名、C班 室蘭、登別方面 約45名)

B班、C班に分れてそれぞれ次の見学旅行を行った。
B班 札幌より砂川にいたり、東洋高圧北海道工業所を見学、つづいて旭川にいたって林業指導所見学後、バ



月寒学院向ヶ丘における成吉恩汗鏡

スにて層雲峡にいたり一泊し、翌日ふたたびバスにて旭川へ出、国策パルプ旭川工場を見学、解散した。なお一部の人達はつづいて北見を経て阿寒方面に向った。

○班 全行程バスにて札幌より支笏湖を経て王子製紙苫小牧工場を見学、昼食後登別にいたって一泊した。翌日は室蘭に向い富士製鉄室蘭製鉄所を見学、ふたたびバスに乗って洞爺湖にいたり、昭和新山の麓、湖畔を廻って中山峠を経て定山溪より札幌に帰着した。なお一部の人達は洞爺湖より直接帰途につかれた。

昭和31年

支部地方大会

9月2日、3日の両日北見市商工会議所において開催した。2日午前には研究発表(下記)で参会者約60名、午後は特別講演と映画の会で一般来聴者が多数おしかけ定員約150名の会場が満員の盛況であった。3日は工場見学で野村鋳業イトムカ鋳業所、ホクレン薄荷工場、北見パルプ工場、松下木材株式会社の諸工場を見学し、5時散会した。

研究発表 (1)硫化ゲルマニウムの蒸気圧(北大理)丹羽貴知蔵・島崎英一○和田次康、(2)北海道炭煙道灰よりのゲルマニウム抽出(第2報)カセイソーダ溶液による抽出(北工試)緑川林造○高倉英太郎・駒井英一、(3)石炭中のGeのフェニルフルオロンによる分光光電比色分析(北工試)緑川林造○駒井英一、(4)分光分析による試薬の特別迅速判定法(第4報)共存カルシウムについて(山形大工)○大沢俊行・真板邦次・斎藤浩・大泉誠三、(5)銭函地区の地表水、地下水について(北学大札幌)香山 勲○猪狩恆将、(6)八雲鉱山における温泉について(北学大札幌・宇都宮大学芸)香山 勲○入江敏勝、(7)坑内排水の防除に関する研究(道水産研)○五十嵐彦仁・駒木 成、(8)微酸性砂濾過法による泥炭地の水の脱色脱鉄——塩化第2鉄添加による効果(北工試)高倉英太郎○種村藤吉、(9)粘結炭の高圧水素添加に対する一考察(北大工)○久郷昌夫・林 茂、(10)イオン交換樹脂の硫酸再生について(東庄砂川)川津嘉美、(11)Nonamethylene diamineの製造について(東庄砂川)三輪一郎・上野喜三郎○似内清明、(12)パルプ

の品質判定についての一提案(北大工)渡辺貞良○林治助、(13)繊維素繊維の微細構造(第4報)繊維素繊維の第1次膜および第2次膜の結晶性の相違について(北大工)渡辺貞良○井上貞行(14)処理を受けた血痕に対するBenzidine反応の発現について(北見日赤病院)藤田作一○高橋政勝、(15)アルギン酸分解酵素——イオン交換樹脂による精製(予報)(小樽協会病院)馬久地松雄○荒井静雄、(16)脂肪酸アルミニウムによる混凝土の防水防湿防露の研究とこれが寒地住宅に対する応用(佐藤研究所)佐藤専八、(17)泥炭肥料に関する研究(第3報)フモン、泥炭、アンモニア化泥炭の食塩水浸出液および加水分解性窒素成分について(北工試)○富郷高代治・今村俊勝、(18)北海道産はっか油中のカルボニル化合物について(北連北見薄荷)○小野垣俊雄・濑戸秀男

昭和36年

支部地方大会

10月2日(月)3日(火)の両日、日本分析化学会北海道支部、北見科学研究会との合同で開催した。

[研究発表会]10月2日午前9時より北見工業短期大学において開催。参会者約80名。午後3時30分終了。

1)アンモニウムチタニルサルフェイトの加水分解による酸化チタンの製造法(その2)(北工試)高倉英太郎・菊池博男、2)泥炭のアンモニア化(第12報)(北見工短大)佐々木満雄、3)クロム鉄鉱焼成物よりクロム酸ソーダの抽出(室工大)松田治八郎・本田重司、4)粉乳噴霧乾燥機の性能および諸元、とくに niro type 噴霧乾燥機(雪印乳業)石岡要造・林弘道、5)測定誤差のある場合の管理図の特性(室工大)金塚高次、6)根曲竹セルロースの酸液中における崩解(北工試)井上博・野口達夫、8)ハッカ油中のカリオフィレン(ホクレン・北見)小野垣俊男、9)BF₃-リン酸系触媒によるアルキル化および重合反応(北大工)大塚博・伊藤光臣・青村和夫・長谷川博章、10)酸化物触媒によるポリオレフィンの合成(北大工)大塚博・青村和夫・干成陸夫・中山雄二郎、11)リン酸触媒によるプロピレン重合油の構造(北大工)大塚博・青村和夫・吉田昌弘、12)エチレンの空気酸化(第9報)Box法による最適反応条件の検討(室工大)加納久雄・金塚高次・平野晴望、13)シキョクケの有毒成分(北大理・東大伝研・札幌医大)松本毅・白浜晴久・横山洋士・神岡陽平・小松信彦・中井健五、14)端野、訓子府耕地土壌の粘土鉱物および水稲脱穀重塵肺鉱物(東北大教養・北農試・端野農協)中村喜義・八木健三・楠隆・中村基司、15)血痕からRh式血液型判定(日赤北見)藤田作一・高橋政勝、16)催眠剤のハン点分析および螢光反応(日赤北見)藤田作一・磯波喜薫、17)酸性法硫酸触媒、酸性触媒によるV抽出とPの分離(東庄砂川)川津嘉美・井尾健次・香川秋雄・稲田芳久、18)酸性溶媒抽出におけるチオ尿素の効果(東庄砂川)川津嘉美・大籠一郎・山口東一、19)金属中のテルルの分離法(北大理)太秦康光・林謙次郎・伊藤三郎、20)テトラエチルチウラムジスルフィドによる

テルルの抽出吸光光度定量法(北大理)吉田仁志, 21) ホルムアルドキシム法によるマンガンの比色定量, 鉄の妨害除去(北大工)岡本剛・後藤克己・小松剛・古川利郎, 22) コバルト地金, 銅およびアルミニウム合金中のニッケル吸光光度法(日鋼室蘭)前川静弥・加藤清敏, 23) 鉄鋼中チタン定量法(富士鉄室蘭)杉森正和・水野孝見, 24) 分光分析によるニッケル地金の定量分析(日鋼室蘭)前川静弥・鈴木孝範, 25) 直読式発光分析装置(富士鉄室蘭)中田端穂, 26) 電位差滴定法における電極(双金属)の選択, EDTA 滴定(室工大)太刀川哲平・上野幸三・柏木民次郎, 27) チオアセトアミドによる硫化ニッケルの沈殿(学大・旭川)鷲塚重成, 28) エチレンクロロヒドリンを用いる均一溶液から水酸化アルミニウムの沈殿(北大理)太秦康光・林謙次郎・塗師幸夫, 29) 遮蔽, 脱蔽作用を利用した均一溶液からの水酸化第二鉄の沈殿(北大理)太秦康光・栄花正吉, 30) プリアンプ併用による微量CO₂のガスクロマトグラフィーによる定量とその応用例(東庄砂川)森田修吾・東谷博, 31) プリアンプ併用による微量メチルエステルの定量とその応用例(東庄砂川)森田修吾・東谷博, 32) ガスクロマトグラフィーの工業分析への応用(第3報)(北大工)伊藤光臣・石川昭男・秋山信一

〔公開講演会〕

10月3日午後3時より北見市北見会館において開催。参会者約400名。午後5時30分ごろ終了。講師ならびに演題は「アメリカおよびカナダにおける化学研究の動向」北大理学部教授太秦康光氏, 「工業触媒について」北大工学部教授大塚博氏。

〔工場見学会〕

10月3日午前9時より野村鋳業イトムカ鋳業所ならびに松下木材本社工場を見学, 午後3時近く北見市内において解散。参加者約50名。

昭和37年

化学三学会連合北海道地方大会

化学三学会連合北海道地方大会印象記

本大会は7月19, 20, 21日函館で開かれた。



凍結乾燥座談会

日化東北支部と北海道支部では4年に一度、東北・北海道交互に合同大会を持つことになっているが、さきに昭和34年10月に、秋田で開催し、今回は各方面の協力を得て、日本分析化学会東北・北海道両支部、化学工学協会関東支部と共催で、北大水産学部を会場として開き、盛会裡に終了した。

両館は例年のない異常湯水で給水制限が行なわれたりして、種々心配されていたが、幸いそれも会期前に解除された。ところが、こんどは空模様の具合が悪く、全日空、北日本航空が欠航したが、連絡船は欠航せず、19日は曇天にもかかわらず約150名の会員が参会した。

第1会場は有機化学, 第2会場は無機化学, 午後は有機, 分析化学, 第3会場は化学工学に関する研究発表が行なわれ、活発な質疑討論が交わされた。引きつづき17時から凍結乾燥の座談会が開催されたので、会場の北大水産学部からバスで共愛会館へ、他方湯ノ川の宿舎へと分れた。

凍結乾燥に関する座談会は、さすがに水産都市函館であるだけに、100名の参会者が集り、東健一日化北海道支部長の閉会の辞があり、座長の東大生産研教授山本寛氏から4人の講師(精研舎機器装置株式会社社長 小野綜己氏, 広島大学教授 河村祐治氏, 日本真空包装株式会社社長 真田幸一氏, 北海道庁農政課長補佐 寺田一寿男氏)の紹介があり、冷凍乾燥の現状と問題点について、各講師の講演が行なわれ、そのあと質疑応答があり、盛会裡に散会した。

20日は午前中第1会場では主として有機生物化学, 第2会場は有機化学, 第3会場は物理化学を中心にした研究発表が行なわれた。この日は小雨模様の天気で、7月中旬にしては涼しく、熱心に研究発表質疑が交わされた。講演件数に日化関係約50, 化工関係30件, 計80件で、4年前の秋田での大会よりは少ないが、予想に近い件数であった。内容も単なる学会便乗観光型の発表ではなく、充実した発表が多数を占め、啓発されるどころが多かった。

午後1時30分から講堂で特別講演が行なわれ、日本化学飼料株式会社社長 竹井俊郎氏, 北大理学部教授 塩川孝信氏, 東大生研教授 山本 寛氏がそれぞれ専門の学殖を披露され、力の入った熱弁で聴衆に多大の感銘を与えた。終って、バスで懇親会場の五島軒へ行き、午後6時から北大水産学部斎藤恒行教授がタレントを發揮された。流れるような司会で懇親会が進められ、東大会長の挨拶, 鳥海達郎東北支部長, 宮内照勝化工関東支部長, 森永孝三分析化学会北海道支部長の挨拶が引きつづいて行なわれたほか函館市長吉谷一次氏の歓迎の辞, 市議会議長の挨拶, 前日化会長の永井彰一郎氏の仕者を凌ぐ長広舌などのあと、ビールと酒を傾け、料理に舌鼓をうちながら、湯ノ川のきれいだころによる郷土民謡や舞踊を鑑賞した。

21日は見学会で、A班は函館ドック, 函館山, 立待岬, 五陵廓, トラピスト, B班は日本化学飼料函館工場, 新亜細亜函館製油所, 日本セメント上磯工場, それぞれ約50名の見学者が9時に湯ノ川を出発した。

北海道大会の開催については函館市, 日本セメントをはじめ8社のご協力があり、実行委員長の北大水産学部

吉村教授の東奔西走の活躍、斎藤恒行教授のバックアップ、また水産学部や学芸大学の諸先生、学生、職員のご協力をいただいた。また化工の座談会は、水産学部の小林喜一郎教授、北大工学部の久郷昌夫教授の絶大なご援助で開かれた。そのほか本部役員として東 健一 道支部長、工学部合化の小林晴夫教授、応用電気研究所 馬場宏明教授や各幹事の諸先生の陰に陽にご助力、ご教示下されたことは強い印象として残っている。

初めての大会経験で行きとどかぬことが多かったことと思うが、最後に北海道大会に参加された会員諸氏のご協力を感謝する。(沢村浩光)

昭和39年

支部地方大会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 9月4日(金), 9月5日(土)
会 場 東洋高圧工業株式会社北海道工業所(砂川市豊沼)
〔交通〕 国鉄砂川駅下車, バス利用可, または国鉄豊沼駅下車, 徒歩5~10分, 札幌市からバスの便あり

研究発表(講演時間10分, 討論2分)

9月4日 —(9時30分から)—

A 会場

- 8-ヒドロキシキナルジンの分配(北開試)○伊藤三郎・加藤若子
- Chromazurol S を発色剤とする Th (IV) の分光光度定量法(北学芸大函館分校)○石田良栄
- アニオン界面活性剤の定量(北学芸大札幌分校・北大理)○懸田祐介・神原富民
- NMR による分子中水素含量の測定(北開試) 佐藤俊夫○三上康子・神力就子
- 弱酸性イオン交換樹脂の吸湿性と誘電特性(神奈川工試)○竹下三吉・井口 潔
- クロム鉱石焼成物における飽和浸出液の拡散係数(室蘭工大)○杉田治八郎・本田重司・久新正三郎
- 加圧下における石炭の熱分解(北見工大)○本間恒行・大野 豊
- 泥炭フミン酸の NaOH-C₂H₅ 法による水添に関する考察(北見工大) 佐々木満雄○岡 宏
- 測定誤差のある場合の管理図の特性(第4報)(室蘭工大)○金塚高次
- 測定誤差のある場合の管理図の特性(第5報)(室蘭工大)○金塚高次
- 油状塩化ホスホニトリルの加水分解(北大工) 斎藤肇○斎藤 忠
- イオウの特性X線の化学シフトと線相対強度(北開試) 佐藤俊夫○高橋義人・矢部勝昌
- 繊維状チタン酸カリの生成(北大工)○斎藤 肇・田草川信雄
- 超高压下における硬質物質の合成——アルミナとベリリアおよびマグネシアとの反応——(北大工)○山井 巖・斎藤 肇
- 酸化アルミニウム(Al₂O₃)の二, 三の準安定相の変態についての熱化学的研究(シカゴ大金研)○横川敏雄・O. J. Kleppa
- p-Nitrophenol と triethylamine とから生ずる Ion 対(北大応電研)○松山昭雄・馬場宏明・国分 洪
- 励起状態におけるアクリドンの酸解離(北大応電研)○小林美佐子・国分 洪

B 会場

- カルボン酸塩の熱分解生成物(北大工) 高田善之・松田敏雄○堀中亮司
- フリーデルクラフト反応によるケトン合成の触媒量(北大工合化) 高田善之○林 幹夫・大家邦夫
- カルボン酸と塩化イオウとの反応(第3報) イソフタル酸塩化物の合成(北大工合化) 高田善之・松田敏雄○成瀬昭一
- ペラトラミンおよび関連アルカロイドの C-9 の立体配置(北大理) 正宗 直○高杉光雄・森 与一・村井章夫
- 海草のテルペン(第2報) 大そぞの新セスキテルペン・ラウレンの構造(北大理) 入江 遠○安成由美子・今井節夫・正宗 直
- α-ketol の NMR スペクトル(小林理研)○西田利明・吉田瑞子
- N-ethylmaleimide による H-メロマイオン ATPase の chmicol modification(北大理)○八木康一・矢沢洋一
- 三フッ化ホウ素系触媒によるアルキル化反応(北大工) 大塚 博・青村和夫○米田徳彦
- クロトンアルデヒドの部分水素添加反応(北大工) 大塚 博・青村和夫○平野和治
- オレイン酸, 一酸化炭素および水から二塩基酸の合成(北大工・北工試) 大塚 博・青村和夫○佐々木誠・松原陸哉
- プロピレンの空気酸化(室工大化) 加納久雄・金塚高次○富士川計吉
- 3-置換シクロペンテンの過酸化化(I) 3-acetoxycyclopentene および 3-methoxycyclopentene のモノ過フタル酸酸化(室工大化)○竹野 昇・森田陸夫
- ベンゾフェノン-4,4'-ジカルボン酸のバイヤービラーゲル反応によるテレフタル酸と p-オキシ安息香酸の同時合成(北大工合化) 高田善之・市村喜芳○近藤勝養
- 金属粉を触媒とするフリーデルクラフト反応(第5報) 銅板を触媒とする芳香族化合物のベンゾイル化(北大工) 高田善之・松田敏雄○大森博之
- オレフィン, 一酸化炭素および水から分枝脂肪酸の合成(北大工・北工試) 大塚 博・青村和夫・加藤和哉○松原陸哉
- 尿素付加による炭化水素の分離(北大工) 大塚 博・青村和夫○武者孝典
- アミンおよびアミン塩を触媒とするケトンのシアノエチレーション(北大工) 高田善之○西村義司

特別講演

9月4日 13時から14時30分までの予定、講演者(2名)および演題未定。

昭和40年



田所哲太郎氏

前会長叙勲

昭和40年11月3日付で前会長4氏が叙勲を受けられました。

勲二等 旭日重光章 田所哲太郎氏 (北海道大学名誉教授)

昭和41年

支部地方大会

共催 日本化学会・日本分析化学会北海道支部

日時 8月30日(火)~31日(水)

会場 室蘭工業大学(室蘭市水元町17, 電話: 室蘭 4-4181)

[交通] 室蘭本線東室蘭下車, バスで約10分

研究発表(8月30日)

A会場 (9時30分から)

- A1. 化石骨中の微量成分に関する化学的研究(その4) 化石骨中のマンガン含有量とその相対年代との関係 (室蘭工大) 下田信男○田中裕敏・石丸幸造
- A2. 湖沼の化学的研究(その3) 春採湖の水質の経季変化 (室蘭工大) 下田信男○石丸幸造・田中裕敏
- A3. EBTによる痕跡マグネシウムの抽出比色法 (北大水産) 西村雅吉○中谷 周
- A4. 微量カルシウム, マグネシウムのEDTA光度滴定における誤差の要因とその対策 (日鋼室蘭) 前川静弥○米山善夫・森永 博
- A5. ビスサルチルアルデヒドエチレンジイミンによる吸光光度定量法(Ⅰ) ニッケル(Ⅱ)の定量 (北海道教育大札幌) ○懸田裕介・白崎三千年・小島もと子
- A6. クロマズロールSを発色剤とするクロム(Ⅲ)の吸光光度定量法 (北海道教育大函館) 石田良栄
- A7. クロマズロールSを発色剤とする銅(Ⅱ)の吸光

- 光度定量法 (北海道教育大函館) 沢口武夫○石田良栄
- A8. トリ-n-オクチルアミンによるチオシアン酸コバルトの抽出 (室蘭工大) 渡辺寛人○赤塚邦彦
- A9. 薄層クロマトグラフィーによる定量分析 (北見工大) ○新井義夫・見陣章彦
- A10. 微分ガスクロマトグラフィーの微量分析への応用 (北大理) 神原富民○斎藤紘一・大関邦夫
- A11. 交流ポーログラフィーにおける低濃度支持電解質の利用 (北大理) 神原富民○長谷部 清
- A12. 混合溶媒中におけるカドミウムのポーログラフ的挙動 (道工試・北大理) ○八十島幸雄・林 謙次郎・神原富民

—(13時15分から)—

- A13. ジメチルホルムアミドを溶媒とした泥炭フミン酸の可視部吸収スペクトル (北見工大) 佐々木満雄○岡宏・大野 豊
 - A14. リグニン系樹脂中の遊離成分の定量(その2) 遊離ホルムアルデヒドおよびメタノールの定量(道林試) 窪田 実
 - A15. アリザリンレッドSとアルミニウムイオンの反応 (室蘭工大) 原口謙策
 - A16. B₂O₃-Na₂O 熔融酸化物中の Ag₂O の溶解度 (北大理) ○前川 尚・横川敏雄・丹羽貴知蔵
 - A17. (CH₂)₆N₄ と H₃BO₃ から BN の生成 (北大工) 斎藤 肇・山井 巖○加藤信之
 - A18. 気相法による石綿状繊維の合成(第3報) 原料混合物中の Al と Mg 量 (北大工) 斎藤 肇・山井 巖○華園雅信
 - A19. Eucryptite 析出系フッ化物ガラスのガラス化範囲と結晶化物の熱膨張性 (北大工) 斎藤 肇・田草川信雄○佐々木信也
 - A20. Glass-ceramics 中の β-Spodumene の転移と結晶化物の膨張係数 (北大工) 斎藤 肇○土井晴夫
- B会場 (9時30分から)
- B1. ポリエチレン, ポリスチレンの流動電位 (室蘭工大) 小松藤男○八幡秀雄・鈴木恵治・竹内 晤
 - B2. 66 および6-10 ナイロンの定荷重変形試験 (レオロジー) (室蘭工大) 小松藤男○大場允雄
 - B3. 窒素原子の再結合反応 (防衛大) ○宮崎正蔵・溝口幸江
 - B4. 窒素ガスアフター・グロー (防衛大) ○高橋サク・永嶺富彦・亀井隆明
 - B5. 金属粉体シリカゲル中の金属比表面積測定法(その1) (室蘭工大) 白崎高保○伊勢谷勝昭・向井田健一・秋吉 亮
 - B6. ばい焼シリカ, アルミナおよびシリカアルミナキャロゲルの製法と吸着特性 (室蘭工大) 白崎高保
 - B7. シリカ, アルミナ, シリカアルミナゲルのカチオン交換性 (室蘭工大) ○秋吉 亮・白崎高保
 - B8. 均一酸強度をもつシリカアルミナ固体酸触媒の試作 (室蘭工大) ○向井田健一・白崎高保
 - B9. アセチルハライドのハロゲン誘導体の振動スペクトル (東北工大) ○亘 文雄・会田高陽
 - B10. 二酸化マンガン(担体: シリカゲル) によるイオンの吸着 (室蘭工大) 安孫子 勤○菅 弘司

- B11. *n*-ブタノール-水系におけるアルカリハライドの塩効果 (東北大工) 油井敬夫・黒川洋一
 B12. 金属イオンを触媒とするベンジルクロライドの加水分解 (北大触研・北大理) ○櫻木 勇・竹下常一・田部浩三

—(13時15分から)—

- B13. 合成ポリペプチドへの γ 線照射の影響 (北大理) ○国兼 真・須貝新太郎
 B14. 硫酸ニッケル触媒の酸性質に及ぼす放射線照射の影響 (北大理・北大触研) ○田部浩三・小笠原正明
 B15. 超音波照射による原油の老化防止 (室蘭工大) 原弘○安藤公二・竹内隆男・木村 一・清水 崇
 B16. 多孔性 Al フノード皮膚の生成機構 (北大工) 永山政一○田村和利
 B17. ケイ酸ナトリウム水溶液中の金属アルミニウムの被酸化反応 (室蘭工大) 白崎高保○武藤征一・向井田健一・秋吉 亮
 B18. 金属防錆塗料 (第1報) 各種金属防錆塗料の大気曝露1カ年の結果 (道工試) 田畑恒夫○藤島勝美
 B19. オゾンによる漂白試験 (オゾンによる各パルプの漂白性の検討) (王子製紙苫小牧・苫小牧工専) ○山崎正之・高瀬 彰・森田修吾

C会場 —(9時30分から)—

- C1. 海草成分 (第6報) “ふじまつも” 中の含臭素化合物 (北大理) 勝井信勝○鈴木克次・北村重義
 C2. “みずばしゅう” の塩基成分 (北大理) 勝井信勝○佐藤 聖・今泉賢二・飛永精照
 C3. methyl-2-methylene-5,5,9-trimethyl-trans-decal-1 β -ylacetate の合成の試み (東北大非水研・東北大理) ○城戸英郎・宇田 尚・吉越 昭・北原喜男
 C4. 二環式モノテルペンエポキシドの水添分解反応におけるラネーニッケル触媒の立体的選択性 (北大工) ○鈴木 章・三木陸郎・伊藤光臣
 C5. アルカリ金属触媒によるプロピレンの二量化 (北大工) 大塚 博・青村和夫○尾崎毅洋
 C6. アクリルニトリルからアクリル酸エステルの製造 (北大工) ○高田善之・高田泰一
 C7. オレフィン、一酸化炭素および水より分枝脂肪酸の合成 (第6報) リン酸・三フッ化ホウ素触媒によるオクテンよりの脂肪酸合成 (北大工・道工試) 大塚 博・青村和夫・後藤政弘○松原陸哉
 C8. 硫酸触媒による 4,4ジメチルメタ 1,3ジオキサンの合成 (北大工) 大塚 博・青村和夫・富田 宜○木田紘一
 C9. エチレンの加圧酸化 (室蘭工大) 加納久雄・金塚高次○喜浦明巳
 C10. α , β -不飽和カルボニル化合物に対する光化学的付加反応 (第1報) クロトン酸およびその誘導体に対するアニリンおよびホルムアミドの付加反応 (北大工) 伊藤光臣○徳田昌生・木原国男・鈴木 章
 C11. 銅・カドミウム触媒による不飽和アルデヒドの選択水添 (北大工) 大塚 博・青村和夫○橋本和明
 C12. ThO₂ 触媒によるアルコールの脱水反応 (北大工) 大塚 博・青村和夫○戸松俊春

—(13時15分から)—

- C13. 硫化モリブデン触媒によるシクロヘキセンの水素化と異性化 (日大理工) ○張 金海・小松信一郎
 C14. ドデカノールの水素化分解 (日大理工) ○張金海・板橋國夫・庄野信司
 C15. α -thujene および sabinene の水素化反応 (北大工) 鈴木 章○野沢清一・伊藤光臣
 C16. エノールアセテート誘導体の水素化反応 (北大工) 伊藤光臣・鈴木 章○大森謙一
 C17. 塩化アルミニウム存在下におけるエチレンによるトルエンの Friedel-Crafts エチル化反応—ニトロベンゼンおよびニトロメタンの影響 (北大工) 伊藤光臣○竹内郁淑・荒瀬 晃・鈴木 章
 C18. BF₃-H₃PO₄ 系触媒による C₆ 留分のアルキレーション (北大工) 大塚 博・青村和夫・佐藤秀夫○坂口勝治
 C19. 鉄化合物を触媒とするフリーデル・クラフツ反応—脂肪酸塩化物によるアシル化 (北大工) 高田善之○林 幹夫
 C20. 金属化合物を触媒とするフリーデルクラフツ反応—Cd, Hg, Cu 塩の触媒作用 (北大工) 高田善之○栗林功

—(9時30分から)—

- D会場 —(9時30分から)—
 D1. 測定誤差のある場合の管理図の特性 (第7報) (室蘭工大) ○金塚高次・加納久雄
 D2. 工程解析における分析誤差の影響 (室蘭工大) ○金塚高次・加納久雄
 D3. 液々系物質移動に関して液滴法に対する混合浸透説適用の検討 (北大工) 久郷昌夫○柴田俊春
 D4. Mg²⁺-H 系交換における総括物質移動係数 (室蘭工大・道工試) 柳井 弘○荒木邦夫・佐竹勝満
 D5. アニオン交換樹脂層の交換帯 (室蘭工大・道工試) 柳井 弘・荒木邦夫○井川武雄
 D6. 固定層における安息香酸の水抽出 (室蘭工大) ○谷口 允・杉田治八郎
 D7. 冷却分別法による *m*-,*p*-クレゾールの分離 (室蘭工大) 原 弘・安藤公二○竹内隆男・木村 一・清水 崇
 D8. アクロレインの液相酸化 (室蘭工大) 清水 崇・原 弘・安藤公二○竹内隆男・木村 一
 D9. ガスリフト型反応器による粉鉄鉱石のガス還元 (北大工) ○藤川昌久・児玉邦彦・手塚 喬・久郷昌夫
 D10. 石炭の水素加圧下における分解抽出 (北開試) 長谷川義久○森田幹雄・広沢邦男
 D11. 低温タールの気液平衡 (北開試) ○富田 稔・西崎寛樹・田中重信・西脇昭雄・安達富雄・加藤康夫
 D12. 加圧下における石炭の熱分解 (第3報) (北見工大) 本間恒行○大野 豊
 —(13時15分から)—
 D13. 石炭の塩素化 (道工試) ○赤間 晃・小池 茂
 D14. コークス炉炭化室内壁に付着するカーボンの性状とその生因に対する二、三の考察 (富士鉄室蘭) 松岡宏○住吉隆志
 D15. 流動熱処理した粉炭の加圧成型 (北開試) ○西野浩・武田昭平・長谷川義久
 D16. 石炭の煤煙発生性 (道工試) 飯田貞一○森本茂樹
 D17. 石炭の煤煙発生性 (第2報) (北大工) 牧野和夫

D18. 朝日炭礦の坑内水(地調北) ○狛 武・根本隆文・上島 宏

特別講演 (15時 15分から)

1. 反応速度論と触媒(北大触研教授) 宮原孝四郎

2. 最近の高炉原料のすう勢(富士鉄室蘭副所長) 森永孝三

懇親会(8月30日 18時から)

会場 室蘭市産業会館

工場見学(8月31日午前)

見学先 室蘭製鉄化学室蘭工業所

なお、懇親会・工場見学等の申込みについては、本誌5月号会告をご覧ください。その他の詳細については下記までお問い合わせ下さい。

問合先 札幌市北 12 条西 8 丁目 北大工学部応用化学科内 日本化学会北海道支部(電話:札幌 71-2111, 内線 3428)

昭和 42 年



杉野目晴貞氏

会 長 叙 勲

昭和 42 年 4 月 29 日付で会長および前会長が叙勲を受けられました。

勲一等 瑞 宝 章 杉野目晴貞氏

(会長・北海道大学名誉教授・元北海道大学学長)

支部地方大会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 7 月 28 日(金), 29 日(土)

会 場 北見工業大学(北見市公園町)

研究発表(講演 10 分, 討論 2 分)

A 会場 (8 時 30 分から)

A01. Dioxime 試薬によるコバルトイオンの吸光光度定量(苫小牧工専) ○増田延介・梶原鳴雪

A02. 金属酸化物による工業用廃水中のマンガンイオンの除去(苫小牧工専) ○増田延介・梶原鳴雪

A03. 鉄鋼中微量フッ素の定量分析(東京理大・石川島播磨重工) ○吉森考良・遠藤英四・田辺省吾・武田智則・布施信三

A04. 鋼中に含まれると予想される窒化物の溶解に対する検討(第 1 報)(石川島播磨重工) ○武田智則・布施信三・木村 隆

A05. 鋼中リンに対する考察(石川島播磨重工) ○木村隆・石井 実

A06. クロマズロール S を発色剤とするパラジウムの吸光光度定量(北教大函館) ○石田良栄・今井君子

A07. 薄層クロマトグラフィーの面積測定による半定量(北見工大) ○新井義夫・見陣章彦

A08. 高周波ポーラログラフ法による二硫化炭素の微量定量(北大理) ○神原富民・田中成之・長谷部 清

A09. 液相クロマトグラフピークの skew ratio(北大理) ○神原富民・大関邦夫・松沢修子

A10. メチロールナラミンの分析(東京電機大) 田島守隆 ○柴 隆一

—(12 時 40 分から)—

A11. ケイ酸塩中の銅の分光分析と地球化学—ベグマタイトの地球化学的研究(室蘭工大・日本製鋼所) 下田信男 ○田中裕敏・鈴木考範

A12. ケイ酸塩中のリチウムの蛍光分析と地球化学—ベグマタイトの地球化学的研究(室蘭工大) 下田信男 ○石丸幸造・田中裕敏

A13. 固体塩基触媒による Cannizzaro 反応(北大理) ○斎藤海三郎・田部浩三

A14. トルエンのアンモキシネーション—反応率, 選択率に対する触媒担体の影響(北大工) 小林晴夫・荒井深・田辺英勝 ○横山至泰・板垣禎好・山崎靖夫・塩田俊介

A15. 水砕スラグの利用—とくに接触反応用触媒(室蘭工大・関東化学) ○清水 崇・竹内隆男・森越 勝

A16. 感光性樹脂(第 16 報) ポリケイ皮酸ビニルのスペクトル増感とリン光スペクトル(東工試) ○津田 穰

A17. Würster 塩の電子スペクトル(北大理) ○飯田陽一・松永義夫

A18. エタノール・クロロホルム溶媒におけるトリニトロベンゼン, アニリン錯体の形成(北大理) ○斎藤軍治・松永義夫

A19. 3-9-ジメチル-イソ-アロキサジンの分子化合物(北大理) ○成田嘉宏・松永義夫

A20. ヌクレオンド-金属錯体の NMR による研究(第 2 報) イノシンと二価金属イオンとの相互作用(北大工・名市大医) ○下川繁三・相馬純吉・堀田 健

A21. n-ブタノール-水および tert-ブタノール-水系におけるハロゲン化アルカリのイオン会合(東北大工) 油井敬夫 ○黒川洋一・中山政美

A22. タールエポキシ樹脂系防食塗膜の電気伝導性(北大工) 諸住 高 ○村尾篤彦・大橋弘士

A23. 銀触媒の表面電位(室蘭工大) 加納久雄・金塚高次・菅蒲明巳 ○伊東良将

A24. 塩化アルミニウム-塩化ナトリウム混合熔融塩中におけるニッケルおよびチタンのアノード挙動(北大工) ○能登谷武紀・緑川林造

A25. 泥炭フミン酸アルカリ溶液の紫外線による退色と退色に及ぼす灰分中の金属の影響(北見工大) 佐々木満雄・岡 宏 ○井上貞信

A26. 無極性溶媒の吸着剤による脱水(室蘭工大) ○林

- 忠 信・大西康雄・柳井 弘
- A27. 両性イオン交換樹脂の交換特性 レターディオソ
11A-8 (室蘭工大) 柳井 弘・林 忠信○西村朝也
- A28. 高濃度の第1鉄イオンの空気酸化 (北大工) ○永
山政一・後藤克己・四ツ柳隆夫・宮本 宏
- B会場 (8時30分から)
- B01. ラウリン酸コバルト触媒によるアクロレインの液
相酸化 (室蘭工大) ○高橋昭勝・清水 崇・竹内隆男
- B02. プロピレンの接触酸化 (第2報) (室蘭工大) 加
納久雄・金塚高次・高蒲明巳○杉岡正敏
- B03. 石炭および二, 三のカルボニル化合物の電解還元
(北大工) ○伊藤博徳・高瀬正則・石井忠雄・武谷 愿
- B04. 沈殿ニッケル触媒と水による新しい還元反応 (都
立大理) ○坂井紘司・石毛正義・渡辺健一・畑 一夫
- B05. Modified Nickel Catalysts によるベンジルアル
コールの反応 (都立大理) ○石毛正義・坂井紘司・渡
辺健一・畑 一夫
- B06. 5, 13-二置換 [2, 2] メタシクロファン の合成およ
び NMR スペクトル (都立大理) 畑 一夫・佐藤武雄
○赤堀禎利
- B07. 6-(*p*-置換)-フェニルフルベンの合成および紫外
吸収スペクトル (室蘭工大) ○竹野 昇・木下宏二・
高瀬 誼・森田陸夫
- B08. 6-メチル-6-(*p*-置換) フェニルフルベンの合成お
よび紫外吸収スペクトル (室蘭工大) ○竹野 昇・森
永文彦・高野信弘・森田陸夫
- B09. 3-*n*-プロピルシクロペンテンのモノ過フタル酸
酸化における溶媒効果 (室蘭工大) 竹野 昇○杉岡弘
樹・武田新一・森田陸夫
- B10. 3 α , 5 α -シクロコレスタン-6-オールナイトライ
ト類の光反応 (北大理) 杉野目浩○常野達朗・正宗
直 (12時40分から)
- B11. オレフィン, CO および水からの分枝脂肪酸の合
成 (第7報) 酸性触媒によるイソブテン-イソペンタ
ン系からの分枝脂肪酸の合成 (北大工・北工試) 大塚
博・青村和夫○後藤政弘・松原陸哉
- B12. イソブチレンとホルムアルデヒドによるイソブレ
ンの合成 (北大工) 大塚 博・青村和夫○木田紘一
- B13. 酸化ニッケルツリカアルミナ触媒によるエチレン
の重合 (北大工) 大塚 博・青村和夫○高橋邦昌
- B14. アルキル化反応における BF₃ 系錯合体触媒 (第
16報) アルコール類による芳香族炭化水素のアルキル
化反応 (北大工) 大塚 博・青村和夫・米田徳彦○若
篤胤
- B15. アルキル化反応における BF₃ 系錯合体触媒 (第
17報) BF₃·H₂O 錯合体の活性型 (北大工) 大塚 博・
青村和夫・米田徳彦・長谷川英司
- B16. モレキュラーシーブによるノルマルパラフィンの
分離 (北大工) 大塚 博・青村和夫○坂口勝治
- B17. オルガノボランの化学 (第5報) トリアルキルボ
ランとメチルニルケトンとの反応 (北大工) 伊藤光
臣・荒瀬 晃○本間史郎・鈴木 章
- B18. オルガノボランの化学 (第6報) α , β -不飽和ケト
ン類のヒドロボレーション反応 (北大工) 伊藤光
臣○竹中秀徳・鈴木 章
- B19. エチレンジクロリドとキシロールとのフリーデル
クラフツ反応 (北大工) 高田善之○栗林 功
- B20. ジカルボン酸金属塩の熱分解 (北大工) 高田善之
○関根幸弘
- B21. 四塩化炭素と芳香族化合物との縮合によるシアリ
ルケトンの合成 (北大工) 高田善之○栗林 功
- B22. テトラシアノエチルベンゾグアミンの合成 (北
大工) 高田善之○千葉哲男
- B23. 吸着によるツヨブセンの異性化 (北見工大) 伊藤
昌明○阿部和夫
- B24. BF₃ を触媒とした泥炭フミン質とリン酸との反応
(北見工大) ○岡 宏・佐々木満雄・井上貞信
- B25. アルキルフェノール類の脱アルキル (第1報)
(北開試) ○小谷川毅・田中 俊
- B26. コメヌカのメタノール抽出物(北工試) 井上 博・
野口達夫○宇野豊子
- B27. 石炭の高圧水素添加生成油高沸点油分 (第4報)
(北大工) 武谷 愿・石井忠雄○真壁正孝
- C会場 (8時30分から)
- C01. 石炭の高圧水素化分解における配合油の効果 (北
開試・北大工) 前河涌典○下川勝義・石井忠雄・武谷
愿
- C02. 石炭の塩素化 (北工試) ○赤間 晃・小池 茂
- C03. 予熱脈動空気による石炭の酸化 (北開試) ○工藤
一至・高崎英雄・三井茂夫
- C04. 石炭分解抽出物の水素化分解生成油成分検索 (北
開試) 長谷川義久・森田幹雄○広沢邦男
- C05. 粉末木炭の性状 (北工試) ○荒木邦夫・本田重司・
柳井 弘
- C06. 天北炭の炭化による表面積の変化 (北開試) 浜田
智夫・石橋一二○野田良男・山田勝利
- C07. 流動熱処理炭の成型性 (北開試) 西野 浩○武田
詔平
- C08. 木炭質イオン交換体の耐熱性 (室蘭工大) 柳井
弘○林 忠信・河野邦昭
- C09. 石油分解カーボンゼオライト系成型炭 (室蘭工
大・北大工) 柳井 弘○林 忠信・東川 正
- C10. 固体燃料の着火温度測定 (北見工大) ○本間恒
行・山田哲夫 (12時40分から)
- C11. 超音波照射による原油ろう化防止 (室蘭工大・三
藤鉄工) ○清水 崇・安藤公二・元上章清
- C12. 金属防サビ塗料の大気暴露2カ年の結果(北工試)
○田畑恒夫・藤島勝美
- C13. カンラン岩およびジャモン岩の利用 (第2報) カ
ンラン岩に石灰を配合した焼成物のX線の研究 (北工
試) ○菊池博男・高野明富
- C14. カンラン岩およびジャモン岩の利用 (第3報) カ
ンラン岩に石灰を配合した焼成物の肥効性 (北工試)
○菊池博男・高野明富
- C15. カンラン岩およびジャモン岩の利用 (第4報) カ
ンラン岩に石灰を配合した焼成物のアンモニウム塩溶
液による溶解性 (北工試) 菊池博男○高野明富
- C16. 酸化セルロース-KMnO₄ 酸化セルロースの製紙

- に及ぼす影響 (工学院大) 高橋史朗
- C17. マグネシウムベースサルファイトバルブ(北大工) 渡辺貞良○戸坂園夫・佐々木国男
- C18. 硝酸セルロースの NO₂ 酸化 (北大工) 渡辺貞良
○林 治助・横田 拓
- C19. アクロレインの液相酸化—溶存酸素と重合物の関係 (室蘭工大) 高橋昭勝・清水 崇○竹内隆男
- C20. アルミナ水和物生成におけるミカノケミカル効果 (東工大・室蘭工大) 白崎高保 ○伊勢谷勝昭・向井田健一
- C21. エアーブレンディング法による粉粒体混合の機構 (室蘭工大・北海道曹達) ○安藤公二・栃木吉彦・清水 崇・原 弘・渡辺寛巨
- C22. 横型カキマゼ槽の混合時間 (室蘭工大・札幌市役所) ○原 弘・島田浩次・安藤公二・軽込 浩
- C23. 粒子一流体間の物質移動(室蘭工大) ○田保英明・林 忠信・竹内隆男
- C24. 工程解析における分析誤差の影響 (第2報) (室蘭工大) ○金塚高次・加納久雄・葛蒲明己
- C25. 測定誤差がある場合の管理図の経済性 (第3報) (室蘭工大) 金塚高次・加納久雄○馬場 弘
- C26. 高層高充填層における安息香酸の水抽出 (室蘭工大) ○谷口 允・坂井英昭・杉田治八郎
- C27. 多管型充填層における物質移動 (室蘭工大) ○中沢清彦・菊地達郎・杉田治八郎
- C28. 環状路における熱および物質の同時移動 (室蘭工大) ○中沢清彦・杉田治八郎・柳井 弘
- 特別講演 —(10時40分から)—
1. テン菜糖製造におけるイオン交換 (日本甜菜製糖) 及川昭藏
2. 世界石油会議に出席して (北大工) 青村和夫
- 懇親会 —(18時30分から)—
- 備 考
1. スライドは会場の都合で使用できません。会場にはピラ掛けを二カ所用意してあります。ピラの大きさは以前の年会の様式に従って下さい。
2. 参加登録、懇親会、エキスカッション、宿舎等については5月号会告欄をごらん下さい。

昭和43年

支部地方大会

共催 日本化学会北海道支部
日本分析化学会北海道支部

- 日 時 7月29日(月), 30日(火)
- 会 場 函館工業高等専門学校 (函館市戸倉町 226)
- 研究発表 (講演10分, 討論2分)
- A会場 —(9時から)—
- A01. マンニットの錯塩 (第1報) (函館工専) 大場允雄・鈴木 昇
- A02. ニッケル・ジベンゾジシクロヘキサジエノテトラアザポルフィンの合成 (新潟大理) 深田直実○仲川洋治

- A03. アクロレインの液相酸化—コバルト塩触媒における配位酸とその活性 (室蘭工大) ○高橋昭勝・竹内隆男・清水 崇・春日健一・柳井 弘
- A04. アクロレインの重合 (室蘭工大・岩倉組) 竹内隆男○清水 崇・高橋昭勝・柳井 弘・田中宏一
- A05. シアノコバルト金属イオンによるニトロベンゼンからアゾキシベンゼンの生成 (北見工大) ○見陣章彦・新井義夫
- A06. クロム-グリンジルホモポリマー触媒による過酸化水素の分解 (北見工大) ○新井義夫・伊藤昌明
- A07. 銀触媒のエチレン酸化における各種成分分圧の反応速度に及ぼす影響 (室蘭工大) ○葛蒲明己・加納久雄・金塚高次・佐藤信二
- A08. 銀触媒上のエチレン酸化に対する炭酸ガスおよび水の阻害作用 (室蘭工大) ○伊藤良将・加納久雄・金塚高次・葛蒲明己
- A09. 熔融塩化亜鉛触媒の水素化分解特性 (北開試) ○森田幹雄・広沢邦男・長谷川義久
- A10. 金属防錆塗料の大気暴露3カ年の結果 (道工試) 田畑恒夫○藤島勝美
- A11. フェノール系樹脂の加圧下熱分解 (北見工大・旭川工専) 本間恒恒○山田哲夫・大野 豊
- A12. エポキシ樹脂と混合ポリアミンとの反応性 (道工試) ○田畑恒夫・藤島勝美
- A13. 陰イオン交換樹脂による有機ニトロ化合物の生成 (第2報) (防衛大) ○山田隆一・浦田能清・金塚文哉
- A14. イオン交換樹脂による有機溶剤の脱水 (防衛大) ○野口武男・山田隆一・浦田能清・金塚文哉
- A15. 石炭を原料とする工業用吸着材の製造法—日曹天塩炭の酸化 (北開試) 石橋一二・野田良男○山田勝利・浜田智夫
- A16. 石炭を原料とする工業用吸着材の製造法(第2報) 賦活過程における表面積変化 (北開試) ○石橋一二・野田良男・山田勝利・浜田智夫
- A17. 石炭を原料とする工業用吸着材の製造法(第3報) 液相吸着性 (北開試) 石橋一二○野田良男・山田勝利・浜田智夫
- A18. 木炭質イオン交換体の耐熱特性 (室蘭工大) ○菊地敏行・柳井 弘・林 忠信
- A19. 粒状活性炭による気相脱硫 (室蘭工大) 柳井 弘○林 忠信・後藤信一・石井正道
- A20. 石炭分解抽出残渣の吸着特性 (北開試) 森田幹雄○広沢邦男・長谷川義久
- A21. コバルト-モリブデン系触媒によるイオウ化合物の水素化分解反応—主として触媒構造と活性との関係 (北大工) ○小林栄治・佐野正勝・四ッ柳隆夫・青村和夫
- A22. 原油高沸点留分中のイオウ化合物の形態(第2報) 赤泥触媒による水素化脱硫過程におけるイオウ化合物の形態変化 (北大工) ○伊藤博徳・渡辺 治・石井忠雄・武谷 愿
- A23. 石炭ピリジン抽出物中の石油エーテル可溶部分 (北大工) ○山本芳彦・小串康友・横山 晋・石井忠雄・武谷 愿
- A24. 泥炭フミン酸 (第6報) (北見工大) 佐々木満雄・

- 岡 宏○井上貞信
- A25. 木質材料の圧縮(室蘭工大) 渡辺治夫
- A26. 木材加水分解法の透析法による酸回収における溶存空気分離防止(旭川工専) 唐牛 勇
- B会場 —(9時から)—
- B01. α, β -不飽和カルボン酸エステル類の光異性化(北大工) 伊藤光臣・徳田昌生・瀬口浩二○谷口和弘・鈴木 章
- B02. γ 線照射下におけるクロトン酸およびそのエステルへのホルムアミドおよびアニリンの付加反応(北大工) 伊藤光臣・徳田昌生○横山雄司・鈴木 章
- B03. オルガノボランの化学(第11報) ジアルコキシボランを用いたハイドロボレーション(北大工) 鈴木 章・山本正昭○園 優雄・荒瀬 晃・伊藤光臣
- B04. オルガノボランの化学(第12報) アルキルボランとメトキシカルベンとの反応(北大工) 鈴木 章○野沢清一・伊藤光臣
- B05. オルガノボランの化学(第13報) アリル誘導体から得られるオルガノボランとメチルビニルケトンとの反応(北見工大・北大工) ○荒瀬 晃・若林憲光・鈴木 章・伊藤光臣
- B06. イルジンの合成(V) 2,2-dimethyl-3-acetoxycyclopenten-2-one の Michael 反応の立体化学(北大工) 松本 毅・白浜晴久○市原耿民・香川昌平・小林紘一・森田順平
- B07. ナフタレン, ナトリウムによる d' -オクタロン-2 のメチル化反応(北大工) 松本 毅○松永政司
- B08. ツヨブセンのアセトキシ化反応(北見工大) ○伊藤昌明・阿部和夫
- B09. アルキルツヨブセノールの合成と反応(北見工大) ○阿部和夫・伊藤昌明
- B10. N-アセチル-3-ケトピペリジンの stork 反応(北大工) 正宗 直○林 英幸・高杉光雄
- B11. β -ニトロアルコールとシアン酢酸エチルの反応(小山高工専・宇都大教育) 神戸 哲○小国尚之・保田平之介
- B12. 2-メトキシ-1-ナフチル酢酸類の異状還元反応(北大工) 鈴木 章○村中浩一・伊藤光臣
- B13. ベンゾフェノン誘導体の 2,4-ジニトロフェニルヒドラゾン(北大工) 高田善之○田畑昌祥
- B14. モノシアノエチルシクロアルカノンの閉環反応(北大工) 高田善之○村瀬一基
- B15. アルキル化反応における三フッ化ホウ素系錯体触媒(第21報) 芳香族炭化水素の *tert*-ブチル化反応(北大工) ○細川元征・米田徳彦・青村和夫・大塚博
- B16. アルキル化反応における三フッ化ホウ素系錯体触媒(第22報)(北大工) 大塚 博・青村和夫・米田徳彦○千葉 晃
- B17. アルキル化反応における BF_3 系錯体触媒(第23報) BF_3 -リン酸触媒によるアルキル化反応(北大工) ○長谷川英司・米田徳彦・青村和夫・大塚 博
- B18. 重リン酸-三フッ化ホウ素による有機化合物の重水素交換反応(北大工) ○真壁正孝・横山 晋・伊藤光臣・武谷 愿
- B19. 酸化ニッケル・シリカ・アルミナ触媒によるエチレン・プロピレンの共重合反応(北大工) 大塚 博・青村和夫・米田徳彦○高橋邦昌
- B20. アルカリ金属触媒によるプロピレンの二重化(北大工) 大塚 博・青村和夫・米田徳彦○須藤文雄
- B21. 還元触媒によるジアミンの重縮合反応(北大工) 高田善之○円 一夫
- B22. 気相法による ϵ -カプロラクタムの合成(北大工) 高田善之・松田敏雄○本橋忠一
- B23. 1,2- および 1,3-ジラウリンの転移に及ぼす温度の影響(阪工大) 米勢千鶴男・増野隆洋○丸山一茂・津田達次郎
- B24. アカシア花ロウ成分の補遺(北教育大札幌) 南波哲○若山誠治
- B25. タラバガニ肝臓中のタンパク質分解酵素(北教育大釧路) 伊藤裕三
- B26. イカ筋肉のアデノシン脱アミノ酵素(北教育大函館) 奈良 盛
- C会場 —(9時から)—
- C01. 銅陽極泥中のテルルの製錬(第2報)(函館工専) ○藤田 徹・大野 豊
- C02. カンラン岩およびジャモン岩の利用(第7報) カ焼ジャモン岩の硫酸アンモニウム処理液から NH_3 と CO_2 との分解によるマグネシアの分離(道工試) 菊地博男○高野明富
- C03. 道産ゼオライト岩のアルカリ処理による性状変化(道工試) 荒木邦夫○本田重司
- C04. $Li_2O-Al_2O_3-SiO_2$ 系ガラス, セラミックスの性質に及ぼすマグネシアおよびフッ素量の影響(北大工・名工大) ○土井晴夫・山井 巖・齋藤 肇
- C05. 温石綿合成におけるアルミナの影響(名工大・北大工) 齋藤 肇・山井 巖○齋藤 正
- C06. 水熱脱水法による温石綿合成時における生成物の検討(名工大・北大工) 齋藤 肇○山井 巖
- C07. 六方晶 BN の生成(名工大・北大工) 齋藤 肇○潮 真澄
- C08. 立方晶 BN の合成における合金触媒(名工大・北大工) 齋藤 肇・潮 真澄○長尾修一
- C09. 水熱下蛇紋岩生成における溶液の pH の影響(名工大・北大工) 齋藤 肇・山井 巖○関谷 忠
- C10. PNC 油状物のフェノール性水酸基による塩素置換反応(名工大・北大工) 齋藤 肇○林 卓
- C11. 水酸化カリウムを含む硝酸塩系溶融塩における白金上の水素発生反応(北大工) 緑川林造○能登谷武紀
- C12. 硝酸塩系溶融塩におけるニッケルのカソード腐食(北大工) 緑川林造・能登谷武紀○大森淳二
- C13. $Na_2O-P_2O_5$ 系融体中の Fe^{3+}/Fe^{2+} 比(北大工) ○田村誠一・横川敏雄・丹羽貴知蔵
- C14. 塩化鉛結晶の電気伝導度(北大工) 山崎雅昭・星野英典・中村義男○下地光雄
- C15. 液体アマルガムの粘性(北大工) 岡島靖弘○下地光雄
- C16. 酸化物触媒の表面状態(北大工・三菱化成) 小林晴夫・荒井 深・小林正義○松本弘昭・波多野正克
- C17. 遠赤外分光器へのデジタル電圧計の応用(北大工)

- 理) 木村雅男・飯島孝夫○加茂友一・香川貴司・中川和幸
- C18. 写真測光のデジタル化と FACOM 270 計算機による電子回折データの自動解析(北大理) 木村雅男・飯島孝夫・小中重弘○藤井秀司・小笠原誠・小山田武夫・古田元信
- C19. ベンゼン-ジクロロエタン混合系の赤外線吸収スペクトル ($4,000\text{cm}^{-1}\sim 100\text{cm}^{-1}$) (北大理) ○木村雅男・水戸千枝子
- C20. シリカゲルの赤外吸収スペクトルにおける 950cm^{-1} 近辺の吸着による変化(北開試) 日野雅夫
- C21. チオアミドプロトンの NMR (北開試) ○三上康子・佐藤俊夫
- C22. グァノシンと二価金属イオンの相互作用の NMR—ヌクレオシド金属錯体(第3報)(北大工) 渋谷美知子○下川繁三・相馬純吉
- C23. 固体錯イオン触媒の活性(室蘭工大・東京工大・太陽酸素) ○秋吉 亮・向井田健一・白崎高保・佐々木雅教
- C24. 重合アルミニウム・重合ケイ酸錯体の性質(北大工) ○山田 勝・四ッ柳隆夫・青村和夫
- C25. 被照射シリカ-アルミナ触媒による酸触媒反応—主としてクメンクラッキング(北大工) ○佐野正勝・斎藤克紀・星野利夫・四ッ柳隆夫・青村和夫
- C26. シリカアルミナ触媒の固体酸性の測定(室蘭工大) ○向井田健一・北野 剛
- C27. $\text{BF}_3\text{-Al}_2\text{O}_3$ 触媒の酸性質(北大工) 伊藤光臣○松浦寛次郎・竹内郁淑・鈴木 章
- D会場** —(9時から)—
- D01. 表面水と深水における窒素化合物の分布(北大水産) 西村雅吉○松永勝彦・松田勝美
- D02. 大気、雨水のホウ素濃度(北大水産) 西村雅吉○中谷 周
- D03. 大気のアノモニウム濃度とその供給源の考察(北大水産) ○角皆静男・池内紘一
- D04. ヨウ素の地球化学的循環にはたす海洋バクテリアの役割(北大水産) ○角皆静男・佐瀬聰一
- D05. イン石と地球における亜鉛、銅、鉛の分布(北大水産・教育大札幌) ○西村雅吉・那須淑子
- D06. 定山溪温泉のヒ素含量 $\text{As(III)}/\text{As(V)}$ (道立衛研) ○中谷省三・長崎仁志
- D07. 二、三の金属チオナリド錯塩のエーテル抽出(道立衛研) 中谷省三○都築俊夫
- D08. テルルチオ尿素錯体の溶媒抽出(山口大・北開試) 荒木大助・林謙次郎○佐々木義明・伊藤三郎
- D09. 金属-TTA 抽出における選択性の改善(I)(群馬工大) ○赤岩英夫・川本 博
- D10. 金属-TTA 抽出における選択性の改善(II)(群馬工大) ○川本 博・赤岩英夫
- D11. キシレノールオレンジによるトリウム(N)の溶媒抽出-吸光度定量(八戸工専) 小友 允○若松義信
- D12. クロマズロールSを発色剤とするマグネシウムの吸光度定量法(教大函館) ○石田良栄・五十嵐敏隆
- D13. ホルムヒドロキサム酸によるマンガンイオンの吸光度定量(苫小牧工専・名工大) 増田延介・梶原鳴雪

- D14. 鉄の共存下におけるマンガンの定量—ホルムアルドキシム法の改良(北大工) 永山政一・後藤克己○田村紘基
- D15. 海水のケイ素定量法の検討(北大水産) 西村雅吉○城戸勝利
- D16. セロシリコン中のシリコンの定量(日本製鋼) 加藤清敏○鎌田盛吉
- D17. 高周波燃焼法による炭化ケイ素研削剤中の炭素の定量(日本製鋼) 鈴木孝範○森永 博
- D18. ステンレス鋼および高合金鋼ワイヤーのケイ光X線分析における問題点の検討(その1)(八幡溶接棒) ○渡辺竹春・小泉一男
- D19. 溶接棒被覆剤原料のケイ光X線分析におけるマトリックス効果の検討(その1)(八幡溶接棒) ○渡辺竹春・福島新一・秋葉ヨウ子
- D20. 反応熱測定による流体試料の連続分析(北教育大岩見沢・北大理) 居島昌行○吉田仁志・多賀光彦・葦目清一郎
- D21. 流下水銀電極によるポーラログラフィー(北教育大旭川) 本多辰也
- D22. フェニルスルホン類のポーラログラフィー(北開試) 神力就子
- D23. ポーラログラフ法によるモリブデン(VI)の接解分析(北大理) 神原富民○田中成之・深田健二郎
- D24. 線状ガスクロ担体の分離特性(日本冶金・日立工事・室蘭工大) 堀岡勝彦・武藤征一・秋吉 亮○向井田健一・渡辺治夫
- D25. 金属酸化物による工業廃水の処理(苫小牧工専・名工大) ○増田延介・梶原鳴雪
- D26. 実験回数決定法の一考察(室蘭工大) 金塚高次○馬場 弘・加納久雄
- D27. 化学工程管理(第1報)(室蘭工大・東工大) ○金塚高次・高蒲明巳・水野 滋

特別講演 —(11時から)—

1. 粘弾性の破壊(北教育大函館) 清水 清
—(16時30分から)—
 2. 米ヌカをみなおす(東洋高圧) 稲葉弥之助
- 懇親会 (18時から)

昭和44年

支部地方大会

共催 日本化学会北海道支部
日本分析化学会北海道支部

日 時 8月5日(火), 6日(水)
会 場 富士製鉄(株)室蘭製鉄所(室蘭市仲町12)
研究発表 (講演12分, 討論3分)

A会場 —(9時から)—

- A01. フルベン類のディールス・アルダー反応における反応速度の分子軌道法的取扱い(室蘭工大) ○竹野昇・鈴木寛一・武田新一・森田隆夫
- A02. 置換フルベン類のディールス・アルダー反応における反応速度とハメット置換基定数との関係(室蘭工

- 大) 〇竹野 昇・鈴木寛一・武田新一・森田陸夫
- A03. 置換フルベン類の還元半波電位とハメット置換基定数との関係(室蘭工大・室蘭工高) 〇竹野 昇・高野信弘・三田 宏・福原徳治
- A04. β -ピネンヒドロペルオキシドの分解(富士興産・阪工大) 〇伊藤諺二・三木彦一
- A05. 物理化学的方法を利用する有機合成(第4報) γ 線照射下での α, β -不飽和カルボン酸エステルに対するアルコールの付加反応(北大工) 伊藤光臣 〇徳田昌生・鈴木 章
- A06. 物理化学的方法を利用する有機合成(第5報) α, β -不飽和カルボン酸フェニルエステルの光化学反応(北大工) 伊藤光臣・徳田昌生 〇畑谷正憲・鈴木 章
- A07. β 位に窒素原子を有するアルコール類の hypohalite 反応(北大理) 杉野目 浩 〇梅田浩彰・正宗 直
- A08. 3-O-acetyletiojerv-5-ene-3 β , 11 β , 20 ζ -triol 20-nitrites の Barton 反応(北大理) 杉野目 浩・折登一彦 〇小島孝子・正宗 直
- A09. オルガノボランの化学(第17報) オルガノボランとフランとの反応(北大工) 鈴木 章 〇宮浦憲夫・伊藤光臣
- A10. オルガノボランの化学(第18報) オルガノボランとアセチレンケトンとの反応による α, β -不飽和ケトンの合成法(北大工) 鈴木 章 〇野沢清一・伊藤光臣
- A11. オルガノボランの化学(第19報) オルガノボランとハロピニルケトンとの反応(北大工) 鈴木 章 〇園俊雄・伊藤光臣
- A12. オルガノボランの化学(第20報) オルガノボランと α, β -不飽和カルボニル化合物との反応(その2) 酸素効果(北見工大・北大工) 荒瀬 晃 〇若林憲光・伊藤昌明・鈴木 章・伊藤光臣
- A13. 酸化鉄と酸化銅による芳香族のベンゾイル化に関して(北大工) 大森博之 〇矢田 昭・高田善之
- A14. ϵ -カプロラクトンとシアン化ナトリウムの反応(北大工) 高田善之・松田敏雄 〇丹 一夫
- A15. 酸ヒドラジドと有機酸との反応(北大工) 高田善之・大森博之 〇千葉俊郎
- A16. *Bacillus cereus* 細胞壁のリゾチーム抵抗性ペプチドグリカンの構造(北大理) 中谷得二・牧野 竜 〇佐々木泰治・大場省三・荒木義雄・伊藤英治
- A17. リゾチーム抵抗性ペプチドグリカンの生成機構(北大理) 〇大場省三・荒木義雄・伊藤英治
- A18. 高分子溶解物の粘度と混合比(室蘭工大) 〇東海林幸義・小松藤男・八幡寿雄
- A19. 6, 66, 610 共重合ナイロンのガラス転移温度(室蘭工大) 小松藤男 〇埴山明俊
- A20. 置換ベンゾフェノン・2,4-ジニトロフェニルヒドラゾンの異性と多性(第3報)(北大工) 高田善之 〇田畑昌祥
- A21. グリンジルホモポリマーの吸着性(北見工大) 伊藤昌明 〇阿部和夫・土谷哲夫・梅原道彦
- B会場 —(9時から)—
- B01. 第Vb族元素のハロゲン化物の分子構造(北大理) 〇小中重弘
- B02. 分散状態における互変異性の研究—口紙に吸着された1-アリルアゾ-2-ナフトールの拡散反射スペクトル(北大理) 松永義男・〇宮島信彦
- B03. シリカゲル-水系の赤外吸収スペクトル- $H_2^{18}O$ の同位体効果(北開試) 日野雅男・佐藤俊夫
- B04. $BeCl_2[(CH_3)_2CO]_2$ 錯塩の赤外線吸収スペクトル(北大理) 木村雅男 〇加茂友一・浅野 勉
- B05. 酸性白土とベンチジンの呈色反応(北大理) 梅原謙二・白水晃彦・松永義男
- B06. テルル含有セレンの電気伝導度(法政大教養) 中川敏男
- B07. 臭化鉛結晶の電気伝導度(北大理) 横瀬伸一 〇星野英興・下地光雄
- B08. 高温熱量計による混合熱の測定(北大理) 〇前川尚・横川敏雄・丹羽貴知蔵
- B09. 重金属 GHP 錯体による過酸化水素の分解(北見工大) 〇新井義男・伊藤昌明
- B10. 非定常法による触媒作用(北大工) 小林晴夫・荒井 深 〇小林正義
- B11. 酸化ニッケル過剰酸素とヨードイオンの水溶液反応速度(北大工) 〇大橋弘士・広原邦彦・諸住 高
- B12. 酸化物中の過剰酸素の定量にたいする定電位ヨードメトリー法の応用(北大工) 〇大橋弘士・広原邦彦・山崎邦雄
- B13. 硝酸塩中溶解塩における鉄の腐食反応(北大工) 緑川林造・石川達雄 〇能登谷武紀
- B14. フッ素-水酸塩石綿の生成(第2報)(名工大・北大工) 斎藤 肇 〇潮 真澄
- B15. ユークリプタイトへのマグネシアの添加(北大工) 松下 徹 〇山井 巖
- B16. 酸化スズ-酸化アンチモン系高温生成物(北大工) 〇松下 徹・山井 巖
- B17. 有機錫化合物より酸化錫薄膜の生成(北大工) 松下 徹 〇関谷 忠・山井 巖
- B18. $BF_3 \cdot Al_2O_3$ 触媒の酸性と活性(北大工) 伊藤光臣・松浦寛次郎 〇吉井洋一・鈴木 章
- B19. 金属リン酸塩のパラアルデヒド解重合活性(北大工) 伊藤光臣 〇多田旭男・駒野隆夫・鈴木 章
- B20. アルギン酸可溶性塩類-アルギン酸ソーダの一, 二の物理化学的挙動(第1報)(函館工専) 〇大場允雄・鈴木 昇
- B21. 加圧下における無機塩の熱分解(北見工大) 本間恒行 〇山田哲夫
- C会場 —(9時から)—
- C01. 鉄鋼・非鉄地金および合金中の銅吸光光度法(日本製鋼所) 加藤清敏
- C02. ビス・サリチルアルデヒドエチレンジイミンによる鉄(II, III)の吸光光度法による同時定量(北教大札幌) 〇懸田祐介・海老名英雄
- C03. クロマゾロールSによるビスマス(III)の吸光光度定量(北教大函館) 〇石田良栄・鈴木博子
- C04. インドフェロンを用いるジルコニウム(IV)の吸光光度定量(八戸工専) 〇酒井堂兆・若松義信・出町恵造
- C05. Ni(II)-TAM キレート溶媒抽出速度(北開試) 伊藤三郎 〇原口謙策
- C06. 2-(2-thiazolyloazo)-*p*-cresol (TAC) の分配係数

と酸解離定数(北開試)伊藤三郎○山田勝利・原口謙策

- C07. 電位差滴定によるテトラチオンアマト水銀(II)酸塩(北大理)神原富民○緒方敏男
- C08. ポーラログラフ法による血中エチルアルコールの間接的定量法(北大医)錫谷 徹
- C09. カントレコーダによる銑鉄中のリンの定量(日本製鋼所)鈴木孝範○森永 博
- C10. カテコール-4および4,5置換体のアルミニウム錯体の安定性(北大工)○横山茂雄・工藤保男・四ツ柳隆夫・青村和夫
- C11. アルミニウム-チロン錯体の加水分解反応(北大工)○四ツ柳隆夫・青村和夫
- C12. 多核アルミニウムイオン硫酸塩の溶解度の溶液のイオン強度との関係(釧路工専・北大工)○岩瀬政吉・四ツ柳隆夫・後藤克己
- C13. 金属酸化物(Al_2O_3)による工業用廃水中のマンガンイオンの除去(苫小牧工専・名大工)○増田延介・梶原鳴雪
- C14. 沿岸(室蘭地区)水の溶存成分(室蘭工大)下田信男○石丸幸造
- C15. 硫化鉄床の地球化学的研究(函館工専)水上正勝
- C16. 測定誤差を考慮した場合の管理図の経済性(室蘭工大)○金塚高次・加納久雄・葛蒲明己
- C17. 移動層における粒子群混合特性(室蘭工大)柳井弘・林 忠信・坂下摩利夫・小川健彦○武田 公
- C18. 活性炭製造過程の反応工学的考察(室蘭工大)柳井弘○田村虔一・石山啓一
- C19. 流動層内の気泡頻度分布におよぼす分散板の影響(北開試)富田 稔・西崎寛樹○安達富雄
- C20. シックナーの設計(室蘭工大)渡辺治夫○東条正樹
- C21. ファイバーの圧縮(室蘭工大)○常野宏宏・渡辺治夫
- D会場 —(9時から)—
- D01. シリカアルミナ触媒によるキシレン異性化反応(室蘭工大)○愛場康博・向井田健一・渡辺治夫
- D02. 混練法シリカアルミナの触媒特性(室蘭工大)向井田健一
- D03. 酸化ニッケル・シリカ・アルミナ触媒によるエチレンの重合(北大工)○高橋邦昌・北島栄二・森田隆・米田徳彦・大塚 博
- D04. 酸化クロム・シリカ・アルミナ触媒によるプロピレンの加圧重合-シリカ・アルミナ触媒との比較(北大工)大塚 博・米田徳彦・森田 隆・高橋邦昌○西秀樹
- D05. 炭素担体付ニッケル触媒の性状(室蘭工大)秋吉亮
- D06. スターチ・グラフト化物による石炭懸濁液の凝集(北工試)○平野 徹・長谷川俊勝
- D07. 石炭類口過剤(北工試)赤間 晃○小池 茂
- D08. 泥炭フミン酸(第7報)(北見工大)佐々木満雄・岡 宏○井上貞信
- D09. 水素還元処理およびドーピング処理した酸化ニッケル-シリカ-アルミナ触媒によるプロピレンの低次

重合反応(北大工)佐野正勝○景山芳輝・四ツ柳隆夫・青村和夫

- D10. 酸化ニッケル-シリカ-アルミナ触媒の表面状態と水素還元速度(北大工)佐野正勝○大塚俊郎・四ツ柳隆夫・青村和夫
- D11. ハロゲン置換シリカ-アルミナ触媒による酸触媒反応(北大工)○星野利夫・佐野正勝・四ツ柳隆夫・青村和夫
- D12. フッ素置換シリカ-アルミナ触媒の酸性質(北大工)○佐野正勝・星野利夫・四ツ柳隆夫・青村和夫
- D13. イソプレンの合成-高温焼成固体リン酸触媒によるD.M.D.の分解(北大工)○中島光雄・米田徳彦・青村和夫・大塚 博
- D14. オレフィン、一酸化炭素および水より分枝脂肪酸の合成(第8報) $BF_3 \cdot H_2O$ 系錯体触媒によるイソプレンのカルボキシル化反応(北大工・北工試)大塚 博・米田徳彦○松島義久・松原陸哉
- D15. 固体リン酸触媒によるアルキルベンゼン類の競争アルキル化反応(北大工)○福原 彊・米田徳彦・大塚 博
- D16. 固体酸触媒による有機イオウ化合物の接触分解(北大工)○杉岡正敏・菊地一男・平野稔幸・四ツ柳隆夫・青村和夫
- D17. BF_3 系錯体触媒によるアルキル化反応(第27報) BF_3 担持固体触媒によるベンゼンのプロピル化反応(北大工)大塚 博・米田徳彦・長谷川英司○相米正道
- D18. BF_3 系錯体触媒によるアルキル化反応(第28報)ベンゼンのエチル化反応(その2)(北大工)○千葉見・富田 宣・米田徳彦・大塚 博
- D19. BF_3 系錯体触媒によるアルキル化反応(第29報)プロピレンの重合反応における硫酸触媒との比較(北大工)○長谷川英司・米田徳彦・四ツ柳隆夫・青村和夫・大塚 博
- D20. BF_3 系錯体触媒によるアルキル化反応(第30報)フェノールのアルキル化反応(北大工)大塚 博・青村和夫・米田徳彦○中 敦士・長谷川英司

特別講演 —(11時から)—

1. 海藻の含臭素有機化合物(北大理)入江 遠
—(13時から)—
2. わが国の電解カセイソーダ工業の経過(北海道曹達) 国分恒次
懇談会 —(18時から)—

昭和45年

第29回常会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 1月30日(金), 31日(土)
会 場 札幌市市民会館(札幌市北1西1)
研究発表(講演時間は討論3分を含めて15分)
A会場

第1日 (30日)

—(13時から)—

- A1. 酸化ニッケル-シリカ-アルミナ触媒に吸着したプロピレンの高温における赤外吸収スペクトル(北大工) 佐野正勝○景山芳輝・四ッ柳隆夫・青村和夫
- A2. 酸化ニッケル-シリカ-アルミナ触媒の酸性質(北大工) 佐野正勝○大塚俊郎・四ッ柳隆夫・青村和夫
- A3. γ 線照射ハロゲン置換シリカ-アルミナ触媒の表面状態と触媒活性(北大工) ○星野利夫・佐野正勝・四ッ柳隆夫・青村和夫
- A4. γ 線照射シリカ-アルミナおよびフッ素置換シリカ-アルミナ触媒によるクメンクラッキング(北大工) ○佐野正勝・星野利夫・四ッ柳隆夫・青村和夫
- A5. シリカ-アルミナ触媒によるスルフィド類の接触分解(北大工) 杉岡正敏○平野稔幸・四ッ柳隆夫・青村和夫
- A6. ジメチルジオキシソンの分解反応に対する高温焼成固体リン酸触媒の活性(北大工) ○中島光雄・米田徳彦・青村和夫・大塚 博
- A7. カリウム金属によるプロピレンの二量化—廃触媒分析(北大工) ○須藤文雄・富田 宣・米田徳彦・青村和夫・大塚 博
- A8. ベンタンアノコバルト錯体触媒によるニトロベンゼン, ニトロソベンゼンの水素還元反応中間体(北大工・北見工大) 四ッ柳隆夫○園木一夫・青村和夫・新井義夫
- A9. BF_3 -フェノール錯体の酸性質(北大工) ○中 敦士・長谷川英司・米田徳彦・四ッ柳隆夫・青村和夫・大塚 博
- A10. $\text{BF}_3\text{-Al}_2\text{O}_3$ 触媒の酸性点に関する考察(北大工) 伊藤光臣・松浦寛次郎○吉井洋一・福田弘之・鈴木章
- A11. $\text{BF}_3\text{-Al}_2\text{O}_3$ 触媒による *n*-ブタノールの脱水反応(北大工) 伊藤光臣・松浦寛次郎・吉井洋一○福田弘之・鈴木 章
- A12. ネズミの組織親和性抗原 H-2 糖部分の構造(北大工) 島田 明
- A13. 置換ベンゾフェノンの 2,4-ジニトロフェニルヒドラソンの立体構造(N) (北大工) ○田畑昌祥・高田善之
- A14. オルガノボランの化学(第19報) オレフィンから新しいアルキルヨウ化物の合成法(北大工) 鈴木章・野沢清一○原田正広・伊藤光臣

第2日 (31日)

—(9時30分から)—

- A15. 硫酸-シュウ酸混合溶液中におけるアルミニウムアノード皮膜の溶解(北大工) 田村和利○山田 傑・高橋英明・永山政一
- A16. アルミニウムのアノード酸化皮膜の初期生成過程(北大工) ○高橋英明・田村和利・永山政一
- A17. アルミニウムアノード皮膜の溶解に対する温度の影響(北大工) ○田村和利・高橋英明・永山政一
- A18. 水酸化ニッケルの脱水反応(北大工) ○坂下雅雄・佐藤教男
- A19. 中性溶液中における第1鉄イオンの空気酸化機構(第2報)(北大工) ○田村紘基・後藤克己・永山政一
- A20. 多孔質固体内の表面拡散(北大工) 小林晴夫○佐藤義明

- A21. 分散状態における互変異性(II)モメンおよびビスコース人綿に吸着された 1-アリルアゾ-2-ナフトールの拡散反射スペクトル(北大工) 松永義夫○宮島信彦
- A22. スチレンの重合反応に対するフルベン類の抑制効果の分子軌道法の取扱い(室蘭工大) ○竹野 具・杉岡弘樹・武田新一・高野信弘・森田陸夫

B会場

第1日 (30日)

—(13時から)—

- B1. 水蒸気蒸留法によるフェロアロイ中の窒素定量法(日鋼室蘭) 加藤清敏○鎌田隆吉
- B2. 鉄鋼中のモリブデン吸光度分析における銅のマスクング(日鋼室蘭) 加藤清敏○佐々木 明
- B3. 8-ヒドロキシキノリン-5-スルホン酸-ニッケル(II)-ゼフィラミンの三元錯体の溶媒抽出(北大工) 神原富民○菅原正雄・長谷部 清
- B4. チオナリド錯塩抽出分離, カーバメイト法によるTeの定量(北衛研) 中谷省三○都築俊文
- B5. 4-(2-ピリジルアゾ)-レゾルシン(PAR)-ゼフィラミン-ポリアミノカルボン酸系を利用する極微量ニッケルの抽出吸光度法(北大工) 四ッ柳隆夫○山下隆二・青村和夫
- B6. コンピューターによる滴定曲線解析の試み—吸光度測定(北大水産) 西村雅吉
- B7. ホルムアルドキシム法によるマンガンの吸光度定量(北大工) 後藤克己・田村紘基○木村茂生
- B8. 鉱山排水中のカドミウムの定量法(北工試) 八十島幸雄
- B9. 金属ナトリウム液安溶液との反応によるシリカゲル表面シラノール基の定量(北開誠) 佐藤俊夫○大越純雄・平間康子
- B10. 大気中発ガン性炭化水素の薄層クロマトグラフィーによる分離(札幌医大) 菅原直毅
- B11. テストステロンの酸による反応(その1) 各種の酸による反応の比較検討(北大薬) 木村道也・針田和明○稲井弘子
- B12. テストステロンの酸による反応(その2) 70%過塩素酸-クロロホルム系による呈色反応(北大薬) 木村道也・針田和明○斎藤じゅん子
- B13. テストステロンの酸による反応(その3) Kägi-Miescher 反応の信頼性(北大薬) 木村道也○針田和明
- B14. mono-nitrobenzene 誘導体の Janovsky 反応(北大薬) 木村道也・川添政彦○服部俊子・小尾 陸

第2日 (31日)

—(9時30分から)—

- B15. メチレンブルーのポーラログラフ吸着波に及ぼすハロゲンイオンの影響(北大工) ○長谷部清・神原富民
- B16. ジチゾン抽出-交流ポーラログラフ法による微量水銀の間接定量(北大工) 神原富民○原 稔
- B17. 局所的な組成変化による水銀-電解質溶液界面の流動(北大工) 神原富民○北村 悖・大関邦夫
- B18. 静止水銀電極を用いた電流規制オッシュロポーラログラフィー(北大工) ○斎藤紘一・神原富民
- B19. ポーラログラフ法による生体材料中カドミウム, 亜鉛の定量(北大工) 錫谷 徹
- B20. 大気中微量 SO_2 の電量分析法(北大工) ○大橋弘士・山崎邦雄・諸住 高

B21. 塩基性リン酸アルミニウム溶液中のアルミニウム錯体の溶解平衡 (北大工) 四ッ柳隆夫○高瀬経義・青村和夫

B22. 表面電離型質量分析計とKの分析 (室蘭工大) 室住正世○中村精次

B23. 表面電離型質量分析法によるカルシウムの同位体比測定 (室蘭工大) 室住正世○重川 守

B24. 表面電離法による鉛の質量分析 (室蘭工大) 室住正世○寺町和広

特別講演 (31日 13時から)

1. 固体触媒の作用機構の動的研究方法 (東大理) 田丸謙二

2. 分析化学における非水溶媒 (京大理) 藤永太郎
雪祭り自由見学

懇親会 (16時30分から同会場で行ないます。)

昭和46年

北海道支部 1971年冬期研究発表会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 2月1日(月), 2日(火) 9時から

会 場 北海道大学教養部(札幌市北17西8)

研究発表(講演時間12分, 討論3分)

A会場(N302教室)

第1日(1日) —(9時から)—

A1. Hydrophenanthrene誘導体のLi-NH₂による還元

(北大理) 中島敏秋○浜中信行・奥野智且・松本 毅

A2. プンメラー反応における二, 三の新しい知見(北

大理) 松本 毅・白浜晴久・市原耿民・申鉉 涉

・香川昌平・伊藤徳樹・久光俊昭・鎌田利紘○目不二

雄

A3. イルジン全合成に関連したシクロプロパン誘導体の

合成(北大理) 松本 毅・白浜晴久・市原耿民・申

鉉 涉・香川昌平・久光俊昭・鎌田利紘・伊藤徳樹○

目不二雄

A4. 臭化第二銅水溶液を用いたチオフェンの臭素化反

応(北大工) 四ッ柳隆夫○逸見荘三・上館民夫・青村

和夫

A5. ヒドラゾンの立体構造(第8報) 電子スペクトル

による幾何異性体の帰属(北大工) ○田畑昌祥・高田

善之

A6. 四酢酸鉛によるN,N'-ジアシルヒドラジンの酸化

(北大工) ○矢田 昭・大家邦久・高田善之

A7. ε-カプロラクトンとアンモニアの反応によるε-カ

プロラクタム合成(北大工) 高田善之・松田敏雄○

高橋謙二・島美樹男

A8. ラクトンとシアン化ソーダの反応(北大工) 高田

善之・松田敏雄○丹 一夫

A9. α-キシレンの液相アンモ酸化(日大理工・日大生

産工) ○鈴木啓輔・崎川範行・加藤 薫・山本昌明・

穴沢一郎

A10. α, β-エポキシエステル光化学反応(その2)

(北大工) 伊藤光臣・徳田昌生・畑谷正憲○今井 潤
・鈴木 章

A11. アルコールの放射線付加反応—α, β-不飽和エステルよりγ-ブチロラクトン類の生成(北大工) 伊藤

光臣・徳田昌生○Vo Van Chung・鈴木 章

B会場(N304教室)

第1日(1日) —(9時から)—

B1. EDTAの逆滴定を用いる金属イオンの連続温度滴

定(北大理) 吉田仁志・多賀光彦・暮目清一郎○水口

正美

B2. 希釈熱を利用する連続温度滴定(北大理・北教大

岩見沢) 吉田仁志・多賀光彦・暮目清一郎○楠見 繁

・柴田広司

B3. テトラチオシアナート水銀(II) 酸亜鉛生成反応

を利用する電導度滴定(北大理) 神原富民○緒方敏夫

B4. ウレアーゼを用いてのPFHS法によるマンガンと

カルシウムの分離(北大理) 暮目清一郎・吉田仁志・

多賀光彦○田口 茂

B5. 微分濃縮型ガスクロマトグラフィーによる高純度

水素中の酸素と窒素の定量(北開試) ○大越純雄・佐

藤俊夫・高橋富樹

B6. 段階的pHゾーンを形成する電解溶媒を用いる薄

層クロマトグラフィー(北大理) ○山田陸雄・藤本昌

利

B7. ジキノリル-8,8'-ジスルフィドのポーラログラフ

ィー(北大理) 神原富民○原 稔

B8. チタンの表面電離質量分析法(室蘭工大) 室住正

世○新名朋次

B9. 発光分光分析—半定量法に関する一考案(北大

医) 錫谷 徹

B10. DDDC-キシレン抽出法による鉛の原子吸光分析

(北工試・東工試) ○宇野豊子・小林重雄

B11. 原子吸光光度法による鋼中非金属介在物の組成分

析(日鋼室蘭) 加藤清敏○石井 実

B12. 原子吸光光度法による鉄鋼中のケイ素およびアル

ミニウム定量法(日鋼室蘭) ○鈴木孝範・加藤清敏・

佐々木明

第2日(2日) —(9時から)—

B13. ガリウム(III) とキシレノールオレンジとの錯形

成(北大理) ○高橋哲郎・藤本昌利

B14. Fe(III) とオルト・クレゾールレッドとの錯形成

(北大理) ○中山博明・藤本昌利

B15. ランタン(III)-PAR[4-(2-ピリジルアゾ)レゾル

シノール]の錯生成反応(北大理) ○小野寺臣夫・藤

本昌利

B16. 溶媒抽出法によるNi(II)-TANキレート生成

反応速度およびNi(II)-HPO₄²⁻錯体の生成定数の測

定(北開試) 伊藤三郎○中川孝一・原口謙策・山田勝

利

B17. 2-メチル-8-キノリノールとアルミニウムイオン

の反応—メチル基の立体障害効果(北大工) ○四ッ

柳隆夫・横山茂雄・青村和夫

B18. PAR-クロム(III)錯体の第四アンモニウムイオン

会合系抽出(北大工) 四ッ柳隆夫○武田康夫・青村和

夫

- B19. ビスマチオール (II) 3, 3'-ジアミノベンチジンを用いるセレン, テルルの抽出分離光度定量 (北大理) 多賀光彦・吉田仁志・暮目清一郎○渡辺律子
- B20. 鉄(III)-クロムアズロールS-セチルトリメチルアンモニウム三元錯体の溶媒抽出 (北教大函館) ○石田良栄・山田道子
- B21. トリウムとメチルキンレノールオレンジの反応 (北教大札幌) 那須淑子・近藤佳敬○高橋純夫
- B22. 洞爺湖の水質汚濁 (北大工・北工試) ○後藤克己・種村藤吉
- B23. イオウ鉱山排水の地下浸透処理による水質変化 (北大工・北工試) 後藤克己○種村藤吉
- B24. 金属鉱山排水中の鉄, 亜鉛, マンガンの分別沈殿 (北工試・北大工) 種村藤吉○山崎邦雄・佐々木定之・宇野豊子・後藤克己

—(13時から)—

- B25. 第一鉄イオンの酸化に及ぼす共存物の影響 (北大工) ○田村紘基・後藤克己・永山政一
- B26. 金属イオンの加水分解重合に対する自動水点降下測定装置の応用 (北大工) ○石井武雄・後藤克己・永山政一
- B27. 硝酸塩系溶融塩中における鉄の腐食反応に及ぼすハロゲンイオンの影響 (北大工) 緑川林造・石川達雄○能登谷武紀
- B28. 分散状態における互変異性の研究 (III) 種々の化繊上の1-アリアルゾ-2-ナフトール (北大理) ○宮島信彦・松永義夫
- B29. 電荷移動錯体の液相スペクトル (北大理) ○佐々木章・相原停一・松永義夫
- B30. 電荷移動スペクトルの振動構造 (北大理) 相原停一
- B31. 1-ブテン異性化反応に及ぼすハロゲン置換シリカ-アルミナ触媒の前処理効果 (北大工) 佐野正勝○渡辺正人・四ツ柳隆夫・青村和夫
- B32. 酸化ニッケル-シリカ-アルミナ触媒の酸性質と1-ブテン異性化反応 (北大工) ○佐野正勝・四ツ柳隆夫・青村和夫
- B33. 不飽和カルボニル化合物の選択的水素化(第3報) 銅-カドミウム触媒の前処理と選択性 (北大工) 杉岡正敏○曾我正人・四ツ柳隆夫・青村和夫

特別講演(1日13時からB会場で)

1. リソチームとペニシリン (北大理) 伊藤英二
 2. 光電子スペクトロメトリーの分析化学への応用 (北大理) 池田重良
 3. 月試料の化学組成 (東大物性研) 本田雅徳
- 懇親会 1日17時から石狩会館(札幌市北4条西5丁目)で。

北海道支部 1971年夏季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部
日本分析化学会北海道支部

日 時 8月7日(土), 8日(日)
会 場 苫小牧市民会館(苫小牧市旭町6番地)
日 程 第1日: 研究発表・特別講演・懇親会
第2日: 見学会
研究発表(講演12分, 討論3分)

A会場 —(9時から)—

- A01. 一部中和した第二鉄塩溶液による用水の凝集試験 (苫小牧高専) ○川村静夫・大竹三義・木村健二
- A02. 8-ヒドロキシキノリン-5-スルホン酸-銅(II)-ゼフィラミンの三元錯体の溶媒抽出 (北大理) 神原富民○前山三千代・長谷部清
- A03. テンサンメトリー波高と濃度の関係 (北大理) 神原富民○片岡正光・斎藤紘一
- A04. 溶媒抽出ポーラログラフ法による水銀(II)の定量 (北大理) 神原富民○石井 節・長谷部清
- A05. 交流ポーラログラフ法による定量分析の基礎的條件の検討 (北大理) 神原富民○金原正和・大関邦夫
- A06. フェロンと界面活性剤を用いるアルミニウムイオンの定量—2波長測光法の応用 (北大工) ○後藤克己・田村紘基・永山政一
- A07. イオン交換性炭素質吸着剤による亜硫酸ガスの除去 (室蘭工大) 柳井 弘○野々川和男・角矢英雄・高橋洋志
- A08. 登別温泉大湯沼のイオウ (室蘭工大) 安孫子勤
- A09. フッ素燃焼ガスクロマトグラフ法を用いる炭素, 窒素, 酸素の分析 (名大工) ○浅井勝一・石井大道
- A10. ガスクロマトグラフによるジメチルニトロソアミンの検出 (札幌市衛生試・日立製作) 林 英夫・青木襄・水泉正彦・打木英夫・永井久晃
- A11. ポーラログラフ法による糞便潜血の分析 (北大医) 錫谷 徹
- A12. エレクログラフ法による合金成分の検出 (函館工専・旭川工専) ○藤田 徹・大野 豊

—(14時30分から)—

- A13. 化学分析への判別関数法の応用(第1報) (長岡工専) 中沢 章
- A14. 化学分析への判別関数法の応用(第2報) (長岡工専) 中沢 章
- A15. ベリリウム(II)-クロムアズロールS-セチルトリメチルアンモニウム三元錯体の溶媒抽出 (弘前大理) 石田良栄
- A16. 第4報アンモニウム塩を用いる金属-PAR 錯体の溶媒抽出 (北大工) ○山下隆二・四ツ柳隆夫・青村和夫
- A17. ケルダール法の改良—一次亜リン酸ソーダによる前処理 (北大工) 高田善之○千葉俊郎
- A18. 銅(II)-オキシニル錯体とEDTAとの配位子置換反応 (北開試) ○中川孝一・原口謙策・伊藤三郎
- A19. グリオキサール・ビス (2-ヒドロキシシリアニル) によるカルシウムの抽出比色定量 (北大水) 西村雅吉○乗木新一郎
- A20. 尿素定量法の検討 (北大水) ○松永勝彦・西村雅吉
- A21. 抽出吸光光度法による金-アルミニウム合金中のアルミニウムの定量 (北見工大) ○赤塚邦彦・厚谷郁夫
- A22. 空気中鉛の表面電離質量分析 (室蘭工大) ○室住正世・中村精次

B会場 —(9時から)—

- B01. 酸化銀(I)の非化学量論組成 (北大工) ○西村六郎・瀬尾真浩・工藤清勝・佐藤教男

- B02. 酸化ウランの酸化 (北大工) ○能田悦三・大橋弘士・諸住 高
- B03. 金属ナトリウムの蒸発速度 (北大水) 松永勝彦
- B04. $\text{Na}_2\text{O}-\text{PbO}-\text{CdO}-\text{SiO}_2$ 系ガラスにおける軟化および流動性 (北大工) 松下 徹
- B05. 有機金属膜からのフェライト薄膜の生成 (北大工) 松下 徹・関谷 忠・小松弘明○山井 巖
- B06. 高温高圧下での酸化ベリリウムの焼結体 (北大工・阪大産研) ○小平紘平・小泉光恵・松下 徹
- B07. $\text{ZnO}-\text{SnO}_2$ 系スピネルの針状結晶の生成 (北大工・北開試) 松下 徹・山井 巖・吉田諒一・吉田雄次
- B08. 水熱法による石棉合成の添加物と反応条件 (北大工・名大工) 山井 巖○斎藤準二・松下 徹・斎藤 肇
- B09. $\text{Li}_2-\text{Al}_2\text{O}_3-\text{SiO}_2-\text{MgO}-\text{F}$ 系燃焼結体 (北大工) 松下 徹・山井 巖○高橋順一
- B10. 有機金属膜からの BaTiO_3 薄膜の生成 (北大工) 松下 徹・関谷 忠○福島 純・山井 巖
- B11. 北海道産含ゼオライト凝灰岩のアルカリ処理による特性変化 (東海大工・東海大理) 永田十四生○鈴木秀行 香山 勲・高橋るみ子・新野昭治
- B12. $\text{Fe}(\text{III})$ と $\text{Na}_2\text{S}_2\text{O}_8$ との酸化還元反応における中間体 (北大理) ○伊藤幸子・山岸皓彦・藤本昌利
—(14 時 30 分から)—
- B13. $\text{Fe}(\text{III})$ と一価フェニル類と α 錯形成における速度論 (北大理) ○中村幸一・山岸皓彦・藤本昌利
- B14. $\text{Se}-\text{Te}-\text{S}$ 系結晶の電気伝導度 (法政大) 中川敏男
- B15. シュウ酸塩の熱分解 (北見工大) 本間恒行○山田哲夫・佐々木満雄
- B16. 置換フルベン類の還元ポーログラフに関する分子軌道法的研究 (室蘭工大) 竹野 昇○高野信弘・森田陸夫
- B17. ベンゼン溶媒中におけるベンズアルデヒドの酸化反応速度 (室蘭工大) 竹内隆男・菅原 敦○長 孝
- B18. ナフトキノン置換体の電子親和力 (北大理) ○斎藤軍治・松永義夫
- B19. 塩化ナトリウムで希釈された 1-アリアルゾ-2-ナフトールの互変異性—ケイ光スペクトルによる知見 (北大理) 島根正昭・松永義夫
- B20. 分散状態における互変異性の研究 (IV) 羊毛および絹に吸着された 1-アリアルゾ-2-ナフトール (北大理) 松永義夫○宮島信彦
- B21. 電荷移動錯体の溶媒効果 (北大理) 相原 惇一
- B22. フルベン類とテトラシアノエチレンの電荷移動錯体 (室蘭工大) ○石田良一・星野行男・武田俊一・竹野 昇
- C会場 —(9 時から)—
- C01. 塩化イオウとアセトフェノンとの反応 (第 3 報) (北大工) 高田善之○松田敏雄
- C02. ヒドラゾンの立体配置の帰属 (第 9 報) NMR によるアミド基の束縛回転の測定 (北大工) ○田畑昌祥・高田善之
- C03. ϵ -カプロラクタムから ϵ -カプロラクタムの合成 (北大工) 高田善之・松田敏雄○丹 一夫
- C04. カラメル液の着色成分 (函館高専) 長谷川俊勝
- C05. エタノダイアマンタンの合成 (北大理) ○大沢映二・折坂克則

- C06. Laurencin および関連化合物の合成的研究 (I) (北大理) ○沼田 智・佐藤剛弘・正宗 直
- C07. 二, 三のステロイドオキシムおよびヒドラゾンの光反応 (北大理) 杉野目浩○内田 勉・正宗 直
- C08. 大豆の根に存在する植物ステロールおよびトリテルペン類 (北大理) 勝井信勝○松江 一・正宗 直
- C09. ライラック白花の香気成分 (北教大) ○南波 哲・若山誠治
- C10. ツอพセンの臭素化 (北見工大) 伊藤昌明○阿部和夫・坂平和博
- C11. キシレンスルホン酸ナトリウムを用いるポテトバミスからフルフラールの製造 (北見工大) 伊藤昌明○竹村政芳・浜中俊雄・阿部和夫
- C12. シクロプロピルエチレンの反応性 (II) ケトンとの付加反応 (北大理) ○石川雅久・石倉和正・清水宣次郎・西田進也
—(14 時 30 分から)—
- C13. 硫化物触媒によるアニソール・ジフェニルジスルフィドの水素化分解 (日大理工) ○張 金海・小沼健治
- C14. 1,1-(ビスプロモメチル)シクロプロパンによるジェムジメチルシクロプロパン誘導体の合成法 (北大理) 木村直靖・小川純一○宮野勝次・市原耿民・松本 毅
- C15. 二, 三の極性試薬によるアルキルボランの分解反応 (北見工大) 荒瀬 晃○増田 弦・伊藤昌明
- C16. オルガノボランと α, β -不飽和カルボニル化合物の反応 (北見工大) ○荒瀬 晃・増田 弦・伊藤昌明
- C17. プロモ銅 (II) 錯体によるチオフェンの臭素化反応機構 (北大工) ○上館民夫・逸見荘三・四ツ柳隆夫・青村和夫
- C18. $\text{BF}_3-\text{H}_2\text{O}$ 触媒によるプロピル化機構に対する考察 (北大工) ○長谷川英司・青村和夫
- C19. α, β -エポキシエステル光学反応 (その 3) (北大工) 伊藤光臣○徳田昌生・鈴木 章
- C20. オルガノボランの化学 (第 29 報) 酸素存在下オルガノボランとブタジエンおよびスチレンとの反応 (北大工) 鈴木 章・秋原 博・吉成知博・伊藤光臣
- C21. 酸ヒドラジドとスルフェミン酸の DMSO 中での反応 (北大工) 高田善之○千葉俊郎
- C22. 3 級アミンとギ酸の付加化合物によるカルボニル化合物の還元 (北大工) ○片岡新治・高田善之・大家邦久・田畑昌祥
- D会場 —(9 時から)—
- D01. *o*-イソプロベニルステレンおよび*o*-アリスチレンの二段重合 (第 3 報) 重合の機構とポリマーの構造 (北大工) ○横田和明・小笠原盛和 高田善之
- D02. ナトリウムセルロース III および IV に関する X 線結晶の考察 (北大工) 渡辺貞良・林 治助○山田拓司
- D03. セルロース第二次アセテートの X 線繊維図形に関する一考察 (北大工) 渡辺貞良・林 治助・高井光男・髭受彰
- D04. ポリ-*g*-クロロステレン溶液 (IV) 光散乱および X 線小角散乱 (北大理・早大理工) ○和泉義信・三宅康博・千葉明夫
- D05. 高密度ポリエチレン混合系の溶融粘度 (室蘭工大) 東海林幸義○佐藤守之・八幡寿雄

- D06. 6-ナイロンとポリプロピレンとのブレンド物の粘弾性挙動(室蘭工大) ○嶋山明俊・村山昭夫・小松藤男
- D07. PVCの高温熱分解に関する研究(Ⅲ) 酸化亜鉛の影響(阪工大) ○飯田健郎・末次建一・中西資治・後藤邦夫
- D08. メチル化メチロールメラミンの解離定数(織高材研) 田代辰夫
- D09. 重合ケイ酸の解重合に対する OH⁻ イオンの影響(北大工) ○木村真吾・後藤克己・永山政一
- D10. 硝酸塩系溶解塩における鉄およびニッケルの腐食反応(北大工) 能登谷武紀・石川達雄・緑川林造
- D11. 泥炭フミン酸のクロムキレート(第2報)(北見工大) 佐々木満雄・岡 宏○井上貞信
- D12. ジメチルホルムアミドを溶媒とした泥炭フミン酸のゲル化(北見工大) 佐々木満雄○岡 宏・井上貞信

—(14時30分から)—

- D13. 活性汚泥微生物に対する銅イオンの影響および濃縮(北大工) ○寺町和宏・神山桂一
- D14. コークス化過程における熱処理炭の収縮特性(北開試) 西野 浩○武田昭平・吉田雄次
- D15. 流動層内の気泡の挙動におよぼす分散板の影響(北開試) ○安達富雄・富田 稔
- D16. AlPO₄ 触媒の表面活性(北見工大) 多田旭男
- D17. MgO・TiO₂ の物性と触媒活性(北大理) ○住吉秀・服部 英・田部浩三
- D18. MnO₂ 触媒上の CO₂ の挙動(北大工) ○小林正義・三原祐治・小林晴夫
- D19. BF₃ 吸着したアルミナの酸性と活性(第10報) フリルメタル指示薬を用いる酸性の測定(北大工) ○松浦寛治郎・渡辺孝明・鈴木 章・伊藤光臣
- D20. シリカ・アルミナ触媒上での脂肪酸スルフィドの構造と分解反応性(北大工・興和石油) ○杉岡正敏・平野稔幸・四ツ柳隆夫・青村和夫
- D21. ニッケル系触媒によるチオフェンの水素化分解(北大工) 杉岡正敏○吉田右治・四ツ柳隆夫・青村和夫
- D22. 銅, カドミウム触媒上でのイソプロパノールの脱水素およびプロピオンアルデヒドの水素化反応(北大工) 杉岡正敏○曾我正人・四ツ柳隆夫・青村和夫
- 特別講演 (12:50~13:20, A会場)

1. ポリ- α -アミノ酸(北大理) 野口順蔵
2. アルミニウム電解工業の最近の傾向(日軽金) 篠田公隆 懇親会 (17:30~, A会場)

昭和47年

北海道支部 1972 年冬季研究発表会

共催 北海道支部・日本化学会北海道支部

日 時 1月28日(金)・29日(土) 9時~

会 場 北海道大学教養部(札幌市北17条西8丁目)
研究発表(講演時間12分, 討論3分)

A会場(N302教室)

第1日(28日) —(9時~)—

- A1 テストステロンの酸による呈色反応(その5) 反応生成物の酸による呈色について(北大薬) 木村道也・針田和明・三浦敏明・清水洋二
- A2 ヒドラジンによる還元反応 I クロム塩存在下におけるニトリルの還元(北大工) 高田善之・○佐藤栄二・千葉俊郎
- A3 Hydrophenanthrene の接触還元(北大理) ○賀佐伸省・森川 卓・松永政司・浜中信行・松本 毅
- A4 グリニヤカップリングによるアダマンタン橋頭位アルキル化反応の改良(北大理) 大沢映二
- A5 *o*-ニトロフェニルメチルカルビノールと臭化水素の反応(北大工) ○小林琢磨・大家邦久・高田善之
- A6 シクロプロピル置換エチレンとケトン類との光環化付加反応(II)(北大理) 西田進也・○石川雅久・清水宣次郎
- A7 フェニルヒドラゾン誘導体のハロクロミズム(北大工) ○田畑昌祥・高田善之
- A8 被照射2メチルテトラヒドロフラン・ガラス中の捕捉電子(北大工) ○市川恒樹・清水昌明・吉田 宏・林晃一郎
- A9 テトラシアノエチレン・イオンラジカルの電子移動反応における対イオン効果(北大工) ○高岡英俊・小笠原正明・林晃一郎
- A10 核磁気緩和からみた多孔性ガラス中の水の動的性質(北開試) 佐藤俊夫・○平間康子

第2日(29日) —(9時~)—

- A11 PVCの熱分解過程について(北大工) ○大野泰照・下川繁三・相馬純吉・遠藤一夫
- A12 電場下における有機化合物の分解, 分留に関する研究(その1)(北大工・北大理) ○下川繁三・平野晴望・遠藤一夫・片山明石
- A13 触媒充てん層内の温度分布(室蘭工大) ○寺田義弘・向井田健一・渡辺治夫
- A14 ハナヒリノキの微量成分の研究(北大理) 浜中信行・○宮腰秀弘・松本 毅
- A15 ϵ -カプロラクトンから ϵ -カプロラクタム合成(北大工) 高田善之・松田敏雄・丹 一夫・○近江 伸
- A16 アミド化合物の幾何異性体と回転異性(その2)

- (北大工) ○田畑昌祥・高田善之
- A 17 ICR 法によるイオン分子反応に関する研究 プ
ロパン-ベンゼン系 (北大工) ○蓮田良紀・
青柳勝行・入江正浩・林晃一郎・相馬純吉
- A 18 リボフラビン・セスキノンとフェノール類の分子
錯体 (北大理) ○高倉義憲・松永義夫
- A 19 N-メチル- と N-メチルフェノチアジン-ヨウ素
錯体の電気的性質 (北大理) 菅 和郎・○松永義夫
- A 20 いくつかの芳香族化合物結晶のイオン化ポテンシ
ヤル (北大理) ○相原惇一・橋本孝海・長船和光・
松永義夫
- A 21 固相におけるトリシアノビニル化合物の自己錯体
形成 (北大理) ○佐々木章・相原惇一・松永義夫
—(13 時〜)—
- A 22 混練法シリカアルミナ触媒の有効拡散係数
(室蘭工大) 愛場康博・○向井田健一・渡辺治夫
- A 23 オリビン鉱石の塩素化 (北大工) ○小林義幸・
島田志郎・古市隆三郎・石井忠雄
- A 24 硝酸塩系溶融塩におけるハロゲンイオンのアノ
ード酸化について (北大工) ○能登谷武紀・緑川林造
- A 25 ゼオライト触媒によるオレフィンの二量化反応
(北大工) ○仙石憲洋・佐野正勝・青村和夫
- A 26 シリカ-アルミナ触媒による脂肪族メルカプタン
およびスルフィド類の接触分解反応性
(北大工) ○杉岡正敏・青村和夫
- A 27 脱硫触媒による有機イオウ化合物の水素化分解反
応性 (北大工) 杉岡正敏・○堀川借範・青村和夫
- A 28 硫酸ニッケル-アルミナ触媒によるクメン-クラ
ッキング反応とその酸性質 (北大工) 青村和夫・
四ツ柳隆夫・佐野正勝・景山芳輝・○星野 仁
- A 29 三フッ化ホウ素系触媒による芳香族のニトロ化反
応 (北大工) 青村和夫・長谷川英司・○大久保正克

B 会場 (N 304 教室)

第 2 日 (29 日) —(9 時〜)—

- B 1 Lippmann 電位の変化に基づく電位差滴定法
(北大理) 神原富民・○木場知恵
- B 2 接触分析へのイオン電極の応用
(北大理) ○片岡正光・神原富民
- B 3 ポーラログラフ法によるヒ素の定量
(北大医) 錫谷 徹
- B 4 化学的手段によるし尿汚染の判別——湯の川温泉
地帯を例として——
(北大水産) ○松永勝彦・小西繁樹・工藤隆士

- B 5 鉄鋼中の微量鉛の定量法
(日鋼室蘭) 鈴木孝範・○村井 了
- B 6 フェロンを用いる Al^{3+} の定量法 (北大工)
○小野寺光子・田村紘基・後藤克己・永山政一
- B 7 無電荷錯体に対するゼフィラミンの影響——
SAPH-Ni, Cu 錯体の抽出——
(北大水産) 西村雅吉・○乗木新一郎・村本誠治
- B 8 無電荷錯体に対するゼフィラミンの影響——
GHA-Cd, UO_2 錯体の抽出——
(北大水産) 西村雅吉・○乗木新一郎
- B 9 8-ヒドロキシキノリン-5-スルホン酸と マグネシ
ウムのキレート陰イオンのゼフィラミンによる抽出
(北大理) ○菅原正雄・神原富民
- B 10 キシレノールオレンジと Ni(II), Zn(II) との錯
形成 (北大理) ○山田隆雄・藤本昌利
- B 11 銅-2メチルオキシシン錯体と IDA との配位子置換反
応 (北開試) ○中川孝一・原口謙作・伊藤三郎
- B 12 マグネシウムの表面電離質量分析
(室蘭工大) 室住正世・○吉岡芳明
- B 13 表面電離型質量分析計による南極氷雪中のカルシ
ウムの同位体希釈分析
(室蘭工大) 室住正世・○中村精次
- B 14 表面電離法によるカドミウムの質量分析
(室蘭工大) 室住正世・○加藤拓紀
- B 15 登別温泉におけるイオウの同位体比について
(室蘭工大) 安孫子勤
- B 16 GC-MS 法による 1 ppb オーダーのメチル水銀化
合物の同定——試料濃縮法について
(北開試) 佐藤俊夫・○大越純雄
- B 17 非対称なガスクロマトグラフピークの経験式 (北
大理) 大関邦夫・○岡村 隆・菅原正雄・神原富民
- B 18 EDTA によるカドミウムおよび亜鉛の温度滴定
(北大理) 吉田仁志・多賀光彦・○水口正美・
藁目清一郎
- B 19 温度滴定によるカドミウムと 1,10-オルトフェ
ナントロリンとの反応の検討 (北大理・北教大岩見
沢) 吉田仁志・多賀光彦・藁目清一郎・○佐藤敬海
- B 20 ピロリン酸銅メッキ浴中の Cu^{2+} , $P_2O_5^{4-}$ および
 PO_4^{3-} イオンの分離分析 (北大工) ○井上 清・
金野英隆・後藤克己・永山政一
- 特別講演 (28 日 13 時〜, B 会場にて)
- 1 化学工業の現状 (旭化成技研) 若狭良一
 - 2 公害分析に関する理学的諸問題 (金沢大理) 木羽敏泰

懇親会 28日 17時30分～、石狩会館（札幌市北4条西5丁目）

連絡先 〒060 札幌市北10条西8丁目 北海道大学
理学部化学教室 長谷部清

[電話：011-711-2111, 内線 2710]

北海道支部 1972年夏季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 8月25日(金), 26日(土) 9時から

会 場 旭川工業高等専門学校(旭川市春光台2条2丁目)
[交通] 旭川駅前から道北バス春光台ゆきで高専前
下車, 所要20分

日 程 25日: 研究発表・特別講演・懇親会
26日: 見学会

研究発表(講演10分, 討論2分)

A会場 (9時から)

- A01. アセナフチレンオゾンビドの分解反応(旭川工専) 宮嶋正照
- A02. ニッケルおよび銅錯体と水素化ホウ素ナトリウムによるニトロベンゼンの選択的還元(北見工大) 新井義夫○見陣章彦
- A03. キシレンのクロルメチル化によるトリメリット酸合成(北大工) ○高田善之・高田泰一
- A04. ジメチル尿素の合成(北大水産) 三木正之○森野 滋・鈴木 翼・酒井 信・櫻木 勇
- A05. エノキスゲ花ロウ成分(北教大札幌) ○南波 哲・若山誠治
- A06. *Ranunculus Polycephalus* の辛辣性成分の構造(城西大理) 石川澄雄・吉原博子
- A07. インゲンマメの根の水溶性成分(北大理) 正宗 直・勝井信勝・高杉光雄○姉帯正樹
- A08. リンチム抵抗性アミノ多糖由来オリゴ糖の分離と同定(北大理) 林 英幸○天野憲一・荒木義雄・伊藤英治
- A09. アミノ多糖由来オリゴ糖に対するリンチムの作用(北大理) 林 英幸・天野憲一○荒木義雄・伊藤英治
- A10. *Acetobacter Xylinum* によるセルロースの生合成ならびにその微細構造(北大工) ○轟 泰志・高井光男・林 治助・渡辺貞良
- A11. 血中一酸化炭素ヘモグロビンの吸光度定量(北大医) ○錫谷 徹・山岡あい子
- A12. 梳毛用国産羊毛の炭化法(5) 希アルカリによる前処理の効果(旭川工専) 諏訪宣雄
- A13. 9-10-ジアザフェナントレンの光化学反応(神奈川大工) ○井上広保・松香好彦
- A14. ステロイド-5-エン-3-オール類の hypoidite 反応(北大理) 杉野目浩○加藤公敏・正宗 直
- A15. 6-tert-butyl-3-methoxy-3-methylcyclohexene 立体異性体のエチルアミン-リチウムによる還元(北大理) 正宗 直○松江 一・藤井松生
(14時40分から)
- A16. 合成中間体としてのアルコキシシクロプロパン誘導体(福井大教育) ○目不二雄・杉浦恵美子
- A17. β - β -ジシクロプロピルステレン誘導体と TCNE の反応(北大理) 西田進也○石川順子・辻 孝
- A18. 2,4-エタノアダマンタンの臭素化(北大理) 大沢映二
- A19. o-アシルフェニルアクリレート の環化重合(北大工) ○横田和明・平山信広・高田善之
- A20. ビニル o-イソプロペニルベンゾエートの環化重合(北

大工) 横田和明○金子憲明・高田善之

- A21. テトラヒドロフランとプロピレンオキシドの電解開環共重合(北大工) ○日比俊明・金東漢・小笠原正明・林晃一郎
- A22. 酸化クロム・シリカ・アルミナ触媒によるプロピレン重合(北大工) ○松尾清隆・米田徳彦・大塚 博
- A23. 酸化ニッケル・シリカ・アルミナ触媒によるエチレン・プロピレン共二量化反応(北大工) 大塚 博・米田徳彦・高橋邦昌○細川俊裕
- A24. パルプの酸素酸化精製(北大工・ほくさん) ○坂本淳一・山田邦重・戸坂園夫・林 治助・渡辺貞良
- A25. マーセル化セルロースの反応性劣化の原因(苫小牧工専・北大工) ○木村規矩也・林治 助・渡辺貞良
- A26. 泥炭フミン酸の分別(II)(北見工大) ○岡 宏・井上貞信・佐々木満雄
- A27. 高分解能 NMR スペクトルおよび IR スペクトルによる北海道炭アスファルト質の芳香族水素と脂肪族水素(北開試・北大工) ○吉田諒一・前河浦典・横山 晋・武谷 愿
- B会場 (9時から)
- B01. コバルトのアノード酸化挙動(北大工) ○大塚俊明・坂下雅雄・工藤清勝・佐藤教男
- B02. 硝酸塩溶融塩における各種金属のアノード分極特性(北大工) ○能登谷武紀・緑川林造
- B03. 水酸化ニッケル沈殿膜のイオン透過性(北大工) ○坂下雅雄・佐藤教男
- B04. チタン酸鉛単結晶の育成(阪工試) ○坂下千秋・本庄孝子・瀬戸口正宏・亀井 祭
- B05. 気相法による ZnO 針状結晶の作成(北大工) 松下 徹・齋藤準二・小平敏平・吉田諒一
- B06. 有機金属化合物からの SrTiO₃ 薄膜の生成(北大工・名大工) 松下 徹○福島 純・小平敏平・山井 巖
- B07. 酸化スズ-酸化バナジウム系針状結晶の生成とその性質(北大工・名大工・北開試) 松下 徹・山井 巖・小平敏平・齋藤準二○吉田諒一・吉田雄次
- B08. SnO₂-V₂O₅ 系焼結体(北大工・名大工) 松下 徹○高橋順一・小平敏平・山井 巖
- B09. 高温高圧下における ZrO₂ の安定化(北大工) ○小平敏平・松下 徹
- B10. 無機水合物の脱水反応(加圧下の熱分析)(北見工大) ○本間恒行・山田哲夫
- B11. シュウ酸塩の熱分解に対する KClO₃ の添加効果(北大工) ○石井忠雄・古市隆三郎・川崎敏博・鍛田邦次
- B12. ZnFe₂O₄ の生成反応に対する α -Fe₂O₃ の加熱温度の影響(北大工) ○古市隆三郎・石井忠雄・牧野光弘
- B13. MgAl₂O₄ 生成反応に及ぼす MgO の製造履歴の影響(北大工) ○島田志郎・木村邦夫・石井忠雄
- B14. スピネル生成反応におけるアルミナの反応性(北大工) ○土田 猛・古市隆三郎・石井忠雄
- B15. 炭化マンガンの加水分解反応の速度論(北大工) 新谷光二
(14時40分から)
- B16. EuS の蒸気圧測定(北大理) ○長井修一郎・新明正弘
- B17. ヨウ化銀の構造と電気物性(北大理) 星野英典・下地光雄
- B18. 銀酸化物の物理化学的性質(北大工) 佐藤教男・工藤清勝・瀬尾真浩○西村六郎
- B19. スラリー沈降の空間率関数(室蘭工大) 渡辺治夫○小幡英二
- B20. BF₃ 触媒を用いるジソブチレンによるフェノールのアルキル化反応(北大工) ○福原 疆・藤原鉄也・米田徳彦・大塚 博
- B21. Ni によるエチレン・プロピレン水素化反応中の吸着(室

- 蘭工大) ○富士川計吉・篠島隆志
- B 22. ニッケル触媒によるアセチレンの水素化 (北大触研) ○竹内 淳・宮原孝四郎
- B 23. 電界放射顕微鏡 (FEM) 法による清浄 Mo 上での吸着 H₂O の挙動 (北大触研) ○窪田順一・東 克彦
- B 24. シリカアルミナ触媒の被毒活性と酸性 (室蘭工大) ○向井田 健・竹内敏雄・渡辺治夫
- B 25. ZrO₂ を含む二元および三元酸化物の酸性度と塩基性度 (北教大函館) ○荒田一志・神尾和夫・中西英明
- B 26. P₂O₅-Al₂O₃ 系触媒の表面性質と n-ブタノール脱水反応活性 (北見工大) 多田旭男
- B 27. 固体酸触媒によるフェノールのアミノ化 (北大理) ○佐藤正昭・山口 力・田部浩三
- C 会場 —(9時から)—
- C 01. 溶液中のリン光寿命の測定 (北大応電研) 藤田昌久・竹村 健
- C 02. 低温フラッシュ分光装置の試作と二, 三の結果 (北大応電研) ○木村克美・岡島重夫・阿知波洋次・市川一郎
- C 03. ハロゲン化メタンの光電子スペクトルの帰属および $\nu(\text{CH}_3)-\pi(X)$ 軌道間の相互作用 (北大応電研) ○勝又春次・木村克美
- C 04. 結晶グルコースの溶解速度 (旭川工専) 飛野野哲宏
- C 05. アルデヒドの液相酸化速度 (室蘭工大) ○長 孝・竹内隆男・柳井 弘
- C 06. 希薄水溶液中におけるアルコールの見掛けのモル容積および見掛けのモル圧縮率 (北大理) ○中島利夫・小松 剛・中川鶴太郎
- C 07. 希薄水溶液中における有機塩類の見掛けのモル容積 (北大理) ○桜井雅男・小松 剛・中川鶴太郎
- C 08. α -メチルステレンの放射線重合における陰イオンの役割 (北大工) 片山明石
- C 09. 芳香族アニオンラジカル溶液からの光電子放出(北大工) ○清水昌明・市川恒樹・林晃一郎
- C 10. 電解用 NMR とその応用 (北大工) ○下川繁三・福井洋之
- C 11. 分子化合物形成における電荷移動と陽子移動 (V) 種々のアニオン誘導体と 2,4-ジニトロフェノールの錯体 (北大理) ○井上伸秋・松永義夫
- C 12. ベンゾおよびジベンゾフェノチアジンの陽イオンラジカル塩 (北大理) 鈴木幸夫○松永義夫
- C 13. 2-アミノピリミジンによる硫酸イオウの定量(北大水産) ○中谷 周・西村雅吉
- C 14. 硫酸鉄錯体を利用する硫酸イオウの吸光光度定量 (北教大札幌) 那須淑子・渡辺望子
- C 15. 無電荷キレート(亜鉛-オキシン)に対する第4級アンモニウム塩の作用 (北大水産) 乗木新一郎・西村雅吉 —(14時40分から)—
- C 16. イオン電極による銅の定量 (北大理) 多賀光彦・吉田仁志・養目清一郎○水口正美
- C 17. イオン電極の接触分析への応用……W(VI)の定量 (北大理) ○片岡正光・神原富民
- C 18. 溶媒抽出分離-有機相発色によるビスマスの吸光光度定量 (北見工大) 赤塚邦彦
- C 19. オキシンによるマグネシウムの抽出比色定量(北大水産) 西村雅吉・中谷 周・吉田精二
- C 20. 高濃度の第2鉄の存在下における第1鉄イオウの吸光光度定量 (北大工) ○田村紘基・後藤克己・永山政一
- C 21. 水田土壌中の微量カドミウムの定量方法 (道工試) 桶屋光雄
- C 22. 原子吸光分析によるかん詰汁中の金属元素の定量 (愛媛工学商高専) 堤 靖景

- C 23. 銅 (II)-2-メチルオキシン錯体とニトロトリ酢酸との配位子置換反応 (北開試) ○中川孝一・原口謙策・伊藤三郎
- C 24. 遷移金属塩溶液による有機イオウ化合物の液体抽出(7) 酢酸-水混合溶媒に溶解した酢酸第2水銀による有機イオウ化合物の液体抽出 (北大工) ○上館民夫・四ツ柳隆夫・青村和夫
- C 25. 銅 (II)-補助配位子錯体溶液によるメルカプタンの液体抽出 (1) 抽出反応に有効な補助配位子 (北大工) ○藤井英嗣・上館民夫・四ツ柳隆夫・青村和夫
- C 26. 銅の同位体質量分析 (室蘭工大) 室住正世○阿部友二
- C 27. カントバッグ分析におけるCおよびBの妨害元素の補正 (新日鉄室蘭) 堀田一夫・中田瑞穂○浜田 栄
- C 28. エレクトログラフ法による合金成分の検出と合金鑑定 (函館工専・旭川工専) ○藤田 徹・大野 豊
- 特別講演 (12:50~14:30)
1. 北国の花の香り (北教大札幌) 若山誠治
 2. 環境科学の現実の問題点 (環境科学センター) 草間 潤
- 懇親会 18時からニュー北海ホテルで。
※参加登録・懇親会・見学会申込締切を7月15日(土)まで延期します。(本誌5月号参照)

昭和48年

北海道支部 1973年冬季研究発表会

主催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部
日 時 2月3日(土), 4日(日)
会 場 北海道大学工学部 (札幌市北区北13条西8丁目)
(講演は1件当り討論を含めて15分)

第1日(3日)

A会場

—(13時から)—

- 3A01. 最近の登別温泉活動 (室蘭工大) 安孫子 勲
- 3A02. 青函トンネル坑内水の地球化学的研究—作業坑坑内水の水質変化 (函館高専) 水上正勝
- 3A03. 沿岸海域の魚介類中の水銀含量 (北大水産) ○松永勝彦・小西繁樹・西村雅吉
- 3A04. 大気中鉛の同位体希釈質量分析 (室蘭工大) 室住正世 ○加藤拓紀
- 3A05. 海水銅の同位体希釈質量分析 (室蘭工大) 室住正世 ○阿部友二
- 3A06. 粘土鉱物に対する銅イオウの吸着 (北大工) ○塩沢幸之・後藤克己・永山政一
- 3A07. 水酸化アルミニウムによるカドミウムイオウの共沈—共存物の影響 (北大工) 後藤克己・田村紘基○小池 明・永山政一
- 3A08. ポーラログラフ酸素第1波極大を利用したタンパク質超微量定量法 (北大医) ○錫谷 徹・腹内善悟
- 3A09. Snのポーラログラフイオウの挙動 (札幌市創成川処理場) 林 英夫
- 3A10. 定電位界面張力滴定法 (北大理) ○木場知恵・神原富民
- 3A11. 指示薬を用いる界面張力滴定 (北大理) 木場知恵○奥山悦男・神原富民
- 3A12. ガスクロマトグラフィーによる気-液分配係数の測定法 (北大理) 大関邦夫○戸村 正・神原富民
- 3A13. 14 MeV 中性子放射化分析による汚染水中の微量フッ素イオウの定量 (北開試) ○矢部勝昌・高橋義人・佐藤俊夫
- 3A14. 表面電離質量分析—カリウムとカルシウムの逐次分析

(室蘭工大) 室住正世○中村精次

B会場 (13時から)

- 3B01. 昇温脱離法による吸着(北大対研) 豊島 勇
3B02. リン酸アルミニウム触媒に対する硫酸イオンの添加効果(北見工大) 多田旭男○伊藤英信
3B03. 酸化物上の表面水酸基と水の反応の機構(北大工)○竹沢暢恒・小林晴夫
3B04. セオライト系触媒によるエチルメルカプタンの接触分解反応(北大工) 杉岡正敏○中村俊紀・青村和夫
3B05. 金属塩の触媒作用(I) プチレンオキシドの異性化反応(北大工)○松本繁美・新田昌弘・青村和夫
3B06. 固体酸を触媒とする *m*-クレゾールとプロピレンとの反応(北大工)○山口克美・新田昌弘・青村和夫
3B07. 炭素質イオン交換体による亜硫酸ガスの酸化吸着速度(室蘭工大) 柳井 弘○野々川和男
3B08. ZnAl₂O₄ スピネル生成反応における ZnO と Al₂O₃ の製造履歴の影響(北大工)○近藤雅昭・土田 猛・古市隆三郎・石井忠雄
3B09. SnO₂ への V₂O₅ の固溶反応(北大工・名大工) 松下 徹○高橋順一・小平絃平・山井 巖
3B10. 気相成長法による ZnO 針状結晶の作成(その2)(北大工・名大工) 松下 徹○斎藤準二・小平絃平・山井 巖
3B11. Sm カルコゲナイトの蒸気圧(北大工) 新明正弘○長井修一郎
3B12. 高温における Eu 酸化物の蒸発挙動(北大工) 新明正弘
3B13. 硝酸塩系溶融塩における銅のアノード挙動(北大工)○能登谷武紀・緑川林造
3B14. *dn* 核反応によるジルコニウムおよびチタンの水素化物表面皮膜生成速度の測定(北大工)○水野忠彦・鈴木達志・諸住 高
3B15. Al アノード酸化皮膜の熱水処理(北大工) 高橋英明○藤岡敏三・後藤克己・永山政一

第2日(4日)

A会場 (10時から)

- 4A01. 3,3'-ジアミノベンジジンおよびビスムチオールIIによる鉄鋼中のセレン, テルルの分離定量(北大工) 多賀光彦・吉田仁志・養目清一郎○松林早苗
4A02. 鉛とメチルキシレノールブルーの反応(北教大札幌) 那須淑子○山谷和子
4A03. *o*-ヒドロキシアゾ色素のパラジウム(II) キレート(北大工)○星野 仁・山下隆二・四ッ柳隆夫・青村和夫
4A04. 界面活性剤水溶液中における金属イオンと 1-(2-ピリジルアゾ)-2-ナフトールとの反応(室蘭工大)○渡辺寛人・室住正世
4A05. フェロンと界面活性剤を用いたアルミニウムイオンの定量法—妨害イオンのマスキング(北大工) 後藤克己・田村絃基○前川俊正・永山政一
4A06. 8-ヒドロキシキノリン-5-スルホン酸-亜鉛(II)-ゼフィラミンの三元錯体の抽出(北大工) 長谷部 清○森 均・神原富民
4A07. 銅(II)-ジソコンキレート陰イオンのゼフィラミンによる抽出(北大工) 菅原正雄○新山和人・神原富民
4A08. 遷移金属塩溶液による有機イオウ化合物の液々抽出(9) 各種有機イオウ化合物に対する遷移金属イオンの抽出反応特性(北大工)○上館民夫・四ッ柳隆夫・青村和夫
4A09. Ni-TAC の溶媒抽出機構(北開試) 中川孝一・山田勝利・原口謙策○伊藤三郎

特別講演 (13時から)

1. 農業および PCB による環境汚染に関連する諸問題(カナ

ダ国立農業研) 千葉幹雄

2. 有機化学における NMR の新しい使い方(北大工) 松本 毅

(15時から)

- 4A10. NaCl 板に蒸着した 1-アリルアゾ-2-ナフトールの振動スペクトルと互変異性(北大工)○宮島信彦・松永義夫
4A11. アニル-*o*-ベンゾキノンの多形と電子スペクトル(北大工) 柳引剛一・相原惇一○松永義夫
4A12. 酸性白土との接触で生じた芳香族イオンラジカルの電子スペクトルから見た挙動(北大工)○村上幸夫・松永義夫
4A13. 3 価ランタニドと PAR [4-(2-ピリジルアゾ) レゾルシノール] の錯形成機構(北大工)○中村幸一・山岸皓彦・藤本昌利
4A14. ポリマレイン酸の解離挙動における対イオン効果(北大工)○武藤宣彦・小松 剛・中川鶴太郎
4A15. 銅および銅-カドミウム触媒に吸着したクロトンアルデヒドの赤外吸収スペクトル(北大工)○曾我正人・青村和夫

B会場 (10時から)

- 4B01. 硝酸塩によるカルボニウム化合物の還元(II)(北大工) 川村真一○田畑昌祥・高田善之
4B02. ϵ -カプロラク톤の環縮小反応(北大工) 高田善之・松田敏雄○丹 一夫
4B03. 硝酸塩と第3級アミン塩によるカルボニル化合物の還元反応III(北大工)○田畑昌祥・森田雄介・高田善之
4B04. *N*-メチルプロピド溶媒におけるアミノ基のベンゾイル化(北大工)○多田出一三・高田善之
4B05. アミノピバリン酸の合成およびその縮合(北大工) 高田善之○佐藤栄二
4B06. α, β エポキシエステルの光化学反応—(V) 3-メチル-3-フェニルグリシドエチルの光化学反応(北大工)○V. V. Chung・徳田昌生・鈴木 章・伊藤光臣
4B07. メチル化アダマンタン系炭化水素のマスマスペクトル(北大工) 大沢映二
4B08. Kober 反応におけるステロイドカルボカチオン(北大工) 木村道也○三浦敏明
4B09. ハナサキガニ中腸腺のトリプシン様酵素(北教大釧路)○北田正義・伊藤裕三

(15時から)

- 4B10. 木材加水分解回収硫酸の濃縮時における溶存糖の分解生成物の挙動(旭川高専)○唐牛 勇
4B11. スラリーの粘度(室蘭工大)○楠 文利・渡辺治夫
4B12. 石炭ピリジン抽出物- γ -2-4 成分のゲルパーミエイションクロマトグラフィーによる分別物の化学構造(北大工)○大西憲明・横山 晋・武谷 暁
4B13. PVA 繊維の繊維状反応における結晶構造変化(北大工) 林 治助○内藤京子
4B14. ポリエチレンイソプレーションフィルムの二層構造(北大工)○林 治助・斎藤晃一
4B15. ナイロン繊維の微細構造(北大工) 林治助○内田 修
参加登録料 400 円(講演要旨集を含む)
懇親会 2月4日 18時からグランドホテル(札幌市中央区北1条西4丁目)で行ないます。会費 2,000 円。
連絡先 060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北大工学部工業分析化学第 1 研究室 1973 年冬季研究発表会実行委員会(電話 (011) 711-2111, 内線 3796・2378・2379)

北海道支部 1973 年夏季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 7月28日(土), 29日(日)

会 場 北海道大学水産学部 (040 函館市港野 3-1-1)

(講演 12分, 討論 3分)

7月28日

A会場 (9時30分から)一

A-1. 希薄水銀溶液保存上の諸問題(北大水産) 西村雅吉・松永勝彦○小西繁樹

A-2. 冷原子吸光法による有機水銀の定量法(北大水産) ○松永勝彦・久々津正・西村雅吉

A-3. アルカリ分解による動物組織中のメチル水銀定量法(都立衛生研) ○竹内正博・江波戸拳秀・原田裕文・戸谷哲也

A-4. 1-フェニル-3-メチル-4-カプリルピラゾロン-5-MIBK抽出によるストロンチウムの原子吸光分析法(明星大) ○赤間美文・河村文一

A-5. 表面電離法によるカドミウムの質量分析(2)(室蘭工大) 室住正世・中村清次・加藤拓紀○山脇正義

A-6. イオン電極を用いるカドミウムの定量(北大理) 多賀光彦・吉田仁志・養目清一郎○水口正美

A-7. ポーログラフ法による血中一酸化炭素の定量(北大医) 錫谷 徹

A-8. カソーディックストリッピング法による銅の定量(富山大) 野村 昇○原 稔・水野正秋

A-9. 希薄ホルムアルデヒド水溶液のガスクロマトグラフによる分析(北海道林産試) 峯村伸哉

A-10. 1-(2-ピリジルアゾ)-2-ナフトールと界面活性剤を用いる亜鉛の吸光光度定量(室蘭工大) ○境 幸夫・渡辺寛人・室住正世

一(13時から)一

A-11. 4-(2-ピリジルアゾ)-レゾルシン-(CDTA-バナジウム(V)系の錯形成平衡(北大工) ○伊藤純一・根津恵理子・四ツ柳隆夫・青村和夫

A-12. 銅(II)-補助配位子錯体によるメルカプタンの液相抽出(3) 銅(II)-*o*-フェナントロリン錯体によるメルカプタンの液相酸化(北大工) ○藤井英嗣・上館民夫・四ツ柳隆夫・青村和夫

A-13. 有機補助配位子をもつ銅錯体によるアルキルスルフィド系硫黄化合物の液相抽出(1) 銅-アルキルスルフィド- α -ジイミン型補助配位子系溶液の吸収スペクトル(北大工) ○吉井右治・上館民夫・四ツ柳隆夫・青村和夫

A-14. 遷移金属塩溶液による有機硫黄化合物の液相抽出(1) 硫化ジアルキルの反応性に関する考察(北大工) ○上館民夫・四ツ柳隆夫・青村和夫

A-15. 繊維素による重金属イオンの吸着(東北工試) 小野 幸嘉郎・鳥居一雄・堀田正巳・浅賀 賢

A-16. アルギン可溶性塩類-アルギン酸ソーダ水溶液の流動特性(函館高専) ○大場允雄・長尾輝夫・鈴木 昇

A-17. 多成分系共重合のコンピュータシミュレーション(函館高専) 長谷川俊勝

A-18. セリウム塩によるデンブンの酸化(函館高専・北工試) ○長谷川俊勝・平野 徹

B会場 (9時30分から)一

B-1. 加圧下における石炭の熱分解(4)(北見工大) 本間恒行○山田哲夫

B-2. 泥炭フミン酸(13)-3,300 cm⁻¹の吸収(北見工大) ○岡 宏・井上貞信・佐々木満雄

B-3. 北海道炭からの水素化分解アスファルト質の化学構造(北開試・北大工) ○吉田諒一・前河涌典・石井忠雄・武谷

愿

B-4. 硝酸塩溶融塩におけるカソード過程に関する一考察(北大工) ○能登谷武紀・緑川林造

B-5. 高温高圧下におけるZrO₂へのY₂O₃の固溶(北大工) 松下 徹○岩崎雄四郎・小平敏平

B-6. 水熱法による有機-モンモリロナイトの合成(北大工) ○網島 群・小泉光恵・松下 徹

B-7. 塗布法によるPbO薄膜の生成におよぼす水分の影響(北大工) ○福島 純・松下 徹・小平敏平・網島 群

B-8. 気相法によるSb₂O₃-Bi₂O₃系針状結晶の作成(北大工) 松下 徹○伊藤 滋・小平敏平・網島 群

B-9. 水熱法によるZn₂SiO₄結晶の作成(北大工) ○小平敏平・松下 徹

B-10. 高圧下における各種炭素の黒鉛化(北大工) ○松下 徹・小平敏平・石川純一

一(13時から)一

B-11. CaSO₄のみかけの溶解度積とイオン強度-地層水の地球化学的シミュレーション(函館高専) 水上正勝○高橋幸子

B-12. 油田水および温泉水からのホウ素の抽出(秋田大) ○岩崎文嗣・中野 昭・佐原良太郎

B-13. EDTA 吸収液による大気中の微量二酸化硫黄の定量(北大水産) 角皆静男○平山雅照

B-14. 堆積物中のウラン同位体比の測定(北大水産) 野崎義行○日下部正志・角皆静男

B-15. 天然水中のトリウム同位体比の測定(北大水産) ○南川雅男・角皆静男

B-16. 放射性同位体の挙動より推定される海水中の重金属の存在状態(北大水産) 角皆静男

B-17. α -スペクトロメトリーによる微量ラジウムの精密定量法(北大水産)・角皆静男○野崎義行

B-18. 原子吸光による海水中の金属元素の分離分析(弓削商高専) 堤 靖景

C会場 (9時30分から)一

C-1. ハロアダムantanとアセチレン系グリニヤ試薬とのカップリング反応(北大理) ○大沢映二・秋元 格

C-2. ノルダイアダムantanの改良合成法と反応(北大理) 大沢映二○富樫 厚

C-3. 5-アルキルフラン-2-カルボン酸のBirch還元(北大理) 正宗 直○小野光則・松江 一

C-4. シアナミドジチオ炭酸エステルおよびその関連化合物に関する合成的研究-とくにN-Si化合物の反応(東工大) 奥野 敏・黒山隆之・大戸敏二郎

C-5. オルガノボランの化学(37)酸素存在下 α , β -不飽和イミンとオルガノボランの反応(北大工) ○柏木正敏・宮浦憲夫・伊藤光臣・鈴木 章

C-6. *o*-アルリフェニルメタクリレート有機アルミニウム化合物存在下での環化重合(北大工) ○金子憲明・横田和明・高田善之

C-7. 4-シクロプロピルブチル誘導体の合成とその反応(北大理) 西田進也○佐々木邦夫・伏見和夫・辻 孝・清水宣次郎

C-8. シクロプロピルエチレン類のDiels-Alder反応(北大理) 西田進也○石塚伸一・辻 孝

C-9. ツェプセンのスルホン化(北見工大) 伊藤昌明○阿部和夫・杉本 紀

C-10. PVCの熱分解(10)塩素化ポリブタジエンの熱分解(阪工大) ○中西賢治・飯田健郎・後藤邦夫

一(13時から)一

C-11. 3-*o*, *N*-diacetyl-22, 26-imino-11-oxo-5 α -jervane-3 β , 23 β -diolのHypoidite反応(北大理) 杉野目浩○小野均・蔵本真樹・正宗 直

C-12. ベンゼンのハロアルキル化反応(北大工・苫小牧高専)
○上田道泰・米田徳彦・鈴木 章・大塚 博

C-13. C-13NMRによるモノ置換ベンゼン(2)メタ位炭素の
 δ_c と ρ_1 および σ_m^+ の相関(北大工)○下川繁三・横野哲郎

C-14. フロエチルスルフィドのNMRスペクトル(名工
大)○高橋憲助・赤坂 健・近藤修寿・津田和一

C-15. ハマナス花ロウ成分(北教大札幌)南波 哲○長谷川
真喜子・若山誠治

C-16. インゲン豆(*Phaseolus vulgaris* L, ペニ金時)の根
の中の新脂肪酸(北大理)高杉光雄○小林喜六・姉帯正樹・
上野敏司・勝井信勝・正宗 直

C-17. ハナサキガニ中腸腺のトリプシン様酵素(北教大釧路)
伊藤裕三

C-18. イカ筋肉中のイノレナーゼ(予報)(北教大函館)○奈
良 盛・柚田恭幸

D会場 (9時30分から)

D-1. ガスクロ法によるチタン酸バリウム触媒上の酸素、一酸
化炭素吸着(函館高専)○清水 崇・森若幸弘

D-2. Cr_2O_3 触媒によるCO酸化反応の動特性(北大工)○小
林正義・伊達知行○小林晴夫

D-3. 固体粒子への SO_2 ガスの吸着特性(北大工)○千葉忠俊
・倉田敏典・小林晴夫

D-4. エチレン酸化反応の定常状態—比表面積と触媒活性(室
蘭工大)加納久雄○葛蒲明己・鈴木祥史・金塚高次

D-5. 赤外分光法における同位体効果に関する一経験則—吸着
スペクトル解析への応用(北開試)日野雅夫

D-6. 水素同位体の迅速ガスクロマトグラフィー(北開試)○
大越純雄・高橋富樹・佐藤俊夫

D-7. スズ薄膜の酸化過程と赤外吸収スペクトル(北大工)○
布施仁志・田中貞夫・山科俊郎

D-8. 反応性スパッタリング法で作製した種々の酸化物薄膜の
構造と特性(北大工)○阿部哲也・花坂孝雄・山科俊郎

D-9. 有機塩基化合物の吸着したNiX-ゼオライト触媒の可視
スペクトル(北大工)○景山芳輝・仙石恵洋・新田昌弘・四
ツ柳隆夫・青村和夫

D-10. 調製法の異なる銀触媒上の吸着とエチレン酸化反応
(北大工)小林晴夫・水沢哲夫○竹沢陽恒・直木 恂

(13時から)

D-11. 銅触媒の活性におよぼす析出pHの影響(函館高専)
○日野 誠・小林 盛

D-12. シリカアルミナ触媒調製法と酸性質、活性(室蘭工大)
○向井田健一・坂下敏幸

D-13. 合成A型ゼオライトの触媒作用(2)カチオン交換率の
影響(北大工)○松本繁美・新田昌弘・青村和夫

D-14. 接触脱硫反応(15)ゼオライト触媒によるチオクエンの
接触分解(北大工)○松岡正敏・青村和夫

D-15. γ -アルミナを触媒とするm-クレゾールのプロピレン
によるアルキル化(北大工)○山口克美・新田昌弘・青村和
夫

D-16. BF_3 触媒を用いたフェノール類のジイソブチレンによる
アルキル化反応(北大工・苫小牧高専)○山川雅裕・米田
徳彦・鈴木 章・大塚 博

D-17. 酸化ニッケル、シリカアルミナおよびニッケル、ゼオ
ライト触媒によるエチレンとプロピレンの共重合(北大工・
苫小牧高専)○細川俊裕・米田徳彦・鈴木 章・大塚 博

D-18. 酸化ニッケル、シリカ、アルミナ触媒によるエチレン
およびプロピレンの重合—フェノール、メチルフェノール類
の触媒被毒効果(北大工・苫小牧高専)○鈴木直人・米田徳
彦・鈴木 章・大塚 博

(15時から)

特別講演(大講義室)

1. 南極ドライバレー塩湖の化学組成(50分)(北大水産)中
谷 周

2. 一本の試験管(50分)(北大理)藤本昌利

参加登録費 500円(予稿集共)

懇親会 28日18時から函館市民会館(函館市湯川町)で開催、
会費1,000円。

エキスカージョン 29日下記コースで開催、会費500円。
函館湯ノ川温泉—函館カントリークラブ(七飯)—大沼公園—
道立栽培漁業総合センター(鹿部)—白尻臨海実験所(白尻)—川
汲温泉ホテル—函館駅前

連絡先 060 札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学工学部
工業分析化学第2講座日本化学会北海道支部内 1973年夏季
研究会係(電話(011)711-2111 内線3458)

昭和49年

北海道支部1974年冬季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部

日 時 1月31日(木)、2月1日(金)10時から
会 場 北海道大学工学部(札幌市北区北13条西8丁目)

(講演は1件当り討論を含めて15分)

第1日(31日)

A会場 (13時から)

1A01. 界面張力測定による硫酸イオンの定量(北大理)○奥
山悦男・神原富民

1A02. ヨウ素反応を用いる硫酸イオンの定量(北教大札幌)
那須淑子○和田 博

1A03. メチルキシレノール・ブルーとマンガンイオンとの反
応(北教大札幌)那須淑子○原田幸二

1A04. 干渉作用を利用する原子吸光度測定を試み(北教大
札幌)那須淑子○阿部益太郎

1A05. 溶媒抽出—原子吸光度による銅、鉛、カドミウムの定
量(岩手工試)○河野隆年・根守 章

1A06. ジチオール錯体溶液による有機硫黄化合物の液液抽出
(1)マレオニトリル錯体によるメルカプタンの液相酸化(北
大工)○大野英人・上館民夫・四ツ柳隆夫・青村和夫

1A07. 4-(2-ピリジルアゾ)-レゾルシノールによるガリウム
(III)の抽出吸光度定量(北大工)○小谷満男・伊藤純一・
四ツ柳隆夫・青村和夫

1A08. 2-チアゾリルアゾ色素を用いる亜鉛の吸光度定量
(北大理)多賀光彦○深町泰子・吉田仁志・養目清一郎

1A09. ビス(2-アミノエチル)ジチオカルバミン酸を用いる
銅(II)の吸光度定量(北大理)菅原正雄○伊藤八十男・神
原富民

1A10. フェロン法によるAlの吸光度定量—EDTAによる
Mn-フェロン錯体の分解(北大工・富山大文理)後藤克己・
田村紘基○佐藤泰文・永山政一

1A11. 1-(2-ピリジルアゾ)-2-ナフトールと界面活性剤を用
いる鉄、コバルトの吸光度定量およびそのマスクング条件
の検討(室蘭工大)室住正世・渡辺寛人○境 幸夫

1A12. 1-(2-チアゾリルアゾ)-2-ナフトールと界面活性剤と
を用いるニッケルの分光光度定量(室蘭工大)室住正世・渡
辺寛人○松永秀樹・境 幸夫

1A13. チオナリドの紫外吸収と解離定数(道衛研)中谷省三
○山田三樹夫

B会場

—(13時から)—

- 1B01. 反応性スパッタリングによる窒化鉄薄膜の作製とその構造(北大工)○加来義行・田中貞夫・阿部哲也・山科俊郎
- 1B02. 反応性スパッタリングによるMOおよびTi窒化物薄膜の作製とその構造(北大工)○阿部哲也・花坂孝雄・山科俊郎
- 1B03. 吸着したピリジンの $\pi-\pi^*$ スペクトルによる固体酸の性質の検討(北大工)○景山芳輝・青村和夫
- 1B04. 光吸着および光触媒作用に見られるZnOの特異性(北大工)田中慶一
- 1B05. $\text{SiO}_2\text{-TiO}_2\text{-MgO}$ の表面酸性質(北大工)○山田輝明・伊藤正義・田部浩三
- 1B06. MgOとCaOを触媒とするトランス-2-ブテンの異性化反応(北大工)○酒井幸雄・山口力・服部英・田部浩三
- 1B07. 定常および非定常下におけるAg触媒上での C_2H_4 および C_3H_6 の生成速度(北大工)小林正義○太田善博・小林晴夫
- 1B08. 銅・カドミウム触媒によるクロトンアルデヒドの選択的水素化反応—各種被毒物による触媒活性への影響(北大工)○曾我正人・四ツ柳隆夫・青村和夫
- 1B09. 接触脱硫反応(18)金属リン酸塩触媒による2-プロパンチオールの脱硫化水素反応(北大工・北見工大)○杉岡正敏・多田旭男・青村和夫
- 1B10. 接触脱硫反応(19)アルカリ金属ゼオライト触媒によるエタンチオールの脱硫化水素反応(北大工)杉岡正敏○宮丸邦夫・青村和夫
- 1B11. 接触脱硫反応(20)種々の固体触媒上での脂肪族チオールの脱硫化水素反応と脂肪族アルコールの脱水反応との比較(北大工)杉岡正敏○宮丸邦夫・青村和夫
- 1B12. 接触脱硫反応(22)金属イオン交換Y型ゼオライト触媒によるチオフェンの水素化分解(北大工)杉岡正敏○羽田裕・青村和夫
- 1B13. 高濃度の第一鉄イオンの空気酸化速度(北大工)田村紘基○高橋謙一・永山政一
- 1B14. シュウ酸化生成皮膜の熱水処理反応(北大工)高橋英明○甲田満・永山政一

第2日(1日)

A会場

—(10時から)—

- 2A01. 過マンガン酸カリウムによるテラル(IV)の温度滴定(北大理・北大教大岩見沢)吉田仁志○藤川秀人・多賀光彦・養目清一郎
- 2A02. イオン電極を用いる亜鉛の電位差滴定(北大理)多賀光彦○水口正美・吉田仁志・養目清一郎
- 2A03. ヨウ化物イオン電極によるバナジウムの接触分析(北大理)○片岡正光・神原富民
- 2A04. ライネッケ塩のポーログラフイー(北大理)○森均・神原富民・長谷部清
- 2A05. ポーログラフ法による溶存酸素と一酸化炭素の同時定量(北大医)○錫谷徹・腹内善悟
- 2A06. Fe(III)型イオン交換樹脂と β -シケトンとの反応(北大理)大関邦夫○池内まゆみ・神原富民
- 2A07. 気相成長による酸化物針状結晶中の酸素の14MeV中性子放射化分析(北開試・北大工・名工大)○吉田諒一・長谷川義久・松下徹・山井巖・小平敏平・斎藤準二
- 2A08. 二成分系の放射線分解における動力学的取扱いに関する一考察(北大工)○片山明石・C.N. Trumbore
- 2A09. 放射線・光により生成したベンジルススペクトルの比較(北大工・阪大産研)○清水昌明・入江正浩・吉田宏

特別講演

—(13時30分から)—

1. 天然水中微量成分の分析の信頼度(東大理)浜口博
2. 新しい廃水処理法(栗田工業総研)加藤健司
- (15時30分から)—
- 2A10. 過塩素酸鉄(II)溶液の酸化による $\text{Fe(II)}_1\text{-Fe(III)}_3$ 緑色錯体の生成(室蘭工大・東北大工・金研)○三沢俊平・末高治・橋本功二・下平三郎
- 2A11. 中性硫酸鉄(II)溶液の空気酸化による $\text{Fe(II)}_1\text{-Fe(III)}_3$ 緑色錯体の生成とgreen rust IIの組成(室蘭工大・東北大金研)○三沢俊平・橋本功二・下平三郎
- 2A12. γ -オキシ水酸化鉄の構造と化学反応性の変化に対する試料の焼成効果(北大工)○後藤寛夫・大橋弘士・広原邦彦・諸住高
- 2A13. Alアノード酸化皮膜の水の吸着量測定(北大工)○松村早苗・長阪道雄・山科俊郎

B会場

—(10時から)—

- 2B01. Acetobacter Xylinumによるセルロースの生合成ならびにその微細構造(4) Bacterial Cellulose膜の面配向挙動(北大工)○蔦泰志・高井光男・林治助
- 2B02. スクレオシド塩基部の二価イオン選択性(北大工)○下川繁三・横野哲朗
- 2B03. クロロアセトニトリルの反応(II)スルフィドおよびカルボニル化合物との反応(北大工)○佐藤栄二・千葉俊郎・高田善之
- 2B04. ジャービンよりテストステロン合成の試み(北大理)○竹田雅美・村井章夫・正宗直
- 2B05. α, β -不飽和エステルのマススペクトル(北大工)○繁井哲郎・徳田昌生・伊藤光臣
- 2B06. オルガノボランの化学(41)酸素存在下オルガノボランの水素引き抜き反応(北大工)○中谷洋二・宮浦憲夫・伊藤光臣・鈴木章
- 2B07. オルガノボランの化学(43)トリアルキルボランの陽極酸化反応(4)グラファイト極を用いたジエチルアミンの添加効果(北大工)○佐藤昌平・田口透・伊藤光臣・鈴木章
- 2B08. オルガノボランの化学(42)メチルシクロプロベニルリチウムとオルガノボランとの反応(北大工)○田上博康・宮浦憲夫・伊藤光臣・鈴木章

—(15時30分から)—

- 2B10. TCNQ金属塩のイオン化ポテンシャル(北大理)○田沼良平・相原惇一・松永義夫
- 2B11. リチウム-メチルアミン系の熱力学的性質(北大理)○中村義男・堀江寛・下地光雄
- 2B12. S, Se, Teの金属溶液(北大理)○前川尚・横川敏雄
- 2B13. BeF_3 ガラスの結晶化速度(北大理)○田村誠一・横川敏雄
- 参加登録料 500円(講演要旨集を含む)、学生200円(要旨集は含まず)
- 懇親会 2月1日(金)18時から(会費2,500円、会場未定)
- 連絡先 061-01 札幌市豊平区東月寒41-2 北海道工業開発試験所内 原口謙策(電話(011)851-0151, 内線251)

北海道支部 1974年夏季研究発表会

共催 日本化学会・日本分析化学会各北海道支部

日 時 7月25日(木), 26日(金)

会 場 北見工業大学(090北見市公園町165)

(講演12分, 討論2分)

7月25日

A会場 (9時から)

- A01. イオン交換樹脂のガスクロマトグラフィーへの応用(北大理) ○大関邦夫・前田 章・神原富民
A02. 銅(II)-ジソコンキレート陰イオンのセフィラミンによる抽出を利用する水中の微量銅の定量(北大理) ○菅原正雄・小沢幸男・神原富民
A03. イオン電極による銅とカドミウムの分別滴定(北大理) 多賀光彦○水口正美・吉田仁志・養目清一郎
A04. ヨウ化物イオン電極によるモリブデン(VI)の接触分析(北大理) ○片岡正光・神原富民
A05. イオン性界面活性剤選択性電極の試作(北大理) ○片岡正光・神原富民
A06. キレート交換-溶出波ポーログラフ法によるカルシウムの間接定量(富山大教育) 原 稔
A07. 水銀の溶媒抽出吸光度定量(北大理) 長谷部清○島崎昭・神原富民
A08. 溶媒抽出-吸光度法によるビスマスの定量(北大理) ○長谷部清・多賀光彦・神原富民
A09. 1-フェニル-3-メチル-4-カプリルピラゾロン-5 を用いる鉄の抽出吸光度定量(明星大理工) 河村文一○赤間美文
A10. 原子吸光分析における光干渉とその補正方法(東大物性研) ○大道寺英弘・田村正平
A11. 原子吸光法による人体組織・体液中の鉄・銅の定量(北大医) 錫谷 徹
A12. けい光X線による塗料中のPbの定量(埼玉衛研化学部) 木村一宏

(15時30分から)

- A13. 無加川の水銀(北見工大) 佐々木満雄・岡 宏○井上貞信
A14. 建設中の新潟東港地域における硫酸化物の地表濃度の経年変化の特色(聖ろう村) ○真島美智雄・平野力太郎
A15. プロモ亜鉛錯体によるメルカプタンの液液抽出反応(北大工) ○四ツ柳隆夫・藤井英嗣・上館民夫・青村和夫
A16. ポリアミンコバルト(II)錯体と塩化ベンジルの反応(北見工大) 見陣章彦
A17. 各種の硫酸塩の水和数(新潟工大) 真島美智雄○高瀬孝雄
A18. 水および水-メチルアルコール混合溶液におけるリチウム塩の溶解熱(新潟工大) ○高瀬孝雄・真島美智雄
A19. アルギン酸ナトリウム水溶液の流動特性(2)(函館高専) ○大場允雄・長尾輝夫・鈴木 昇

B会場 (9時から)

- B01. 石炭の段階的高圧水素処理(1) 無触媒の場合(北開試・北大工) ○吉田諒一・前河涌典・武谷 愿
B02. 石炭を原料とする活性炭の製造-減圧下における賦活(北見工大) ○山田哲夫・本間恒行
B03. 泥炭フミン酸とアンモニアの反応(北見工大) ○岡 宏・井上貞信・佐々木満雄
B04. 活性炭による亜硫酸ガス・アンモニア・アミンの同時除去(北工試) 荒木邦夫・本間重司○尾谷 賢
B05. 高温水と反応系による固形産業廃棄物処理(1)(室蘭工大) 城本義光・島田浩次・花田 保・大道成文
B06. 熱可塑性樹脂(PE, PP, PS)の射出成型における成型条件と実用特性(北工試) 藤島勝美○金野克美・田畑恒夫・松村信良・長尾信一・伊藤国次郎
B07. アスファルトのブローイング(北開試) 田中 俊
B08. 高圧下における炭素の黒鉛化過程(北大工) 松下 徹○小平敏平・田淵千裕
B09. 高温高圧下におけるフッ素雲母の合成(北大工) 松下 徹○岩崎雄四郎・小平敏平・綱島 群

- B10. 気相法によるSnO₂針状結晶の成長(北大工) 松下 徹○片岡春樹・小平敏平・綱島 群
B11. Y-Fe 系酸化物薄膜の作成(北大工) 松下 徹○浅井敏信・綱島 群・小平敏平
B12. Zn₂SnO₄焼結体(北大工) 松下 徹○島田志郎・小平敏平・荒川潤一

(15時30分から)

- B13. SO₂+MgSO₄二成分蒸解(4) 針葉樹の蒸解条件の検討(北大工) ○鈴木 勉・戸坂園夫・林 治助
B14. SO₂+MgSO₄二成分蒸解(5) 蒸解機構(北大工) ○鈴木 勉・戸坂園夫・林 治助
B15. 工程解析における測定誤差の影響(1)(室蘭工大) ○金塚高次・加納久雄
B16. 工程解析における測定誤差の影響(2)(室蘭工大) ○金塚高次・加納久雄
B17. ポリエチレンのガス化分解(1)(室蘭工大) ○吉田 忠・菫満明己・加納久雄
B18. アクロレインの液相酸化(室蘭工大) ○武者一宏・北野邦尋・竹内隆男
B19. ナフタレンの重縮合によるアスファルテン類似物質の合成(4) レジン・アスファルテンの収率と性状(北大工) ○真壁正孝・伊藤博徳・武谷 愿
B20. 芳香族および脂肪族炭化水素のゲルパーミエーションクロマトグラフィーに関する基礎的研究(北大工) ○伊藤博徳・羽島智紀・横山 晋・武谷 愿
B21. セルロースのマーセル化反応における分子鎖形態の転位(苫小牧高専, 北大工) ○木村規矩也・林 治助

C会場 (9時から)

- C01. オルガノボランから有機セレン化合物の合成(北見工大) 増田 悠
C02. オルガノボランの化学(47) オルガノボランとイソプロペニルリチウムの反応-鎖状・環状モノテルペノイド合成への応用(北大工) ○宮浦 憲夫・田上博康・伊藤光臣・鈴木章
C03. オルガノボランの化学(48) ベンゾニトリル・フェニルリチウムとオルガノボランから得られる錯体とハロゲンとの反応(北大工) ○山川雅裕・本田英克・田畑昌祥・鈴木 章
C04. 超強酸系下でのパラフィンのカルボキシル化反応(1)(北大工) ○高橋行雄・富田 宜・米田徳彦・鈴木 章
C05. BF₃-H₂O-Ag⁺カルボニル系によるオレフィンのカルボキシル化反応(北大工) ○福原 強・高橋行雄・米田徳彦・鈴木 章
C06. 固体酸を触媒とする2-ピネンの異性化反応(北大触研) 大西隆一郎
C07. O-メタアリアルフェニルアクリレートの有機アルミニウム化合物存在下での環化重合(北大工) ○駒ヶ嶺良樹・横田和明・高田善之
C08. O-ニトロ化合物の異常反応-2-ニトロ・フェニル・メチル・カルビノールとヨウ化水素の反応(北大工) ○田中良典・高田善之
C09. O-ニトロ化合物の異常反応, 2-ニトロ・ジフェニル・カルビノールと臭化水素の反応(北大工) ○田中良典・高田善之
C10. シクロプロパン誘導体と電子吸引性オレフィンとの熱反応, 2σ+2π および 2σ+4π 環化付加反応(北大理) ○清水宣次郎・西田進也
C11. 液体臭素による環状炭化水素の臭素化反応(北大理) 富樫 厚
C12. trishomocubane および etkanonoradamantane の合成(北大理) 大沢映二

C13. ひずんだの結合への水素添加—basketaneより twistane
の一段変換(北大理)大沢沢二

—(15時30分から)—

C14. β -ケトエステル光化学反応(北大工)〇渡辺康之・徳
田昌生・伊藤光臣

C15. ステロイドチオールの hypoidite 反応(北大理)杉野
目浩〇北原晴男・米田利明・正宗 直

C16. 12α , 13α -epoxy- 11α -hydroxy-etiojerv-4-ene-3, 20-
dione の合成(北大理)正宗 直〇笹森浩之・村井章夫

C17. 黒ユリ花ロウ成分(北教大)〇南波 哲・若山誠治

C18. grayanotoxin III から deacyl p-B diethylidene への交
換(阪工大工)廻 治雄・形井雅昭〇寺井忠正

C19. Chlorella の微量成分(1)(阪工大工)〇河合豊治・寺
井忠正・形井雅昭・藤井克弘・廻 治雄

D会場 —(9時から)—

D01. ねじれ振動の励起状態における分子構造・エタン, プロ
パン, 2-フルオロプロパン(北大理)飯島孝夫

D02. 気体電子回折による電荷分布研究と偏極効果(北大理)
小中重弘

D03. 液体ナトリウムにおける原子輸送(北大理)〇北島正弘
・下地光雄

D04. ポリアリールフルベン類のポーラログラフ還元電位に関
する半経験的 SCF 分子軌道法の取り扱い(室蘭工大)〇高
野信弘・竹野 昇・森田隆夫

D05. 亜硝酸を含む水溶液系の挙動(北大工)小林晴夫・遠藤
一夫〇竹沢陽恒・北野邦尋・仁木利則

D06. Al アノード酸化皮膜生成時における皮膜内のイオン移
動と輸率(北大工)高橋英明〇永山政一

D07. ZnO-H₂系の ESR(北大理)〇珍田 充・中田寿子・松
下三三郎

D08. Cr₂O₃ による CO 酸化の反応機構(北大工)〇小林正
義・小林晴夫

D09. La₂O₃ をドープした BaTiO₃ 上での CO の酸化(函館
高専)〇清水 崇・西田 正

D10. 銀触媒に対する助触効果(1)カリウム塩添加効果(室
蘭工大)〇葛蒲明己・上之周馬・加納久雄

D11. セオライトの構造安定性に関する一考察(北大工)〇松
本繁美・新田昌弘・青村和夫

D12. フェノールのアルキル化(3)固体酸塩基を触媒とする
フェノールの気相エチル化(北大工)〇松本宗男・新田昌弘
・青村和夫

D13. 硫化モリブデン触媒によるエチレンの水素添加反応(北
大触研)奥原敏夫・田中慶一・宮原孝四郎

—(15時30分から)—

D14. MgO-P₂O₅ 系の酸塩基性質と触媒作用(北見工大)多田
旭男

D15. TG-DSC による界面熱解析—TiO₂ 表面の吸着水(北大
理・北大教養)〇森重国光・田部浩三・喜多英明

D16. 酸化クロム・シリカアルミナ触媒の重合性点についての
考察(北大工)〇鈴木直人・松尾清隆・米田徳彦・鈴木 章

D17. MgO による n-ブテン異性化反応(北大理)〇嶋津克明
・服部 英・田部浩三

D18. ThO₂ を触媒とするブテンの異性化反応(北大理)〇射
水雄三・山口 力・田部浩三

D19. 活性炭の硫酸処理による触媒担体の製造(室蘭工大)秋
吉 亮・杉田治八郎

D20. 球状物流動層での固液抽出(室蘭工大)高山清英・杉田
治八郎

D21. 半流動層における物質移動(室蘭工大)山口 隆・清水
末治・大谷 卓・秋吉 亮・杉田治八郎

—(13時30分から)

特別講演

1. 昆虫変態ホルモン, エクジゾンめぐるって(50分)(北
低温研)茅野春雄

2. 新しい有機合成化学原料(50分)(北大工)伊藤光臣
参加登録費 700円(予稿集共)

懇親会 25日18時からビッツアークホテル(北見市)で開催,
会費2,000円

エキスカッション 26日下記要領で開催,会費500円(昼食
代を含む)10時出発,網走五湖めぐり(原生花園を含む)16
時ごろ北見で解散

連絡先 060 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部
化学第二学科 木村雅男(電話(011)711-2111, 内線3501)

昭和50年

北海道支部1975年冬季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部
日 時 1月30日(木), 31日(金)

会 場 北海道大学工学部(札幌市北区北13条西8丁目)
(講演は討論を含めて1件あたり15分)

第1日(1月30日)

A会場 —(13時から)—

1A01. 酸化ジルコニウムの表面OH基の挙動(北大理)山口
力〇中野康子・田部浩三

1A02. アルカリ土類金属酸化物によるオレフィンの水素化
(北大理)〇田中康隆・服部 英・田部浩三

1A03. 光照射ZnO上での励起酸素種の生成(北大触研)〇田
中慶一・宮原孝四郎

1A04. 接触脱硫反応(23)固体触媒上での脂肪族メルカプ
タンの吸着と反応(北大工)杉岡正敏〇鎌中隆義・青村和夫

1A05. アルミニウムのアノード酸化時におけるアノード酸化
皮膜の溶解挙動とPorosityとの関係(北大工)〇甲田 満・
高橋英明・永山政一

1A06. MgO-Cr₂O₃ 系固相反応に対する金属フッ化物の添加
効果(北大工)〇原 幸雄・島田志郎・古市隆三郎・石井忠
雄

1A07. 溶存状態分析法による鉄(III)イオンの加水分解反応
(釧路高専・北大工・富山大文理)〇岩瀬政吉・四ツ柳隆夫・
後藤克巳

1A08. 定電位制御されたフェリシアンイオンによる二酸化ウ
ランの酸化溶解(北大工)〇大橋弘士・五十川哲男・諸住
高

1A09. エリオクロームブラックTに感応するイオン選択性電
極によるキレート滴定(北大理)〇A. R. Rajput・片岡正光
・神原富民

1A10. イオン交換樹脂上のニッケルイオンとテノイルトリフ
ロロアセトンとの反応(北大理)大関邦夫〇田村 徹・神
原富民

1A11. イオン交換樹脂を用いるキレート生成反応とガスクロ
マトグラフィー(北大理)〇岡村 隆・大関邦夫・神原富民

1A12. ガスクロマトグラフィーによる軽水素中HDの迅速高
感度分析(北開試)〇高橋富樹・大越純雄・佐藤俊夫

1A13. 南極スカルプスネス片麻岩のRb-Sr法による年代決
定(室蘭工大)室住正世〇角田博己・白幡浩志・小島尚三

1A14. 空気中微量芳香族化合物の分析方法—とくに捕集効率
(横浜工大)小林義隆・田中曙美

1A15. 鉄鋼中の高ホウ素の定量法の検討(日鋼室蘭研) 鈴木孝範○村井 了

1A16. メッキ液中の鉄および銅の定量法の検討(日鋼室蘭研) 鈴木孝範○阿部弥吉

第2日(1月31日)

A会場 (9時15分から)

2A01. 原子吸光分析におけるアルカリ土類金属の干渉とその利用(北大理) 吉田仁志○林田一良・養目清一郎

2A02. 干渉作用を利用する原子吸光度測定—カルシウムによるチタンの定量(北教大札幌) 那須淑子○古沢恵子

2A03. ヨウ化テトラ-n-ブチルアンモニウムを用いる溶媒抽出—原子吸光分析法によるカドミウムの定量(北大理)○阿部益太郎・神原富民

2A04. 亜鉛—マレオニトリルジチオレート($Zn(MNT)_2^{2-}$)によるコバルトの吸光度定量(北見工大・北大工)○井上貞信・四ツ柳隆夫・佐々木満雄・青村和夫

2A05. ジチゾンによる銅の吸光度定量(室蘭工大) 室住正世・渡辺寛人○三浦潤一郎

2A06. フェロンと第4級アンモニウム塩による鉄イオンの定量(北大工・富山大理) 田村愷基○佐藤泰文・永山政一・後藤克己

2A07. メチルキシレノールブルーとカドミウムイオンとの反応(北教大札幌) 那須淑子○古録幸子・山本裕美子

2A08. ニッケル—PAR 錯体の溶媒抽出反応に関する一考察(北大工)○星野 仁・四ツ柳隆夫・青村和夫

2A09. カドミウム—PAR 錯体の溶媒抽出特性(北大工)○和田幸一・四ツ柳隆夫・青村和夫

2A10. 界面活性剤水溶液中における錯形成速度を利用するニッケル(II)の定量(北開試)○中川孝一・原口謙策・伊藤三郎

2A11. 界面活性剤水溶液中におけるニッケル(II)イオンと2-(2-チアゾリルアゾ)-4-メチルフェノールとの錯形成速度(北開試) 原口謙策・中川孝一○伊藤三郎

(13時から)

2A12. ニッケル(IV)—ジメチルグリオキシム 錯体(北大理)○奥山悦男・長谷部清・神原富民

2A13. ジシコン—ゼフィラミン—ピリジン系のイオン対抽出によるニッケル中のコバルトの定量およびニッケル、コバルトの分離(北大理)○新山和人・神原富民

2A14. 高感度吸光分析試薬に関する一考察(北大工)○伊藤純一・四ツ柳隆夫・青村和夫

2A15. N-2-(2'-ピリジルメチレンアミノ)エチル-N'-2-アミノエチルジチオカルボン酸による銅(II)の吸光度定量(北大理)○伊藤八十男・菅原正雄・神原富民

2A16. 2-ピリジンアルデヒド-2'-ヒドロキシアニルによるニッケル(II)の吸光度定量(北教大札幌)○懸田祐介・高平友子

2A17. 血中—酸化炭素ヘモグロビンの吸光度定量(北大医)○錫谷 徹・山岡あい子

2A18. 温度滴定による金属カルバメートの検討(北大理・北教大岩見沢) 吉田仁志・多賀光彦○鈴木雅明

特別講演(15:00~17:00)

1. シクロプロピル置換エチレンを基質として用いるオレフィンへの付加反応機構の研究法(北大理) 西田進也

2. ギル状有機試薬の分析化学的応用(九大工) 上野景平

B会場 (9時から)

2B01. HF-SbF₅触媒存在下でのパラフィンの反応(2) イソオクタンと—酸化炭素からの C₉-ケトンの合成(北大工)○藤森秀信・高橋行雄・富田 宣・米田徳彦・鈴木 章

2B02. リシチンの合成(北大理) 高杉光雄○竹鶴可文・中原

雄二・正宗 直
2B03. α-スルホ脂肪酸誘導体の性質(中央大理工)○小串照宗・石和田義光・石黒鉄郎

2B04. ベンゾグアナミンと無水フタル酸との反応(北大工)○高田善之・丹 一夫・横田和明

2B05. アルカリ金属による芳香族エーテル類の開裂反応(北大工)○安藤俊春・吉田重雄・宮浦憲夫・伊藤光臣

2B06. エステルエノレートの電極反応(北大工)○繁井哲郎・徳田昌生・伊藤光臣

2B07. 電極反応によるヨウ化アセチレンの生成反応(北大工)○西尾 修・田口 透・徳田昌生・伊藤光臣

2B08. オルガノボランの化学(51) オルガノボランとジリチウムアセチリドから得られる錯体と臭化シアンとの反応(北大工)○安孫子繁雄・宮浦憲夫・伊藤光臣・鈴木 章

2B09. BF₃触媒によるセルロースの酸化反応(北大工)○兼松哲夫・林 治助・渡辺貞良

2B10. Bacterial Cellulose Microfibril の生長末端の形態とその重合および結晶化機構との関連(北大工)○高井光男・林 治助

2B11. アルカリ酸素漂白におけるプロテクターの保護機構(2)(北大工)○山田紹良・戸坂園夫・林 治助

2B12. SO₂+MgSO₄二成分蒸解(6) 蒸解機構(2)(北大工)○鈴木 勉・戸坂園夫・林 治助

(13時から)

2B13. アントアントレンおよびジナフチレンジオキシドの陽イオンラジカルの電子スピン共鳴吸収スペクトル(北大理) 池上宏一・長船和光・大沢映二○松永義夫

2B14. 2-arylydene-1,3-indanedione類の多形(北大理)○千葉和彦・相原惇一・松永義夫

2B15. ベンゼンの分子構造—電子線回折と分光法による解析(北大理)○玉川孝一・木村雅男

2B16. クロロメタンの分子構造(北大理)○国見 均・木村雅男

2B17. 電子回折および電子顕微鏡による結晶毒素(ボツリヌスC型)の構造(北大工・北大医・北大獣医)○高井光男・林 治助・塩野 裕・飯田広夫・首藤文栄

2B18. DMSO中におけるTCNEの熱イオン化(北大工)○榊引信男・吉田 宏

2B19. クロラニルの光還元反応(北大工)○神原芳彦・吉田宏

参加登録費 一般1,000円, 学生500円(講演要旨集を含む)

懇親会 1月31日(金) 石狩会館で, 会費3,000円。

連絡先 060 札幌市北区北19条西12丁目 北海道立衛生研究所内 日本分析化学会北海道支部 大山 徹(電話(011) 742-2211)

北海道支部 1975 年夏季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部・日本分析化学会北海道支部ほか

日 時 7月26日(土)

会 場 苫小牧市民会館(苫小牧市旭町3丁目2-2, 電話(0144) 33-7191)

[交通] 苫小牧駅より徒歩10分, タクシー220円

(講演は1件当り討論を含めて15分)

A会場 (9時から)

A01. 亜硝酸の分解反応(北大工) 小林晴夫○竹沢暢恒・仁木利則・原 一樹

A02. Bi-Mo触媒によるプロピレンの酸化反応(北大工) 小林正義○二谷竜治・小林晴夫

A03. 固体触媒による環状エポキシの異性化(北教大函館・北大理)○荒田一志・田部浩三

- A04. 繊維状アルミナを触媒とするフェノールのアルキル化反応(北大理)○高橋 収・服部 英・田部浩三
- A05. プロピレンの接触酸化—ハロゲン化物による銀触媒の修飾(室蘭工大)山本哲夫○加納久雄・金塚高次・葛浦明己
- A06. 銀触媒によるCO酸化反応時のO₂とCO₂吸着(室蘭工大)○葛浦明己・柴前田茂・加納久雄
- A07. 銀触媒に対する助触効果(2) Na および K 塩添加効果(室蘭工大)葛浦明己・中川勝雄○長谷川盛一・加納久雄
- A08. ポリエチレンのガス化分解(3) 固定床流通反応器によるCaX 上のガス化分解(室蘭工大)葛浦明己○吉田 忠・加納久雄
- A09. 硫黄処理触媒(1) カドミウムY型ゼオライト触媒によるクメン接触分解に対する硫化水素の処理効果(北工大)杉岡正敏○細坪富守・青村和夫
- A10. 接触脱硫反応(24) ゼオライト触媒に吸着したエチルメルカプタンのIR スペクトル(北工大)杉岡正敏○鎌中隆義・青村和夫
- A11. ジチオレン錯体によるメルカプタンの液相自動酸化(北工大)○四ツ柳隆夫・大野英人・青村和夫
- A12. マンガンノジュール存在下におけるアスファルトの分解(北工大・東海大札幌)○松尾清隆・新田昌弘・青村和夫・石井次郎・松本勝時
- A13. ジメチルグリオキシム—コバルト錯体とニトロベンゼンの反応(北見工大)○新井義夫・見陣章彦・伊藤竜一
- A14. n-ブテン異性化反応に対する金属リ酸塩の触媒活性・選択性(北見工大)多田旭男○伊藤英信
(15時 15分より)
- A15. 液膜型イオン選択性電極の感度と選択性(北大薬)○加茂直樹・朽本紀夫・小島陽之助
- A16. 銅電極上へのピロリン酸イオンの吸着(北工大)○金野英隆・永山政一
- A17. 白金電極上の吸着水素におよぼす不純物の影響(室蘭工大)○富士川計吉・田中裕敏
- A18. アルミニウムのバリアー型アノード酸化皮膜の生成時におけるleakage current(北工大)○高橋英明・氏家 徹・西平大介・永山政一
- A19. 液状絹タンパクのC-13 NMR(北工大)下川繁三
- A20. α-スルホ脂肪酸誘導体の性質(4)(中央大理工)○小串照宗・石和田義光・石黒鉄郎
- A21. 分子の衝突によって生ずる遠赤外吸収スペクトル(北大理)○木村雅男・佐藤公博・大久保優晴・藤原謙二・井川駿一
- A22. 吸着種赤外スペクトルの解析へのモノ同位元素置換体の利用(北開試)日野雅夫
- B会場** (9時から)
- B01. 鉱山廃石より軽量骨材の製造(道工試)○高田忠彦・菊地博男
- B02. ポリマー含浸粘土素地焼成体の諸性質(道工試)○平野徹・丸山敏彦・佐藤勝信
- B03. イオン交換したモルデン沸石によるガス吸着分離(東北工試)堀田正己○鳥居一雄・浅賀 賢
- B04. Nb₂O₅-Al₂O₃系の固相反応(新潟工大)○堀田憲康・松尾重友・大関英明
- B05. Al₂O₃-CaO-Y₂O₃-BeO系封着剤特性におよぼすY₂O₃およびBeO成分の影響(新潟工大)松尾重友○堀田憲康・中西治次
- B06. Al₂O₃-TiO₂二成分系のホットプレス焼結(新潟工大)松尾重友○石丸直樹・堀田憲康
- B07. CoSO₄-Al₂O₃系固相反応によるCoAl₂O₄の生成とSO₂に対する反応性(北工大)○松里広昭・奥谷 猛・古市隆三郎・石井忠雄
- B08. AlCl₃·6H₂OおよびAl₂O(CH₃COO)₃·xH₂Oの熱分解反応と生成アルミナの反応性(北工大)○土田 猛・栗林秀行・古市隆三郎・石井忠雄
- B09. ポーキサイトの塩素化反応(北工大)○工藤和彦・古市隆三郎・石井忠雄
- B10. 石炭の黒鉛化に対する前処理の影響(北工大)松下 徹○寺本信一・小川正章・小平敏平
- B11. フッ素金銀母系ガラスセラミックスに関する研究(北工大)松下 徹○白鳥昌之・網島 群・小平敏平
- B12. 酸化スズおよびスズ酸塩単結晶合成に対するフラックスの選択(北工大)○島田志郎・小平敏平・松下 徹
- B13. 気相法によるZn₂GeO₄単結晶の生成過程(北工大)○伊藤 滋・小平敏平・松下 徹
- B14. 粉体-液体系の加工特性(2) 粘土-ワセリン系の押し出し特性(東北工大)○磯田武信・梅屋 薫
- B15. 粉体-液体系の加工特性(3) 粘土-ワセリン系押し出し成形体の動的振り特性(東北工大)○磯田武信・梅屋 薫
- B16. 溶媒抽出-溶出波ポラログラフ法による銅の定量(富山大教育)○原 稔・堀田 隆
- B17. 2-ブロムピロカテコール(1-アゾ-1')-ベンゼン-4'-スルホン酸ナトリウム(BPAS)を用いるガリウム(III)の溶媒抽出吸光度定量(八戸高専)若松義信
- B18. 界面活性剤共存下における鉄イオンとフェロンの反応(北工大・富山大文理)○佐藤泰文・田村紘基・永山政一・後藤克己
- B19. 電導度測定によるカドミウム・オルトフェナントロリン・ヨウ素錯体の検討(北大教養)吉田仁志○林田一郎・多賀光彦・養目清一郎
- B20. メチレンブルーを交換基とした液膜型過塩素酸イオン選択性電極(北大理)○片岡正光・神原富民
- B21. 陽イオン交換樹脂と陰イオン交換樹脂の凝集(北大理)大関邦夫
- B22. 低温灰化法と高温灰化法の比較(北大医)錫谷 徹
- B23. 原子吸光法による水銀の定量法(室蘭工大)室住正世○吉田由利子
- B24. 銅の表面電離質量分析法(2)ローディングフォーム(室蘭工大)室住正世○伊藤好二
- C会場** (9時から)
- C01. グリニヤール試薬と二酸化セレンの反応によるジアルキルセレンの合成(北見工大)○増田 弦・荒瀬 晃
- C02. オルガノボランの化学(55) 電極反応を利用したオルガノボランによるフェニル酢酸エチルのアルキル化反応(北工大)○高橋 譲・徳田昌生・伊藤光臣・鈴木 章
- C03. オルガノボランの化学(56) 鉄塩存在下におけるアジ化ナトリウムとオルガノボランとの反応によるアルキルアジドの簡便合成法(北工大)○石戸谷昌洋・田畑昌祥・鈴木 章
- C04. トリベンジルボランおよびアンモニア錯体の光化学反応(北工大)○Vo Van Chung・稲垣和彦・徳田昌生・伊藤光臣
- C05. α-チオメチレンケトン類の塩化第II銅存在下における水素化ホウ素ナトリウムによる還元(福井教育大)○目 不二雄・細川耕一
- C06. 1,1,2,2-テトラシクロプロピルエタノールのI₂-DMSO中における熱反応(北大理)西田進也○片岡文雄
- C07. ジスピロ[2.2.2.2]デカ-4,9-ジエンとパラキシリレン誘導体の環化付加反応(北大理)辻 孝○神貫 豊・西田進也
- C08. 3-Methylacenaphthenone へのLeuckart反応の試み(愛知工大)立木次郎・奥村重雄
- C09. チオシアン酸アンモニウムを用いる合成反応(2) 1,2,

- 4-ジチアゾール誘導体の合成(小山高専・理研・昭和女子大)
神戸 哲○齋藤光司・高昌晨晴・林 俊雄・緑川 汎
- C10. トルエン- α , α' -ジアミン-N, N'-ジベンジリデン類を用いる合成反応(2)ピペリドン誘導体の合成(小山高専・理研・昭和女子大) 神戸 哲○高昌晨晴・齋藤光司・林 俊雄・桜井昭雄・緑川 汎
- C11. *t*-3-bromo-*r*-2, c-8-diethyl-3, 4, 7, 8-tetrahydro-2 H-oxocinの合成(北大理) 正宗 直・松江 一○村瀬 久
- C12. 17-acetyletiojervenenesのエナミンの光酸化反応(北大理) 村井章夫・佐藤千鶴子○笹森浩之・正宗 直
- C13. 新しいグラヤノイドの構造(北大理) 賀佐伸省・池田隆三○松本 敏
- C14. 縮合五員環アルコール亜硝酸エステルの光転位によるヒドロキサム酸生成(北大理) 杉野目浩○米倉範久・正宗 直
—(15時 15分から)—
- C15. セオライト岩による悪臭成分の酸化分解除去(道工試) ○本田重司・荒木邦夫
- C16. 水産加工排水の活性白土吸着-カゾオエキスの吸着(三菱電機応研) 前田満雄○小沢建樹・追川宏之・桑田貴平
- C17. 活性炭による亜硫酸ガス・アンモニア・アミンの同時除去(道工試) ○尾谷 賢・本田重司・荒木邦夫
- C18. 二酸化硫黄の吸着における総括物質移動係数の解析(愛知工大) 大矢公彦・杉本立央・鶴泉彰憲
- C19. 工程解析における測定誤差の影響(3)(室蘭工大) ○金塚高次・別当桂子・加納久雄
- C20. 泥炭フミン酸の亜鉛末蒸留に関する検討(北見工大) ○岡 宏・井上貞信・佐々木満雄
- C21. HF-BF₃触媒によるフェノールとアルキルベンゼンのトランスアルキル化反応(北大工) ○田尻千尋・高橋行雄・富田 宣・米田徳彦・鈴木 章
- C22. 不飽和ポリエステル熱分解(室蘭工大・北開試) 加納久雄・千野啓伸○森田幹雄・広沢邦男・三井茂夫
- C23. 糖アルコールの熱分解(中央大理工) 田中義泰・宮崎 信・中村 正
—(13時 15分から)—

特別講演

1. 苫小牧市の環境(苫小牧市役所) 渡辺有治
 2. けい光測定の最近の進歩と応用(北大電研) 馬場宏明
- 参加登録費 一般: 1,200 円, 学生: 600 円(講演予稿集代を含む)
- 懇親会 18時から苫小牧市民会館で開催。会費: 3,000 円
- 連絡先 060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学工学部 工業分析化学第一講座 永山政一(電話(011) 711-2111, 内線 6739, 6740)

昭和 51 年

北海道支部 1976 年冬季研究発表会

共催 日本化学会・日本分析化学会各北海道支部

日 時 1月29日(木), 30日(金)

会 場 北海道大学工学部(札幌市北区北13条西8丁目)

(講演は討論を含めて1件15分)

第1日(1月29日)

A会場 —(13時から)—

- 1A01. 第一鉄の空気酸化反応に対する含水酸化鉄の触媒作用(北大工) ○高橋謙一・田村絃基・永山政一
- 1A02. アルミナウイスキーの生成とその性状(北開試) ○植田芳信・鈴木良和

- 1A03. FeS-HCl-H₂O系反応とその利用(北大工) 芝山良二
○中島和夫・田中時昭
- 1A04. 低融点金属による硫化水素の熱分解(北大工) 木内弘道○岩崎徹夫・田中時昭
- 1A05. ESCA測定上の問題点: チャージシフト(北開試) ○矢部勝昌・神力就子・高橋義人
- 1A06. 北大 45MeV 直線加速器による放射化分析(北大工) ○成田英夫・大橋弘士・諸住 高
- 1A07. 青銅試料中の鉛同位体比測定(室蘭工大) 室住正世○日向 誠
- 1A08. ガスクロマトグラフィーによる重水素高感度迅速分析法—標準試料と検量線作成上の問題点(北開試) ○大越純雄・高橋富樹・佐藤俊夫
- 1A09. 銀滴定による水中のシアンイオンの分析(北大工) ○西谷 望・金野英隆・永山政一
- 1A10. イオン電極による Mn(II) の電位差滴定(北大理) 多賀光彦○水口正美・吉田仁志・養目清一郎
- 1A11. オルトフェナントロリンによる二, 三の金属の温度滴定(北大理・北教大岩見沢) 吉田仁志○河野藤子・多賀光彦・養目清一郎
- 1A12. カドミウム三元錯体を利用する電導度滴定(北大理)

吉田仁志○林田一良・多賀光彦・養目清一郎

B会場 —(13時から)—

- 1B01. 二つの新規なコゴ型化合物—4, 5-Diaza-hexacyclo[6, 4, 1, 0^{2,7}, 0^{3,11}, 0^{8,10}, 0^{9,12}]-trideca-4-ene と Pentacyclo[8, 6, 0, 0^{1,5}, 0^{2,9}, 0^{6,11}] hexadeca-3, 7, 13, 15-tetraene—の合成と分子構造(北大理) 大沢映二
- 1B02. 2-置換イミダゾリンの合成法の改良(北大工) ○小室恒二・横田和明・高田善之
- 1B03. ω -アセチルアミノカブロン酸のゴルベ電解(北大工) ○小林雄司・高田善之
- 1B04. アルコール中, トリアルキルボランの光化学反応(北大工) ○VoVan Chung・稲垣和彦・徳田昌生・伊藤光臣
- 1B05. BF₃ 錯体によるセルロールのエステル化(北大工) 林治助・兼松哲夫○高久志志
- 1B06. SO₂+MgSO₄ 二成分蒸解—蒸解反応の速度論的研究(北大工) ○鈴木 勉・戸坂因夫・林 治助
- 1B07. セルロースの非水溶液から再生されたセルロースの新結晶変態(北大工) 林 治助○大館尚之
- 1B08. コバルトフタロシアニン—窒素同構体の四級塩化(日大生産工) ○芝宮福松・横手正夫・清水史彦
- 1B09. アスファルトのブローイング(北開試) 田中 俊
- 1B10. けい光X線のケミカルシフトによる硫化物, セレン化合物の研究(北大理) ○菊地二郎・福田倫之・前川 尚・横川 敏
- 1B11. ESRによるキノン光還元反応中間体(北大工) ○神原芳彦・吉田 宏
- 1B12. エチレンジアミン—ベンゾキノン系の電荷移動現象(北見工大) ○新井義夫・見陣章彦・斉藤 博・本間昭昭
- 1B13. ラビッドスキュン赤外分光法による爆発反応中の赤外発光スペクトル(北大工) ○近藤賢計・田中正子・沢村貞史・坂本三郎・片山明石

第2日(1月30日)

A会場 —(10時から)—

- 2A01. イオン交換樹脂上のコバルトイオンとテノイルトリフルオロアセトンとの反応(北大理) ○田村 徹・大関邦夫・神原富民
- 2A02. メチルチモールブルー—陽極波の交流ポーラログラフィー—(北大理) ○A. R. Rajput・菅原正雄・神原富民
- 2A03. 死体血分析に関するひとつの問題点—血中諸成分間における分析物質の分布率(北大医) ○錫谷 徹・遠藤雅夫

- 2A04. アプトメトリーを利用する硫黄の定量 (芝浦工大) 高橋満三・田中親房・西山 純・石上克夫・下田 誠
 2A05. セフィラミンを用いる各種アニオンのイオン会合抽出平衡 (北大工) ○星野 仁・四ツ柳隆夫・青村和夫
 2A06. α -PAN-4-スルホン酸-ニッケル錯体のイオン会合抽出 (北大工) ○和田幸一・四ツ柳隆夫・青村和夫
 2A07. ———中 止———

2A08. イオン対抽出による水銀 (II) の吸光光度定量 (北大理) ○島崎 昭・菅原正雄・神原富民
 —(13時から)—

2A09. 2-(2-チアゾリルアゾ)-5-ジメチルアミノフェノールによるニッケルの吸光光度定量 (室蘭工大) 室住正世・渡辺寛人○石井秀樹
 2A10. 界面活性剤水溶液中における配位子置換反応 (2) 界面活性剤による反応速度の違い (北開試) ○原口謙策・伊藤三郎

2A11. 錯体生成反応速度に対する界面活性剤の影響 (北開試) ○伊藤三郎・原口謙策

2A12. ジンコン-過酸化水素系におけるマンガン接触反応 (北大理) 菅原正雄○佐藤友有子・神原富民

2A13. ヨウ素酸カルシウムを用いるリン酸イオンの吸光光度定量 (北海道大札幌) 那須淑子○鹿島よしえ・八田秀子

2A14. 分析試薬としてのジチオシュウ酸の検討 (北大工) ○松永英之・四ツ柳隆夫・青村和夫

2A15. シッフ塩基による金属の微量定量法 (2) ビス-サリチルアルデヒド- α -フェニレンジイミンによる銅 (II) の溶媒抽出吸光光度定量法 (北海道大札幌) ○懸田祐介・佐藤裕之・神保敏雄

特別講演 —(15時から)—

1. 有機化合物の質量分析法の最近の進歩 (60 分) (東工試) 土屋利一

2. 接触反応の非定常解析 (60 分) (北大工) 小林晴夫
 B会場 —(10時から)—

2B01. $\text{Na}_2\text{O-SiO}_2$ 混合融体の活量の測定 (北大理) ○佐藤明雄・佐藤正和・横川敏雄

2B02. 二硫化モリブデン触媒によるオレフィン水素化反応での d_2 付加体の選択生成 (北大触研) ○奥原敏夫・田中慶一・宮原孝四郎

2B03. イリジウム表面でのギ酸の昇温分解脱離 (北大工) ○野呂雅仁・渡辺国昭・山科俊郎

2B04. 反応性スパッタリングにより作成した窒化鉄膜中の窒素の反応性 (北大工) ○小林義広・広畑優子・渡辺国昭・山科俊郎

2B05. 酸化ランタンの触媒作用に及ぼす γ 線照射効果 (北大工) ○尾崎絵一・毛利 衛・山科俊郎

2B06. アルミニウムにおける水素電極反応 (北大理・北海道大札幌) 喜多英明○菅原昌俊・難波 哲

2B07. 白金電極におけるエチレン誘導体の電解還元 (北大理・室蘭工大・北海道大札幌) 喜多英明・中村隆彦○樋口澄生・若山誠治

2B08. 白金電極上のビスマスの吸着 (室蘭工大) ○富士川計吉・北向一博・栗林 宏
 —(13時から)—

2B09. アルカリ土類金属酸化物の触媒作用— O_2 による選択的被毒 (北大理) ○佐藤晶子・服部 英・田部浩三

2B10. $\text{TiO}_2\text{-P}_2\text{O}_5$ 系の酸性と触媒作用 (北見工大) 多田旭男○伊藤英信

2B11. マンガン・ノジュールの有効利用 (3) マンガン・ノジュールによるプロパノールの分解 (北大工) ○松尾清隆・新田昌弘・青村和夫

2B12. マンガン・ノジュールの有効利用 (4) マンガン・ノジュールによるフェノールのアルキル化反応およびヘキセンの水素化反応 (北大工) ○小野寺誠・新田昌弘・松尾清隆・青村和夫

2B13. Cu(II) - α -フェナントロリン錯体によるメルカプタンの液相自動酸化反応 (北見工大・北大工) ○見陣章彦・四ツ柳隆夫・青村和夫

2B14. アルミナ触媒によるジエチルスルフィドの接触分解反応 (北大工) ○鎌中隆義・杉岡正敏・青村和夫

2B15. 酸化クロム触媒による CO 酸化反応の速度論的研究 (北大工) ○小林正義・小林晴夫

参加登録料 一般: 1,200円, 学生: 600円, 講演要旨集を含む懇親会 1月30日(金) 会場: ホテルアカシヤ, 会費 3,500円
 連絡先 060-01 札幌市豊平区東月寒 41 の 2 北海道工業開発試験所内 1976年冬季研究発表会係 原口謙策 (電話 (011) 851-0151)

北海道支部 1976 年夏季研究発表会

共催 日本化学会・日本分析化学会各北海道支部

日 時 7月19日(月)

会 場 北見工業大学 (北見市公園町165, 電話 (0157) 24-7786)

(講演は1件あたり討論を含めて15分)

A会場 —(9時30分から)—

A01. マスフラグメントグラフィーによる血液および尿中からの有機リン剤の検出 (道衛研) ○小川 広・金島弘恭・本間正一

A02. 南極昭和基地における大気中の窒素酸化物濃度 (室蘭工大・千葉工大) ○安孫子勤・鳥居鉄也

A03. 人体組織水分量の分析化学的検討 (北大医) ○錫谷 徹・高畑章子

A04. テトラフ α -ニルボルフィン・トリスルホン酸(TPPS)を用いる超微量カドミウムの吸光光度定量 (北大工・九大工) 四ツ柳隆夫・伊藤純一○五十嵐淑郎・青村和夫

A05. シッフ塩基による金属の微量定量法(V) 2-ピリジンアルデヒド-2'-ハイドロオキアニルによるコバルト(II)の吸光光度定量法 (北教大札幌) 懸田祐介

A06. 液膜型ピロカテコールバイオレットイオン選択性電極の作製とそのキレート滴定への応用 (北大理) ○片岡正光・塚本美津子・神原富民

A07. 銅イオン電極の示す電位に対する一考察 (北大理) 多賀光彦○水口正美・吉田仁志・養目清一郎

A08. アルカリ土類金属の温度滴定 (北大理) 吉田仁志○新井英志・黒江貴志・多賀光彦・養目清一郎

A09. 鉄・ビスムチオールII錯体の抽出挙動 (北大理) 多賀光彦○神 和夫・吉田仁志・養目清一郎

A10. イオン交換樹脂上の Cu(II) と TTA との反応に及ぼすピリジンの効果 (北大理) ○大関邦夫・野沢勝徳・神原富民

A11. ニッケルジチソソ錯体に対する複素環窒素塩基の付加反応—平衡と溶媒効果 (北大工) ○佐藤一晴・星 座・四ツ柳隆夫・青村和夫
 —(13時から)—

A12. 水溶液中におけるリチウムイオンとスクレオチドの相互作用の核磁気緩和 (北大工) ○横野哲朗・相馬純吉・下川繁三

A13. 4-(2-ピリジルアゾ)-レゾルシノールの NMR (北大理) 伊藤 翼○望月 桂・駒沢俊清・藤本昌利

A14. Ni(II) , Co(II) , Zn(II) -Xylenol Orange の反応速度および機構 (北大理) ○山田陸雄・藤本昌利

A15. Cu(II) -Xylenol Orange のサーモクロミズム (北大理) ○中田鐘治・山田陸雄・伊藤 翼・藤本昌利

B会場 ー(9時30分から)ー

- B01. 高速走査赤外分光法による CO+O₂ 反応中の赤外発光スペクトル (北大工) ○田中正子・近藤賀計・高橋嘉一・沢村貞史・坂本三郎・片山明石
- B02. 化合物結晶の生成エネルギーと結合の極性 (北大理) ○前川 尚・横川敏雄
- B03. シリカおよびアルミナヒドロゲルの混練による酸特性ならびに細孔特性変化 (室蘭工大) 向井田健一
- B04. 共ゲル化シリカマグネシアの酸特性一調製条件の検討 (室蘭工大) 向井田健一○小山彰一・渡辺治夫
- B05. プロピレンの水素化反応の素反応速度解析 (北大触研) ○佐藤真理・宮原孝四郎
- B06. モリブデン上でのアルコールの吸着および分解 (北大触研) ○窪田純一・東 克彦
- B07. 金属酸化物を触媒とする二硫化炭素の酸化的加水分解反応 (北大工) ○鎌中隆義・細坪富守・杉岡正敏・青村和夫
- B08. 硫黄処理触媒(2)カドミウムY型ゼオライト触媒による酸触媒反応に対する硫化水素の処理効果 (北大工) ○細坪富守・杉岡正敏・青村和夫
- B09. AES-SIMS 装置による金属表面の酸化膜の組成分布-GaAs (北大工) ○橋場正男・毛利 衛・渡辺国昭・山科俊郎
- B10. Cu-Ni 合金表面のイオン衝撃過程と表面状態の観察 (北大工) ○飯本政男・渡辺国昭・山科俊郎
- B11. オージェ電子分光による Cu-Ni 合金清浄表面の組成と吸着過程の同時測定 (北大工) ○毛利 衛・橋場正男・渡辺国昭・山科俊郎

ー(13時から)ー

- B12. 白金電極へのアンチモンの吸着 (室蘭工大) ○富士川計吉・北向一博
- B13. 鉛を吸着した白金電極によるエチレンおよびアセトンの電解還元 (室蘭工大) ○富士川計吉・石田良一・田中裕敏
- B14. アルミニウムアノード酸化皮膜の構造と溶解特性 (北大工) ○甲田 満・高橋英明・永山政一
- B15. 鉄の不働態酸化皮膜の生成および還元挙動 (Szeged大・北大工) A. Rauscher・金野英隆○永山政一

C会場 ー(9時30分から)ー

- C01. アルカリ-酸素蒸解 (北大工) ○戸坂 罔夫・坂本 淳一・林 治助
- C02. 泥炭フミン酸の硫化ナトリウムによる分解 (北見工大) ○岡 宏・佐々木満雄
- C03. フルベン類の酸化ポーラログラフに関する半経験的 SC-F 分子軌道法の取り扱い (室蘭工大) ○高野信弘・竹野 昇・森田睦夫
- C04. HF-SbF₅ 系超強酸存在下における環状パラフィンのカルボキシル化反応 (北大工) ○酒井幸男・高橋行雄・富田 宣・米田徳彦・鈴木 章
- C05. オルガノボランの化学(64)ジフェニルヨードニウム塩とオルガノボランとの反応一芳香核へのアルキル化 (北大工) ○外山敏樹・本田英克・鈴木 章
- C06. 有機アルミニウム化合物存在下での環化重合における σ -アルキルフェニルアクリレート類の環化重合性に関する考察 (北大工) ○覚知豊次・岩田淳一・横田和明・高田善之
- C07. アスバラガス酸関連化合物の殺線虫活性 (北大理) 高杉光雄○戸田久之・正宗 直
- C08. 7-オキソ-3-ヒドロキシ-デルタ-5-ステロイドの hypoiodite 反応 (北大理) 杉野目浩○米林史博・正宗 直
- C09. モデル化合物によるプロトイールドンからヒルスタンへの転位反応 (北大理) ○早野清治・大船泰史・白浜晴久・松本 毅
- C10. ルイス酸転移によるビスエタノ・ビスノルダイヤモンド

ンC₁₆H₂₀の合成と分子構造 (北大理) ○大沢映二・古崎昭雄・松本 毅

ー(13時から)ー

- C11. 気泡塔による NO₂ の吸収 (北大工) 千葉忠俊○原 一樹・小林晴夫
- C12. 窒素酸化物の湿式吸収 (北大工) ○竹沢鶴恒・仁木利則・小林晴夫
- C13. アクロレイン液相酸化反応における副反応機構 (室蘭工大) ○多田 潤・安田幹司・坂下 仁・武者一宏・竹内隆男
- C14. けい光色素 ANS のリポソームへの吸着 (北大薬) 相内敏弘○加茂直樹・小島陽之助
- 特別講演 (14:20~16:30)
1. 温度滴定とその利用 (北大理) 吉田仁志
 2. バイオセンサー (膜レベルにおける電気化学的過程に関連した) (北大薬) 小島陽之助
- 連絡先 090 北見市公園町 165 北見工業大学工業化学科 佐々木満雄 (電話 (0157) 24-7786, 内 327, 331)

昭和52年

北海道支部 1977年冬季研究発表会

共催 日本化学会・日本分析化学会各北海道支部

日 時 2月2日(水), 3日(木)

会 場 北海道大学工学部 (札幌市北区北13条西8丁目)

(講演は討論を含め1件15分)

第1日(2月2日)

A会場 ー(13時から)ー

- 1A01. 液体臭素による臭素化反応の新しい用法 (北大理) 大沢映二○富樫 厚
- 1A02. アダマンテン二量体とその転移反応に関する分子力学的考察 (北大理) 大沢映二
- 1A03. オルガノボランの化学 (66) オルガノボランの電極反応を利用するビペリジン類の N-アルキル化反応 (北大工) ○今井仙造・高橋 譲・伊藤光臣・鈴木 章
- 1A04. HF-BF₃ 触媒によるフェノールとアルキルベンゼンのトランスアルキル化反応(2) (北大工) ○田尻千尋・高橋行雄・米田徳彦・鈴木 章
- 1A05. 二塩基酸無水物と ω -アセチルアミノカブロン酸との混合コルベ電解 (北大工) ○小林雄司・高田善之
- 1A06. 温度勾配下における α -パラフィンの結晶配向 (北大工) 林 治助
- 1A07. 酸素酸化精製効果に及ぼす蒸解条件の影響 (北大工) 林 治助○萱場 甚・戸坂罔夫
- 1A08. 「SO₂+MgSO₄ 蒸解法」木材細胞膜のポーラス構造と溶出リグニンの分子量分布 (北大工) ○鈴木 勉・戸坂罔夫・林 治助
- 1A09. 製紙活性炭によるチオシアノン酸イオンの吸着除去 (沼津高専・静岡工大) ○勝沢英夫・近藤 功・小林純一
- 1A10. ニッケルジチゾン錯体の付加錯体生成反応に対する熱力学的検討 (北大工) ○佐藤一晴・星 座・四ツ柳隆夫・青村和夫
- 1A11. Co(II), Co(III) と 4-(2-pyridylazo)-resorcinol(PA R), 1-(2-pyridylazo)-2-naphthol(PAN) との錯形成反応 (北大理) ○望月 桂・今村 平・伊藤 翼・藤本昌利
- 1A12. Co(II)-xylenol Orange 錯体の Cu(II) による解離反応 (北大理) 山田睦雄

1A13. V(V)とSemi-Xylenol Orangeとの錯形成反応(北大理) ○桜川博康・山田陸雄・藤本昌利

B会場 (13時から)

- 1B01. メスパウアースペクトルの電子計算機処理(北大工) ○大塚雅晴・大橋弘士・諸住 高
- 1B02. β -オキシ水酸化鉄の構造と反応性に対する焼成効果(北大工) ○大橋弘士・黒川一哉・大塚雅晴・諸住 高
- 1B03. FeS-HCl-H₂O系反応とその利用(2)(北大工) 芝山良二・中島和夫・田中時昭
- 1B04. 被照射極低温有機マトリックス中でのベンジルハライドの電子捕獲反応(北大工) ○吉田清美・市川恒樹・吉田 宏
- 1B05. 溶液中イオン反応へのField Emission法の応用(北大工) ○太田康成・野田正治・吉田 宏
- 1B06. キノン-アルコール溶液の吸収スペクトルと光化学反応(北大工) ○水田敏彦・野田正治・吉田 宏
- 1B07. AES-SIMS-FDSによる表面反応の同時測定(北大工) ○柿林博司・毛利 衛・渡辺国昭・山科俊郎
- 1B08. 高圧吸収によるチタン水素化合物とその反応性(北大工・北開試) ○佐々木正己・上田映介・上田 成・渡辺国昭・山科俊郎
- 1B09. 塗布法によるTiO₂薄膜の作成(北大工) ○間 裕幸・網島 群・小平紘平・松下 徹
- 1B10. 高圧下におけるタルクの合成(北大工) ○常間地功・網島 群・小平紘平・松下 徹
- 1B11. ベンゾトリアゾールによる70/30黄銅の腐食抑制(北大工・U.B.C) ○能登谷武紀・G. W. Poling
- 1B12. 複合前処理による鋼の腐食抑制(北大工) 能登谷武紀
- 1B13. シュウ酸添加硫酸溶液中で生成するアルマイト皮膜の性質(北大工) ○高橋英明・永山政一

第2日(2月3日)

A会場 (9時30分から)

- 2A01. パナジウム(V)-PRA-ゼフィラミン錯体のイオン対抽出(北大工) ○多鹿功豊・星野 仁・四ツ柳隆夫・青村和夫
- 2A02. コバルト- α -PAN-4-S錯体のイオン対抽出(北大工) ○和田幸一・四ツ柳隆夫・青村和夫
- 2A03. 第四級アンモニウムイオンによるニッケル(II)ジチオシュウ酸錯体のイオン対抽出(北大工) ○松永英之・四ツ柳隆夫・青村和夫
- 2A04. 原子吸光法によるテルルの定量(北大理) 多賀光彦○神 和夫・吉田仁志・暮目清一郎
- 2A05. α, β -ジヒドロキシアゾ化合物を用いる銅(II)の吸光光度定量—過酸化水素-マンガン(II)溶液による過剰試薬の分解(北大理) 菅原正雄○六川雄一・神原富民
- 2A06. シッフ塩基による金属の微量定量法(VII) 2-ピリジンアルデヒド-2'-オキシ-5'-メチルアニルによるニッケル(II)の吸光光度定量法(北教大札幌) ○懸田祐介・坂本美佐子
- 2A07. キシリジルブルとトリトンX-100を用いるマグネシウムの吸光光度定量(室蘭工大) 室住正世・渡辺寛人○田中裕晃
- 2A08. 銅電解液中のヒ素の溶媒抽出(北大工) ○小林 満・永井忠雄
- 2A09. フェロン法によるFe(III)の分析—Fe³⁺イオンの加水分解反応の検討(北大工) ○田村紘基・佐藤泰文・永山政一
- 2A10. *t*-Butyldimethylsilyl基によるステロイドアルコールの選択的保護とその分析化学的応用(北大薬) 木村道也○山本敬夫

(13時から)

- 2A11. 海水中のバリウムの表面電離質量分析(室蘭工大) 室住正世・中村精次○水戸部博志
- 2A12. 超微量鉛の表面電離質量分析(室蘭工大) ○湯浅光秋・中村精次・室住正世
- 2A13. 液状イオン交換体-PVC膜電極の性質とビスマスの定量への応用(北大理) ○大関邦夫・神原富民
- 2A14. ポーラログラフ電極水銀と溶存酸素の相互作用(北大医) ○錫谷 徹・腹内善悟
- 2A15. 微量金属の溶媒抽出—ストリッピングボルタンメトリー(富山大教育) 原 稔
- 2A16. パルスポーラログラフ法による貯蔵肉中の不揮発性ニトロソアミンの定量(北大理・コロラド州立大) ○長谷部清・J. Osteryoung
- 2A17. 1,10-フェナントロリンの陽極波ポーラログラフ—(北大理) ○菅原正雄・神原富民

- 特別講演(15~17時)
- 1. 金属キレートにおける溶質-溶媒間相互作用(広島大理) 山本勇麓
- 2. 化学情報の問題点とその対策(阪大産研) 湯川泰秀

B会場 (9時30分から)

- 2B01. SiO₂-CaO触媒の触媒特性(室蘭工大) 向井田健一○寺崎博裕
- 2B02. 酸化セリウムの触媒作用(北大理) ○池田教正・萩原秀昭・飯塚時男・服部 英・田部浩三
- 2B03. 酸化タングステン触媒とした1-Buteneの反応(北大理) ○浅田順義・服部 英・田部浩三
- 2B04. Si₃(PO₄)₄の酸性質と触媒作用(北見工大) 多田旭男○伊藤英信・近藤 仁
- 2B05. アセトンのPtでの電解還元(北大理) 喜多英明○斎藤兼二
- 2B06. 金属硫化物による硫化水素の熱分解(北大工) 木内弘道・岩崎徹夫・田中時昭
- 2B07. 酸化物触媒上におけるCS₂の加水分解反応(2)(北大工) ○鎌中隆義・杉岡正敏・青村和夫
- 2B08. 硫黄処理触媒(3) 金属イオン交換Y型ゼオライト触媒に対する硫化水素の処理効果(北大工) ○細坪富守・杉岡正敏・青村和夫
- 2B09. HDOによる水吸着系の赤外研究—Zn置換Y型ゼオライト(北開試) ○三上康子・日野雅夫
- 2B10. Co-CN-ジイミン系錯体の反応活性(北見工大) 新井義夫○見陣章彦

(13時から)

- 2B11. Bi-Mo触媒上でのアクロレイン酸化反応における水蒸気の影響(北大工) ○二谷龍治・小林正義・小林晴夫
- 2B12. CoO触媒によるNO-CO反応の過渡挙動(北大工) 小林正義○岡本恭一・武上 博・小林晴夫
- 2B13. CoO触媒によるN₂O分解反応(北大工) 小林正義○原 一樹・小林晴夫
- 2B14. 光触媒反応中の伝導度測定(北大触研) ○守山栄一・田中慶一・宮原孝四郎
- 2B15. α -および β -チタン酸上のCu²⁺の状態とその触媒作用(I)(北大触研) ○鈴木龍雄・数坂昭夫・田中慶一・宮原孝四郎
- 2B16. α -および β -チタン酸上への酸素吸着(北大触研) ○渡辺綱雄・数坂昭夫・田中慶一・宮原孝四郎
- 2B17. ZnS上での特異的酸素同位体交換反応(北大触研) 山崎明子○数坂昭夫・佐藤真理・田中慶一・宮原孝四郎

参加登録費 一般:1,200円, 学生:600円(いずれも要旨集代を含む) 会期当日受付でお支払い下さい。

連絡先 060 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学理学部化
学科 大関邦夫 (電話 (011) 711-2111, 内 2710)

北海道支部 1977 年夏季研究発表会

共催 日本化学会北海道支部ほか

日 時 7月30日(土), 31日(日)

会 場 函館工業高等専門学校 (函館市戸倉町 226, 電話
(0138) 57-4271)

(講演は 1 件あたり討論を含めて 15 分)

A会場 (9時から)

- A01. 放射線化学的手法によるジフェニルメチルラジカル, ド
リフェニルメチルラジカルの生成 (北大工) ○泉田竜男・田
辺義夫・市川恒樹・吉田 宏
- A02. Copoly (Glu, Cys, Leu) のベンゾイルアルギニン-*l*-
ニトロアニリドの加水分解作用 (北大理) ○海部勝晶・駒井
喬・野口順蔵
- A03. オルガノボランの化学 (71) オレフィンのヒドロアリル
化反応 (北大工) ○今井仙造・石戸谷昌洋・原 正治・鈴木
章
- A04. 無水フッ化水素中でのケトンとアルコールの反応 (北大
工) 米田徳彦・高橋行雄○鈴木弘之・鈴木 章
- A05. フェニルエチルアミン誘導体の求電子置換反応(北大工)
松崎 勉・折登一彦・伊藤光臣
- A06. ベンツイミダゾール誘導体の合成 (1) 2-*ω*-アミノアル
キル-および 2-*ω*-グアニジノアルキル-ベンツイミダゾール
の合成 (北大工) 高田善之・横田和明○恵花孝昭
- A07. AlEt₃Cl 存在下での環化重合についての GPC による研
究 (北大工) ○小室恒二・横田和明・高田善之
- A08. アルキルフェノールの脱アルキル (日大生産工) 岩崎三
郎・二宮 誠・穴沢一郎・稲村規生・鈴木庸一
- A09. 経験的力場計算の有機化学への応用 (6) ジェンへの親
電子の渡環付加に関する立体化学的解釈(北大理・花王石酸)
大沢映二・相上紘二・稲本善昭
- A10. パルプの酸素酸化精製(北大工) ○萱場 基・戸坂園夫・
林 治助
- A11. SO₂+MgSO₄ 蒸解法(北大工) ○鈴木 勉・大橋 卓・
戸坂園夫・林 治助
- A12. セルロースの結晶構造 (北大工) ○大倉尚之・林 治助
- A13. PVA 繊維の微細構造-加水分解による分子量分布の変
化 (北大工) 運史史郎○林 治助
(15時から)
- A14. 高沸点脂肪酸エステル類の極性カラムによるガスクロマ
トグラフィー (北大水産) ○板橋 豊・高木 徹
- A15. C₂₇₋₂₉ ステリンの脂肪酸エステルガスクロマトグラフ
ィーによる炭素数, 不飽和度別分離 (北大水産) 高木 徹○
坂井 晃
- A16. 動・植物油中のドコセン酸の分布とその健康への影響
(北大水産) ○高木 徹
- A17. 油脂・脂質中の微量過酸化物の比色定量 (北大水産) 高
木 徹○光野雄一郎
- A18. 数種の溶剤による魚油の抽出速度 (北大水産) ○三木正
之・酒井 信・榎木 勇・鈴木 翼
- A19. サルノコシカケ科 3 種の脂質成分 (東学芸大) ○遠藤節
子・石島恵美子・石井郁子・金山幸代・三橋達雄
- A20. ヒザラガイの脂質成分 (東学芸大) ○山本進一・三橋達
雄・遠藤節子
- A21. ウミホタルの脂質成分(東学芸大・東教育大) ○三橋達雄
杉山 登・遠藤節子
- A22. ホタルイカおよびスルメイカ内臓部の脂質成分 (東学芸

大・東教育大) ○西尾明子・三橋達雄・杉山 登・遠藤節子
B会場 (9時から)

- B01. 水中に懸濁したカオリン粒子の高分子電解質による凝集
機構 (北大水産) 鈴木 翼
- B02. 海水試料保存中のカルシウム濃度の変化 (北大水産) 角
皆静男・渡辺康憲
- B03. Pb-210 による噴火湾堆積物 (北大水産) 角皆静男・田
中教幸
- B04. 二, 三の北海道産陶石 (北工試) ○萩原洋一・皿井博美
・遠藤三男・菊池博男
- B05. 砕石廃粉の脱粘材としての利用 (北工試) ○菊池博男・
遠藤三男・皿井博美・萩原洋一
- B06. 海水中の銅の存在状態 (北大水産) 松永勝彦○根岸正美
深瀬 茂
- B07. 沿岸海域での銅の溶存形 (北大水産) 松永勝彦○根岸正
美・深瀬 茂
- B08. 地球表面における水銀の動き (北大水産) ○松永勝彦・
深瀬 茂
- B09. 河川水中の鉄の溶存状態 (北大水産) 深瀬 茂○松永勝
彦
- B10. 降水中のホウ素 (北大水産) ○中谷 周・西村雅吉
- B11. 電着法による天然水中の微量ラジウムの定量法 (北大水
産) 角皆静男・原田 晃・南川雅男
- B12. 鉄鋼中の極微量リンの定量 (日本製鋼室関研) 鈴木存範
○小沢幸男
- B13. カントバッグによる低合金鋼中の S の定量分析における
共存元素の影響 (日本製鋼室関研) 鈴木存範○西山昇三
(15時から)
- B14. 水酸化鉄の酸溶解速度に影響を与える因子 (北大工) ○
大島 優・田村紘基・永山政一
- B15. キシリジルブルー-I ヒトリトン X-100 を用いるマグネシ
ウムの吸光光度定量-マグネシウムキレート濃縮分離 (室
蘭工大) 室住正世・渡辺寛人○田中裕晃
- B16. クロムおよびオキシ酸を含む三元錯体の電導度測定によ
る検討 (北大理) 吉田仁志○林田一良・養目清一郎
- B17. N-2-アミノエチル-N-2-ヒドロキシエチルジチオカル
バミン酸の銅(II)およびニッケル(II)錯体の安定度定数 (北
大理) 菅原正雄○広田正幸・神原富民
- B18. 還元気法によるテルルの原子吸光分析 (北大理) 多賀
光彦○神 和夫
- B19. 温度測定装置の試作とその応用 (北大理) 吉田仁志○新
井英志
- B20. クロム(III)-PAR 錯体の生成反応とそのイオン対抽出
(北大工) ○星野 仁・四ツ柳隆夫・青村和夫
- B21. テトラフェニルボルフィントリスルホン酸(TPPS)を用
いる超微量パラジウムの吸光光度定量 (北大工) ○五十嵐淑
郎・四ツ柳隆夫・青村和夫
- B22. フレームレス原子吸光法による海水中の銅の定量法の検
討 (北大水産) 西村雅吉○増田宣泰・乗木新一郎
- C会場 (9時から)
- C01. 金属酸化物触媒上における CS₂ の加水分解反応 (3) (北
大工) ○鎌中隆義・杉岡正敏・青村和夫
- C02. マンガン・ノジュールの有効利用 (6) マンガン・ノジ
ュールを触媒とするアルコールおよび炭化水素の脱水素反応
(北大工) 松尾清隆・新田昌弘・青村和夫
- C03. マンガン・ノジュールの有効利用 (7) マンガン・ノジ
ュールの重金金属イオン捕集剤としての可能性 (北大工) 新田
昌弘・大和明彦・松尾清隆・青村和夫
- C04. Cu-SiO₂ 系触媒によるメタノールリフォーミング反応
(北大工) 小林晴夫・水内千秋・竹沢陽恒・成田 浩

- C05. MgO および CaO を触媒とするシクロヘキサジエンの水素化および脱水素 (北大理) 島 尋士・服部英・田部浩三
- C06. 銀触媒に対する助触媒効果(4) 硫酸塩添加による比表面積変化 (室蘭工大) 菖蒲明己・大水 淳・加納久雄
- C07. シリカ-アルカリ土類金属酸化物系の触媒特性(2) (室蘭工大) 寺崎博裕・向井田健一
- C08. 白金電極におけるブタジエンの水素による還元(北大理) 喜多英明○久保田憲章・島津克明
- C09. Al_2O_3 - Fe_2O_3 系混合金属酸化物による SO_2 と CO の接触反応 (北大工) 鹿野弘二・古市隆三郎・石井忠雄
- C10. Characteristics of a Gradientless Laboratory Reactor (Royal Inst. Tech. Sweden) Rolf Walter
- C11. 金属硫化物による硫化水素からの水素の回収 (北大工) ○木内弘道・岩崎徹夫・田中時昭
- C12. ニケイ酸リチウムガラスの直流電気伝導 (新潟大工) 滝沢一貴
- C13. (Sr, La)MnO₃ による一酸化炭素の接触酸化(函館高専) 清水 崇・森若幸弘・福島 純
—(15時から)—
- C14. 高圧下における VO₂ 単結晶の作成 (北大工) ○常間地 功・島田志郎・小平紘平・松下 徹
- C15. ¹H および ¹³C-NMR による石炭の構造パラメータ(北大工) 宮沢邦夫・横野哲朗・真田雄三
- C16. 石炭の光学的異方性 (北大工) 根本謙一・丸山敏彦・真田雄三
- C17. 石炭のアルコール・アルカリ処理による溶媒可溶化(2) 発生ガス分の組成と溶媒抽出率 (北大工) ○真壁正存・大内公耳
- C18. 泥炭フミン酸のナトリウムアマルガムによる分解 (北見工大) ○岡 宏・佐々木満雄
- C19. シュールオイルの化学構造—石炭液化生成物およびタールサンドピチュウメントとの比較(北開試・北大工) ○吉田諒一・吉田 忠・井川康子・真壁正孝・中田善徳・長谷川義久
- C20. ¹³C- および ¹H-NMR による石炭液化物の構造解析法 (北開試) ○吉田 忠・吉田諒一
- C21. 回分式オートクレーブによる石炭の高圧水素化分解—石炭粒子径の影響(2) 配合油を用いた場合(北開試) 吉田諒一 ○石田 薫・吉田 忠・奥谷 猛・横山慎一・上田 成・吉田雄二
- C22. 一酸化炭素と水素による石炭の液化 (北開試) ○横山慎一・奥谷 猛・中田善徳・上田 成・吉田 忠・吉田諒一
- 特別講演 (13時から)
1. ホルモンの化学 (50分) (北大水産) 石原義雄
 2. 10年後の石油・石油化学 (50分) (北大工) 青村和夫
- 参加登録費 一般 1,200円, 学生 600円 (予稿集共)
- 懇親会 30日18時から KG スカイバブ (函館市東山町) で開催
会費 3,500円
- エキスカンション 31日下記要領で開催, 会費 1,000円 (含昼食代) 函館湯川温泉(9時)—函館市清掃工場—終末処理場—流通センター—横津岳—函館駅前(15時)
- 連絡先 040 函館市戸倉町 226 函館工業高等専門学校 長谷川俊勝 (電話 (0138) 57-4271)

Ⅵ 日本化学会創立百周年・ 北海道支部設立三十周年記念事業

7月24日 9時30分～

北海道支部1978年夏季研究発表会

(北海道支部設立三十周年記念)

於・北海道大学工学部

7月25日

10時～ 記念講演

於・北海道新聞ホール会議室

1. 日本における化学教育の夜明け

立教大学名誉教授

奥野久輝氏

司会 北海道大学理学部教授

藁目清一郎氏

2. 日本の新しい化学工業の行きかた

財団法人野口研究所常務理事

鈴木明氏

司会 北海道大学工学部教授

石井忠雄氏

3. 化学に対する将来の展望

北海道大学名誉教授

丹羽貴知蔵氏

司会 北海道大学理学部教授

下地光雄氏

15時～ 記念式典

於・北海道新聞ホール会議室

18時～ 記念祝賀会

於・札幌グランドホテル

7月26日 9時30分～

北海道地区化学教育研究協議会

(北海道支部設立三十周年記念・北海道地区化学教育研究協議会20周年記念)

於・北海道大学教養部

日本化学会北海道支部設立三十周年 記念式典次第

昭和53年7月25日

於・北海道新聞ホール会議室

- | | | |
|----------------|---------------------------|------|
| 一、開会の辞 | 記念式典小委員長
北海道大学理学部教授 | 下地光雄 |
| 一、支部長式辞 | 日本化学会北海道支部長
北海道大学理学部教授 | 野口順蔵 |
| 一、支部三十年の歩み | 北海道大学工学部教授 | 松下徹 |
| 一、来賓祝辞ならびに祝電披露 | | |
| 一、物故者慰霊黙禱 | | |
| 一、感謝状ならびに記念品贈呈 | | |
| 1) 功勞感謝状 | | |
| 2) 貢獻感謝状 | | |
| 3) 団体感謝状 | | |
| 一、閉会の辞 | | 下地光雄 |

功 勞 者

(敬称略)

田 所 哲太郎	大 塚 忠比古	大 塚 博	堀 内 寿 郎
佐 藤 久 次	坂 元 義 男	岡 本 剛	丹 羽 貴知蔵
武 谷 愿	緑 川 林 造	東 健 一	渡 辺 貞 良
入 江 遠			

貢 献 者

青 村 和 夫	石 井 忠 雄	伊 藤 英 治	岩 瀬 政 吉
奥 田 五 郎	柿 本 七 郎	勝 井 信 勝	加 納 久 雄
管 孝 男	神 原 富 民	木 村 雅 男	久 郷 昌 夫
小 林 晴 夫	斉 藤 肇	佐々木 満 雄	佐 藤 忠 正
佐 藤 俊 夫	沢 村 浩 光	高 倉 英 太 郎	高 杉 直 幹
高 田 善 之	田 部 浩 三	永 山 政 一	西 村 雅 吉
野 口 順 蔵	馬 場 宏 明	藁 目 清 一 郎	藤 本 昌 利
本 多 辰 也	正 宗 直	松 下 徹	松 本 毅
宮 原 孝 四 郎	森 田 修 吾	横 川 英 夫	吉 田 宏
吉 村 克 二			(アイウエオ順)

貢 献 団 体

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 三井東圧化学株式会社砂川工業所 | 11. 北海道糖業株式会社北見製糖所 |
| 2. 新日本製鉄株式会社室蘭製鉄所 | 12. 北海道曹達株式会社幌別工場 |
| 3. ニッカウイスキー株式会社余市工場 | 13. 北海道炭鉱汽船株式会社化成工業所 |
| 4. 山陽国策パルプ株式会社旭川工場 | 14. 財団法人北海道環境化学技術センター |
| 5. 合同酒精株式会社 | 15. 出光興産株式会社北海道製油所 |
| 6. 王子製紙株式会社苫小牧工場 | 16. 株式会社日本製鋼所室蘭製作所 |
| 7. ホクレン農業協同組合連合会
開発研究部 | 17. 北海道電力株式会社 |
| 8. アジア石油株式会社函館製油所 | 18. 日本化学飼料株式会社 |
| 9. 日本石油精製株式会社室蘭製油所 | 19. 日本新薬株式会社札幌工場 |
| 10. 株式会社ほくさん研究所 | 20. 雪印乳業株式会社札幌研究所 |

日本化学会創立百周年・
北海道支部設立三十周年記念事業実行委員会

野口順蔵	(北大理)	記念事業実行委員長
松下徹	(北大工)	記念出版小委員長
石井忠雄	(#)	記念講演会小委員長
勝井信勝	(北大理)	記念夏季研究発表会担当
青村和夫	(北大工)	記念祝賀会小委員長
藁目清一郎	(北大理)	記念化学教育研究協議会担当
下地光雄	(#)	記念式典小委員長
田部浩三	(#)	記念出版小委員
永山政一	(北大工)	記念出版小委員
鈴木章	(#)	記念出版小委員
古市隆三郎	(#)	記念出版小委員
高杉光雄	(北大理)	記念出版小委員
佐々木満雄	(北見工大)	北見地区委員
西村雅吉	(北大水産)	函館地区委員
岩瀬政吉	(釧路高専)	釧路地区委員
佐藤俊夫	(北開試)	札幌地区委員
諏訪宣雄	(旭川高専)	旭川地区委員
加納久雄	(室工大)	室蘭・苫小牧地区委員
吉田宏	(北大工)	記念事業総務
戸倉清一	(北大理)	記念事業総務
桜井雅男	(#)	記念事業会計

編 集 後 記

本年は日本化学会創立百周年および同北海道支部設立三十周年にあたる。このたび7月24日、25日、26日の3日間にわたり記念事業が挙行されることになり、その一環として記念誌を発行することになった。

編集にあたっては、支部の30年にわたる活動の記録をなるべく正確に収録することを目標とした。しかし、支部が参画した研究発表会の内容をすべて収録すると、あまりに膨大になるので、講演題目については、主として支部主催のものに限定し、資料集の中にまとめた。また、支部設立初期の時代には、正確な活動記録が少なかったため、資料の収集はきわめて困難であった。この部分は止むを得ず不十分のまま収録せざるを得なかったので、何卒御容赦をお願いしたい。

本誌の表題として、初代支部長太秦康光先生に揮毫をお願いしたところ、御快諾いただいたばかりでなく、支部三十周年を記念して漢詩「偶成」を御寄稿いただいた。深く感謝申し上げます。先生には本誌がまだ完成に至らない5月31日に永眠された。心から御冥福をお祈りする。

支部が設立されるまでの古い時代、設立の初期およびその後の期間における支部の回顧について、丹羽賞知蔵、大塚 博、久郷昌夫の各先生に執筆をお願いしたところ、大変御多忙中にもかかわらず快くお引き受けいただいた。これらの方々をはじめ、本誌発行にあたって御援助と御助言をいただいた野口順蔵支部長ほか記念事業実行委員各位に厚くお礼を申し上げます。

昭和58年7月



三十周年記念誌編集委員会

